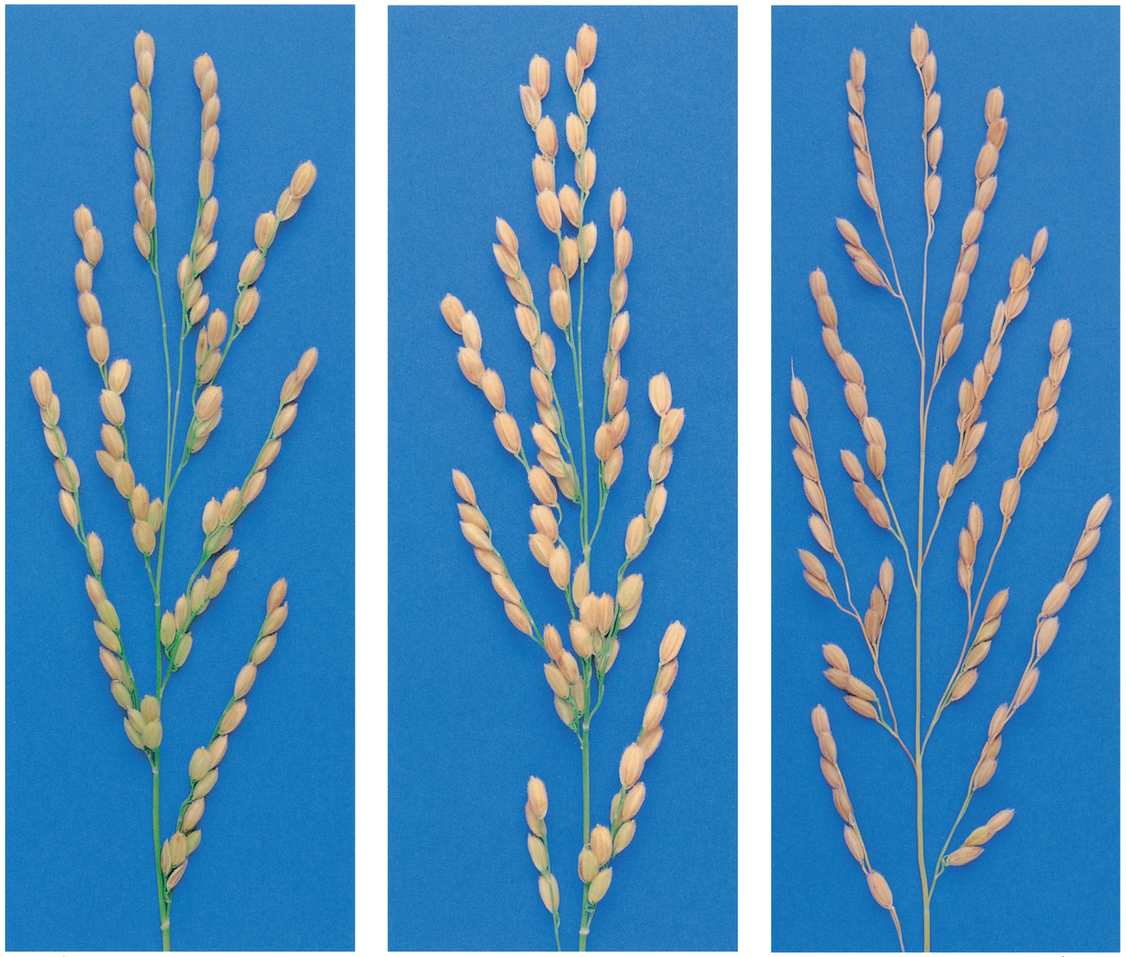
3.5　4　4.5

葉色見本

（あくまで簡易的な見本です。葉色版はJAで購入できます。）

[黄化籾割合と刈取り適期]



刈始め　80%　　刈取り適期〈黄化籾割合〉90%　　刈遅れ　95%

JA白山

本店	☎272-3333	自動車センター	☎272-0444
営農経済部	☎273-5277	蝶屋支店	☎278-2315
〃	FAX 273-2758	つるぎ支店	☎272-1515
よらんかいねぇ広場	☎273-3002	大神支店	☎272-0620
本店農機センター	☎272-3416	手取支店	☎255-5001

二〇二二年　営農のてびき　JA白山

2022 営農のてびき

白山石川営農推進協議会

稲 作 の て び き

天候の急変に対応した稲作とし、高品質米を生産しましょう！

重 点 事 項

【斑点米（カメムシ被害）防止】
- 的確な防除の徹底で品質向上

【乳白粒防止】
- 中干しの適期実施による籾数の適正化
- 高温登熟対策で追加穂肥の施用
- 土づくりの実施

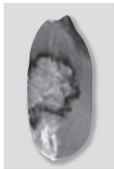
【胴割粒防止】
- 水管理と計画的な刈取り

《白山石川米基準》

品質の高位安定化を図り、≪白山石川米基準≫の達成を目指す。

整粒

【外観品質】
- 着色粒（斑点米）　ゼロ
- 乳白粒　３％以下
- 胴割粒　２％以下


部分着色粒
（カメムシ）

しっかり記帳、安全・安心米づくり！

◎生産履歴の記帳運動を引き続き徹底することにより、農産物の安全性を保証し、消費者が安心して買える米づくりに努めましょう。

◎農薬の使用にあたっては、容器等のラベルを確認の上、使用基準を守って適正に使用し、忘れずに記帳しましょう。

◎使用する作物以外に農薬がかからないように細心の注意を払いましょう。

◆ 2022年 金沢市中央卸売市場 青果部の休日表 ◆

1月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	3	4	5 初市	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19 臨時休市	20	21	22
23/30	24/31	25	26 臨時休市	27	28	29

2月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2 臨時休市	3	4	5
6	7	8	9 臨時休市	10	11 臨時開市	12
13	14	15	16 臨時休市	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2 臨時休市	3	4	5
6	7	8	9 臨時休市	10	11	12
13	14	15	16 臨時休市	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30 臨時休市	31		

4月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6 臨時休市	7	8	9
10	11	12	13 臨時休市	14	15	16
17	18	19	20 臨時休市	21	22	23
24	25	26	27 臨時休市	28	29 臨時開市	30

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11 臨時休市	12	13	14
15	16	17	18 臨時休市	19	20	21
22	23	24	25 臨時休市	26	27	28
29	30	31				

6月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1 臨時休市	2	3	4
5	6	7	8 臨時休市	9	10	11
12	13	14	15 臨時休市	16	17	18
19	20	21	22 臨時休市	23	24	25
26	27	28	29 臨時休市	30		

7月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6 臨時休市	7	8	9
10	11	12	13 臨時休市	14	15	16
17	18	19	20 臨時休市	21	22	23
24/31	25	26	27 臨時休市	28	29	30

8月

日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3 臨時休市	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15 臨時休市	16 臨時休市	17	18	19	20
21	22	23	24 臨時休市	25	26	27
28	29	30	31 臨時休市			

9月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7 臨時休市	8	9	10
11	12	13	14 臨時休市	15	16	17
18	19	20	21 臨時休市	22	23 臨時開市	24
25	26	27	28 臨時休市	29	30	

10月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	3	4	5 臨時休市	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19 臨時休市	20	21	22
23/30	24/31	25	26 臨時休市	27	28	29

11月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9 臨時休市	10	11	12
13	14	15	16 臨時休市	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30 臨時休市			

12月

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7 臨時休市	8	9	10
11	12	13	14 臨時休市	15	16	17
18	19	20	21 臨時休市	22	23	24
25	26	27	28	29 止市	30 臨時休市	31

○ 臨時休市　□ 臨時開市　＊１月５日初市　＊12月29日止市

「耕す」
牛による荒起こし

藤井　信之

昭和15年に能美郡川北村中島の中川幸一が、中幸式パイプ軽量犂を考案して馬耕労力を軽減させ、戦場へ男子を送り出した留守の、女子による馬耕を容易にした。

この時期になると馬は戦争に駆り出され、畜力は牛に代わった。

戦後畜産用を兼ねて、和牛を飼育する家もあらわれ、牛耕が行なわれたが、やがて動力耕耘機に席をゆずることになった。

目　次

稲作のてびき

- 2022年度の基本方針
- 白山石川グレードアップ米づくり運動について …… 2～3
- 2022年度水稲栽培のポイントについて ……4
- 深耕について ……5
- 収量構成要素から組み立てる栽培管理 …… 6～7
- 漏生イネ対策について ……8
- コンバイン後方からの籾排出を少なくするには？……9
- 「GAP」でより良い農業経営を！ …… 10～11
- 農作業安全の徹底を!! …… 12～15
- 農業に伴う廃棄物は適切に処理しましょう！ ……16
- 救急車の呼び方 ……17
- イノシシ被害対策について …… 18～19
- 野焼きについて ……20
- 道路の泥汚れ防止について ……21
- 県育成登録品種の利用について ……23
- 3月の作業（健苗づくりの準備）…… 24～25
- 4月の作業（育苗管理の手順、基肥）…… 26～29
- 5月の作業（田植、水管理、病害虫防除）…… 30～31
  - ○水稲除草剤処理一覧表 …… 32～33
  - ○水稲除草剤の使用時期の目安…… 34～35
  - ○水稲除草剤の登録と使い分け、おすすめ除草体系 … 36～37
- 6月の作業（中干し、中間追肥）…… 38～39
  - ○除草の徹底によるカメムシ対策について …… 40～41
- 7月の作業（穂肥、水管理）…… 42～45
  - ○防除体系 …… 46～47
- 8月の作業（収穫時期の管理）…… 48～49
- 9月の作業（適正な乾燥調製）……50
  - ○異物混入防止の徹底 …… 51～53
- 10月の作業（土づくりの実践）……54
  - ○土壌分析結果と収量調査結果……55
  - ○土壌分析による収量アップへの取り組み ……56
  - ○基肥・穂肥肥料の特徴 ……57
  - ○育苗期病害、いもち防除対策、箱剤の注意点 …… 58～59
  - ○斑点米カメムシ類対策＜特集＞ …… 60～61
  - ○雑草対策
    （水稲除草剤使用時の注意点、侵入性雑草、畦畔雑草、刈跡除草による難防除雑草対策）…… 62～67
  - ○近年発生が見られる被害粒対策 …… 68～69

参考資料

- 令和3年産水稲の生育概況 …… 72～75
- 令和3年産大豆の生育概況 ……76
- 令和3年産大麦の生育概況 ……77
- 水稲品種別栽培ごよみ…… 78～84
  コシヒカリ、ゆめみづほ（石川43号）、五百万石、カグラモチ
- 水稲直播栽培ごよみ
  （不耕起V溝、鉄コーティング）…… 85～87
- 大豆 狭畦栽培ごよみ……89
- 大豆栽培ごよみ …… 90～93
- 秋そば栽培ごよみ …… 94～95
- 大麦栽培ごよみ …… 96～97
- スマート農業への一歩 …… 98～99
- ドローンで農薬散布するために（基幹防除体系）　100～101
- 高密度播種育苗田植特集 ……102～103
- 稲作作業省力化を目指して！……104～105
- 一発肥料 使った後も気配りを！ …… 106
- 肥料銘柄一覧表 ……107～110
- 農薬の使用基準一覧……111～125
- 令和３年産水稲生産履歴記録簿【移植用】見本 ….127～128
- チャレンジ園芸！チャレンジ収益UP！ ……129～135
  ブロッコリー、白ねぎ、丸いも
- 「よらんかいねぇ広場」出荷者大募集 …… 136

白山石川グレード　アップ米づくり運動

〔10プラス6つの推進技術〕を基本に〔5つの1か月対策〕を実践し、品質向上と単収確保を目指しましょう。

1 10プラス6つの推進技術って・・・・・なに？

お米の品質を落とす主な要因には、①米粒が白濁する乳白粒、②米粒に亀裂が入る胴割粒、③カメムシによる斑点米があげられます。

それらの発生を抑え、きれいなお米に育てあげるためには、必要な技術がいくつもあります。

きれ・うま運動では、10の技術の実践を推進し、高品質なお米の生産を目指しています。

下の表で、1つずつ確認してみてください。たぶん、日頃からみなさんが実践されている技術ばかりのはずです。そこに、白山石川地区の課題に応じて、地区独自の6つの目標を加えて、推進していきます。

10プラス6つの推進技術

★どれだけ実践しているか、チェックしてみましょう！

	推進技術	目標	6つの地区独自目標	チェック
1	播種量（うす播きの励行）	• 1箱当たり120g（太植による過剰生育の抑制）		
2	育苗日数（健苗の育成）	• 播種から田植えまで**1か月以内**（初期育成の確保）		
3	植付（細植えの励行）	• 1株当たり3～4本（適正茎数の確保）	①3cm程度の浅植え	
4	栽植密度（優良茎の確保）	• 1坪当たり60株以上（晩植は70株）（適正茎数の確保）	②活着後の浅水管理 2～3cm	
5	適正な施肥（栄養凋落防止と登熟向上）	• 高温登熟に対応した基肥一発施肥への切り替え • 生育状況に応じた追加穂肥の実施		
6	田植え時期（早植えの防止）	• 5月田植えの励行（過剰生育の防止）		
7	中干し・溝切り（遅発分げつの抑制）	• 田植え**1か月後**からの実施（過剰生育防止） • 中干し期間**1か月**（コシヒカリ）の遵守		
8	除草・防除（畦畔等の除草とカメムシ防除の徹底）	• 7月上旬までの追加除草 • 水稲の生育ステージにあわせた適期防除の実施	③春先からの除草管理徹底 ④剤型・出穂に応じた防除	
9	水管理（飽水管理の徹底）	• 中干し後から出穂までの**約1か月**（コシヒカリ）の飽水管理 • 出穂から刈取り直前までの**1か月以上**の飽水管理		
10	刈取時期（適期刈取りの励行）	• 籾の黄化程度に応じた刈取り		
	土づくり		⑤深耕の目安は深さ15cm ⑥土づくり資材によるケイ酸不足の改善	

2 5つの1か月対策って・・・・・なに？

「水稲」は「水の稲（みずいね）」と書くとおり、お米の生産にとって水は最も重要な要素であり欠かすことのできないものです。その水は、上手に活用することで、お米の食味・品質・収穫は安定します。

5つの1か月対策とは、お米の生育期間中の水管理を中心とした管理対策を、1か月ごとに区切りシンプルに整理したもので、きれ・うま運動の大きな技術柱として、みなさんと一丸となって推進していきます。

5つの1か月対策のポイント

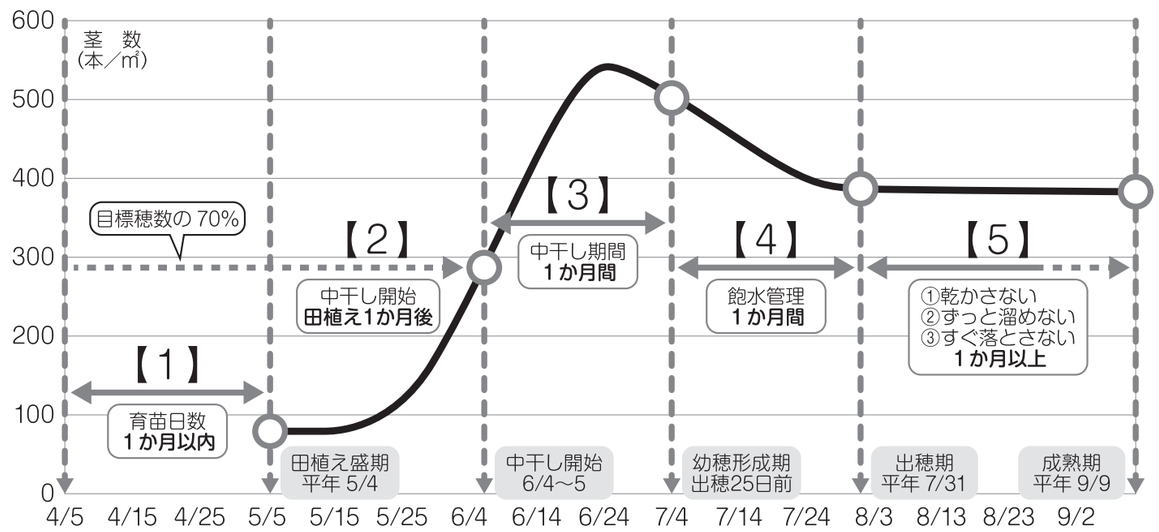
【1】育苗日数は、**1か月以内**（20～25日間）

【2】中干し開始は、田植え**1か月後**

【3】中干し期間は、**1か月間**（コシヒカリ）

【4】中干し後から出穂までは、**約1か月間**（コシヒカリ）の飽水管理

【5】出穂から刈取り直前までの**1か月以上**は、
①乾かさない・②ずっと溜めない・③すぐ落とさない



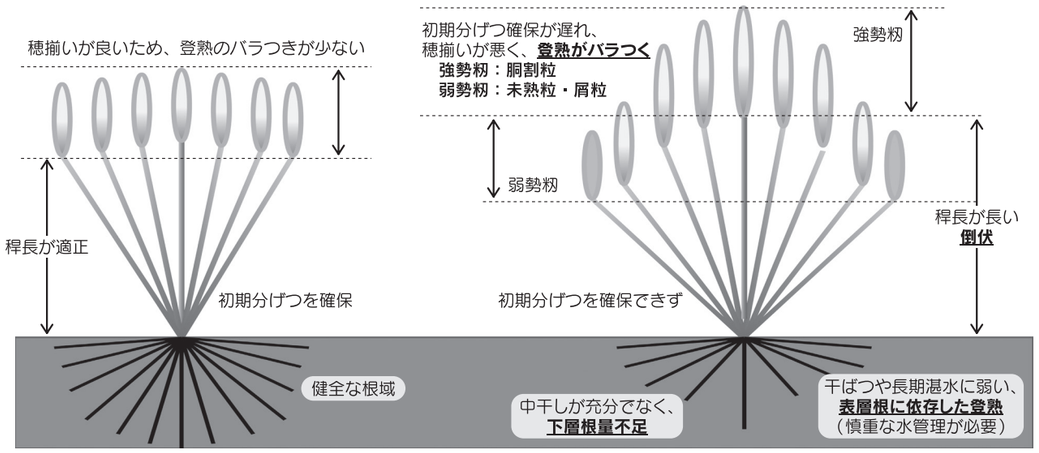
〔図〕コシヒカリの茎数の推移

2022年度水稲栽培のポイント

品質・収量を高める月ごとの作業

月別	テーマ	ねらい	主な作業
3月	健苗につなげる 的確な播種準備	芽出しが揃いスクスク育つ条件を整えます。	床土調製、種子消毒、浸種・催芽、適期適量播種
4月	素直に育つ 健苗づくり	田植え後、生育停滞の無い健康な苗に仕上げます。	ハウス管理、耕起、代かき、基肥施用
5月	登熟向上を意識した田植え	健全で登熟の良い稲が育つ環境を整えます。	移植、初期水管理、苗箱施薬防除、本田除草
6月	中干し開始は 田植え後1か月	過剰生育を抑えて適正穂数に誘導します。地耐力を高めます。	中干し、溝切り、畦畔等除草、中間追肥、本田防除
7月	生育に応じた （追加）穂肥	出穂後の夏バテを防いで登熟を高めます。	（追加）穂肥施用、飽水管理、本田基幹防除
	斑点米カメムシ類の薬剤防除	稲の生育ステージに合せて薬剤防除を実施します。	
8月	収穫までのきめ細やかな通水管理	稲の活力を維持し終盤の登熟を高めます。胴割粒を防止します。	水管理、収穫、乾燥、調製
9月	適切な乾燥調製作業	整粒歩合を高め、きれいな米に仕上げます。	収穫、乾燥、調製
10月	農の基礎体力向上 土づくり	未来に向けて、営農しやすいほ場を作ります。	土づくり資材等の散布、秋耕

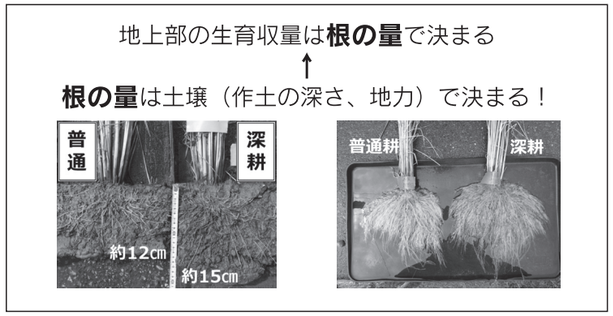
天候に左右されない稲姿を目指しましょう！

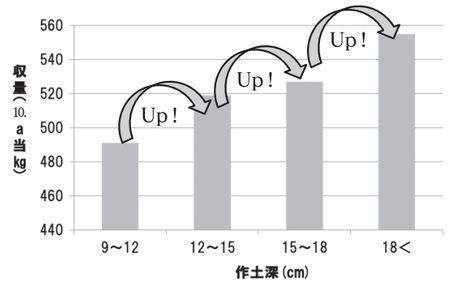


目指す稲姿　　**穂や籾の登熟機能がバラバラ**

深耕していますか？　収量に大きく影響します！

昔から稲作では、**「一寸一合」**という言葉があります。その意味は…
「作土の深さが3cm深くなれば、坪あたり1合、10aで45kg増収する」ということ！





作土深と収量（石川農試定点調査　230点）

深耕を含めた、きちんとした土づくりが収量確保のために必須であることを昔の人は経験的に知っていました。収量品質の安定確保を目指すには、土づくりも含めて、基礎の土壌から改良していくことが基本です！

【じゃあ、深く耕起するには？】

①トラクタ走行速度を遅くし、ロータリ回転数も落として耕起する

昔より作土が浅くなっているのは、馬力が大きくなったことによるスピード化、踏圧が大きくなったことが主な要因です。

トラクタの作業速度・回数と耕起深（富山農試）

作業速度（m/s）	0.1	0.2	0.3	
作業回数	1回	1回	1回	2回
耕起深（cm）	15.3	14.5	13.8	16.8

②秋と春、2回荒起こしを実施する

作業速度を若干上げても、2回起こすことで一定程度の耕起深を確保できます。

③深耕用のインプルメントを活用する

「プラウ」や「スタブルカルチ」等を導入すれば、効率的により一層の深耕が可能です。

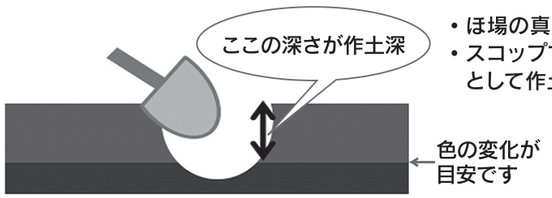
（※一年で一気に深耕すると、下層にあった土が上層に上がり施肥設計を変える必要があるので、毎年少しずつがベスト。）

プラウ

スタブルカルチ

【作土深の計測方法】

実際に自分で作土を測って、深耕に挑戦しましょう！（現状より2～3cm、深さ15～18cmが目標）



- ほ場の真ん中1か所で計測
- スコップで左図の様に穴を掘り、土の色が変わった部分を境目として作土の深さを測ります

深耕を実践しましょう!!

目標収量は確保できていますか？　稲作技術の基本から見直そう！

～収量構成要素から組み立てる栽培管理～

1．収量と収量構成要素

●収量は、４つの要素から成り立ち、各要素の掛け算で表すことができます。

収 量（精玄米重）	＝	A．穂数（本/㎡）	×	B．一穂籾数（粒/穂）	×	C．登熟歩合（%）	×	D．千粒重（g）

コシヒカリの目安

540kg/10a ＝ A 380（本/㎡）× B 74（粒/穂）× C 85（%）× D 22.5（g）

●各要素のうち、どれかの値が増えたり減ったりすることにより、収量が増減します。

●また、A．穂数が多いとB．一穂籾数が減ったり、B．一穂籾数が多いとC．登熟歩合やD．千粒重が下がってしまう、といったようにそれぞれの要素が関係し合っています。

●地域や品種によって目標（目安）となる収量と収量構成要素があるので、これらの目標値に近づくように、生育途中の栽培管理を行いましょう。

2．収量構成要素が決まる要因

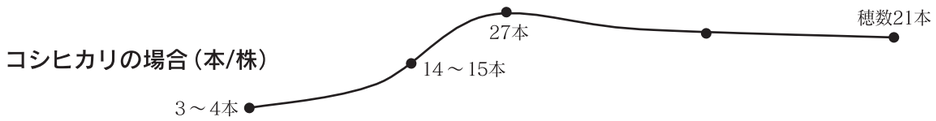
（1）A．穂　数 … 1㎡当たりの収穫できる穂の本数

●**目標とする穂数の確保が安定栽培の基本**です。

●穂数の多少は分げつが多いか少ないかが大きく影響します。苗の活着後、次々と分げつが出て、移植後45～50日ごろに最高分げつ期となり、その後出た分げつは、早く出た分げつと養分や水の奪い合いに負けて枯死します（無効分げつ）。

●穂数を決めるのは
①植え付け株数（栽植密度）　**②植え付け本数**
③植え付け深さ（初期分げつの発生に影響します）
④施肥量（基肥量）　**⑤苗の質**（老化苗は初期分げつの発生が遅れる）

●茎数を過剰に増やしても最終的な穂数は品種特性の範囲内に落ち着きますが、そういった無効分げつの多い生育型は効率が悪く、最終的な収量品質を引き下げる要因となります（有効茎歩合が低い型）。

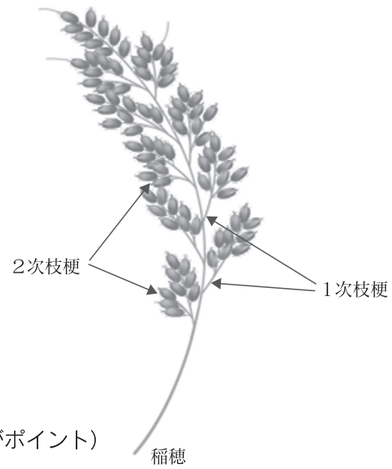


生育時期	5月			6月			7月			8月			9月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
	田植期	活着期	分げつ期			最高分げつ期	幼穂形成期		穂ばらみ期	出穂期 8/1頃	登熟期		成熟期 9/5頃		

（2）B．一穂籾数 … 1つの穂に実る籾の数

●これを決める要素は、穂につく籾数がどのくらい分化し、分化した籾数がどれだけ退化（減少）するかで決まります。

●籾数を多くするには枝梗の数を多くし、それにつく籾数を多くする必要があります。
枝梗と籾の数は、それらの分化が始まる出穂32日前から籾が退化する出穂12日前頃の栄養状態が影響します。
①幼穂形成期（出穂25日前後の稲体の貯蔵養分量）
②穂肥の時期
（穂ができるまでにどれだけの養分を貯めることができたかがポイント）



（3）C．登熟歩合 … 全籾数に対する成熟した籾の割合

登熟歩合低下の直接要因		環境条件等【最も影響を受けやすいのは、穂ばらみ期～出穂15日後】
不稔籾	受精がうまく行われなかった	特に、花粉ができる時期や出穂期の環境（低温・高温、強風・台風など）の影響を強く受ける **→気象に大きく左右される**
未熟粒	受精はうまく行われたが、十分にデンプンが蓄積されなかった	光合成による同化養分量の影響を強く受ける **→下記の栽培管理で改善できる** **①適期に適正な穂肥** **②出穂期から収穫までの水管理**（刈取間際まで健全な根を多く確保）

（4）D．千粒重 … 精玄米1,000粒当たりの重さ

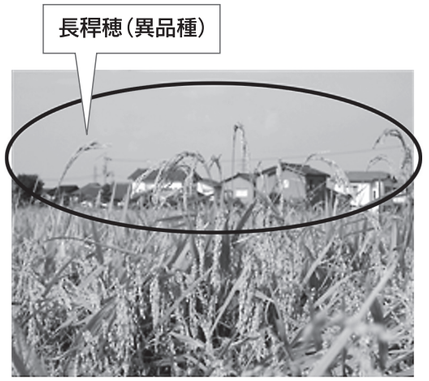
●もみ殻の大きさとその中の胚乳に蓄積されるデンプン量で決まります。
デンプンは主に登熟期の光合成によって作られ、葉から籾へ移行するが、そのうち20～30%は出穂期までに茎と葉に蓄積されたデンプンが籾に移行します。

●千粒重を高めるためには、登熟歩合と同様に、**①適期に適正な穂肥** **②出穂期から収穫までの水管理** でより多くのデンプンを作って、籾へと送る能力を維持することが重要です。

★目標収量に届いていない場合は、目標に対し必ずＡＢＣＤのどこかが不足しています。収量改善に向けた対策には、何が不足しているのか、途中の生育相の把握が第一歩です。
★収量構成要素の中では、「穂数」が最初に決定される重要な要素です。
★「穂数」は、初期分げつ発生の良し悪しが大きく影響します。
★昨年、なかなか茎数が確保出来なかったという場合は、良質苗にする育苗管理（温度や水分）や田植え後の水管理を見直してみましょう。

漏生イネ対策
（品種変更予定のほ場）

移植された栽培水稲と、前年こぼれ落ちた籾の生育進度の差を利用した除草剤の体系処理と、耕種的な発生予防を総合的に実施しましょう。



ポイント１　「漏生イネの深度による発芽時期と期間」

籾の深度によって発芽時期が異なります

深度１cm の籾…代かき後１０日から出始め、２５日で全て出芽

深度３cm の籾…代かき後１４日から出始め、４０日で７割が出芽

深度５cm の籾…ほとんど出芽しない

ダラダラと長い期間出芽します

ポイント２　「除草剤を適期に体系処理」

出芽前から出芽始めまでに処理すると高い防除効果が期待できる。緑化が始まり１葉期を超えると効果がない。

出芽が一斉でなく、発生期間が40日間に及ぶため、初期剤＋一発剤＋中後期剤を用いた体系処理を行う。処理間隔は7～10日以内とし、この間の除草剤効果を持続させる。

田植え後１か月間の対策が必要です。

ポイント３　「浅水代かきを２回実施」

代かきによって、地中で幼芽が伸びてきた個体と地表に生じている個体を埋没させる。

効果の有無は、損傷と埋没によるので、ていねいな作業と代かき回数を増やすと効果が大きい。

【対策１】　前作水稲収穫後、**ただちに秋耕（１０月中）し、こぼれた籾を土中に埋没させ、腐熟させる。**（秋耕が遅れると、再生イネに着生する籾（２番籾）が登熟し、漏生籾増加につながる。）

[早期に秋耕が実施出来なかった場合]

①耕起せずに「プリグロックス」1000mL/10a（希釈水量100 ～ 150L）を全面土壌散布

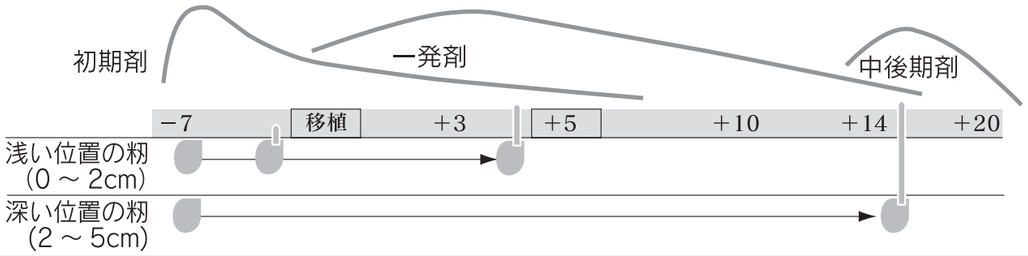
②耕起せずに石灰窒素50kg/10aを散布。散布後は、ほ場をなるべく乾かし3週間程度は耕起しない。次年度の水稲施肥Nを1kg/10a程度減らす。

【対策２】　春の田植え前、２回代かきを実施
（代かき間隔を７日以上あけ、浅水代かきとする）

【対策３】　田植え直後（同時）に**初期除草剤を散布「ソルネット１キロ粒剤」を散布**
（成分：プレチラクロール）

※代かき直後に、プレチラクロール剤（ソルネットまたはエリジャンジャンボ）を散布して７日間止め水とし、田植え後一発剤を散布する体系処理も効果的です（下図参照）

【多発ほ場での除草剤処理イメージ･･･田植え前処理体系】



コンバイン後方からの籾排出を少なくするには？

漏生イネの発生源として、２番穂の結実以外に、刈取り時のロスも考えられます。

コンバインによる収穫では、脱穀と選別を圃場内で刈りながら行うため、どうしても選別しきれなかった一部の健全な籾が圃場内に排出されてしまいます。

漏生イネ発生源を減らすだけでなく、せっかく実った籾の収穫ロスを減らす観点でも、下記の点に注意して刈取り作業を実施するよう心がけてください。

最大の要因

コンバイン内部の脱穀・選別部が詰まり、選別能力を超えて刈取りを進めると、後方のワラ排出部から、健全な籾が排出されてしまう！

じゃあ、どうすれば･･･？

ポイント1　濡れた状態で刈らない

- 朝露や雨など、濡れた状態で刈ると、内部の選別部（**図1**）が詰まりやすくなります。
- 選別部が詰まった状態で刈取りを続けると、選別能力が低下し、ワラ等と一緒に健全籾が後ろから排出されやすくなります。
- 「濡れモード」等が搭載されている機種では、上記のような条件のときには必ず選択するようにしてください。

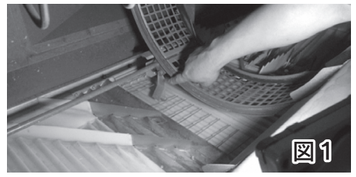


図1

ポイント2　走行スピードを上げすぎない

- 「走行スピードが速い＝選別部にも高負荷がかかる」ため、稲が濡れている等で選別能力が低くなりやすい条件のときには、スピードを落とすことが重要です。
- 走行スピード（＝刈取り量）に対し選別能力が低下している状態がゲージ（**図2**）（メーター部に示される「シーブ」等）に表示されている場合には、スピードを落として、選別が追いつくのを待ってください。
- 上記のような条件のとき、エンジン回転数が落ちるとともに、刈取り量に対し選別能力が追いついていないことを示す警告音が鳴動する機能があります。その場合は、エンジン回転数が正常域に戻るまで、足を止めて（走行停止して刈取りをストップ）ください。

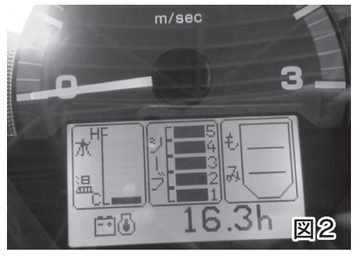


図2

ポイント3　整備・清掃をきちんと実施する

- コンバインの中を開けて、「受網」や「揺動板」、「ストロラック」等、選別部の詰まりをこまめに清掃してください。
- ワラ排出部の受板（**図3**）を上下に調整できる機種では、取付位置を高い方に調整した方が健全籾の排出が少なくなります。
- 掃除口のフタが閉まっているかの確認はもちろん、籾の流れる各部のパッキンが劣化していないか等もチェックしてください。

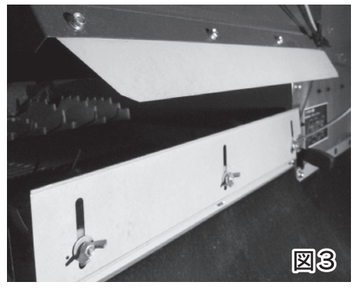


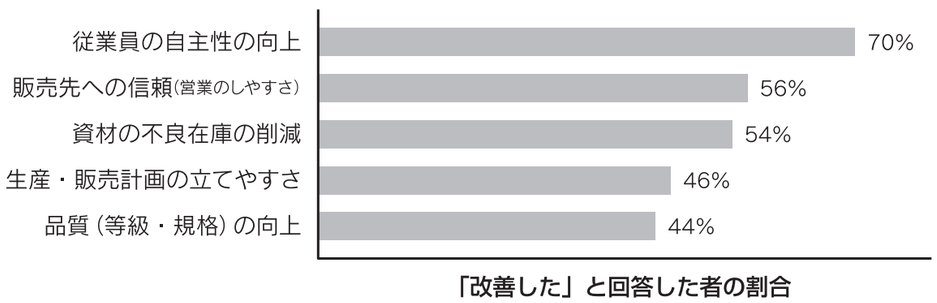
図3

「ＧＡＰ」でより良い農業経営を！

ＧＡＰ(Good Agricultural Practice)とは、農産物(食品)の安全を確保し、より良い農業経営を実現する取組!

- **農産物の生産で最も重要なことは、食品としての安全を確保することです。**
- **食品安全**だけでなく、**環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理**に関する取組を行うことで、持続可能な農業生産につながります。
- GAPは、これらの取組状況を記録簿や掲示物によって確認・表示しながら、**農業活動を改善することで、より良い農業経営を実現する取組**です。

ＧＡＰを実施すると、経営の改善に効果があります!!



出典：「GAP導入による経営改善効果に関するアンケート調査結果」(H25.1（独)農業・食品産業技術総合研究機構)を基に農林水産省生産局農業環境対策課で作成

あなたの身の回りにもリスクが潜んでいます！

—GAPでリスクの軽減を—

⚠ 異物混入

農産物にハサミやガラス片などの異物が混入すれば、消費者はもちろん作業者にも危険が及びます。また、異物混入が発生した農業者だけでなく、産地全体で出荷停止や商品回収を行うことになり、大きな損害を受けることが考えられます。

⚠ 農作業事故

毎年300人以上が亡くなっており、死亡・重傷事故１件が発生する背景には、軽傷事故が29件、もう少しで怪我をしたかもしれない事故（ヒヤリ・ハット）が300件あると言われています。

(1) ＧＡＰに取り組みましょう！！

ステップ1　基本の整理整頓から！

みなさんがこれまでにも取り組んできた**整理整頓**や、**生産履歴の記帳**が基本です。

写真提供：(一財) 日本GAP協会

ステップ2　農場内を点検し、問題点を改善！

農業生産の中で問題点を見つけたら、①必要な対策を考え、②それを実行し、③その内容を記録・点検し、④継続的に改善をしていきましょう！

●食品安全●

〈日頃の取組〉
異物混入の防止、
農薬の適正使用と保管

包装資材のそばに灯油など汚染の原因となるものを置かない

ほかにも
来訪者への衛生指示 など

●環境保全●

〈日頃の取組〉
適切な施肥、土壌浸食の防止、
廃棄物の適正処理・利用

農薬空容器などは分別して処分

ほかにも
水の使用量把握と節水対策 など

●労働安全●

〈日頃の取組〉
機械・設備の点検・整備、
作業安全用の保護具の着用

危険箇所の掲示をする

ほかにも
事故防止の作業手順書作成 など

●人権保護●

- 家族経営協定の締結
- 技能実習生の作業条件遵守

など

●農場経営管理●

- 責任者の配置
- 教育訓練の実施
- 内部点検の実施　など

●その他●

- 商品回収テストの実施
- 資材仕入先の評価

など

(2) ＧＡＰ認証を取りましょう！！

認証取得のメリット

自己点検だけでは気づかない問題点を把握し、改善に取り組むことで、**農業経営のレベルアップや安定化**に繋がります。

認証の種類

「いしかわＧＡＰ」「JGAP」「GLOBALG.A.P」など様々

石川県が認証するＧＡＰで、持続的に農業を行うための取り組みを約５０項目にまとめ、初めてＧＡＰに取り組む方でも実践しやすい。将来的にＪＧＡＰなど民間認証へのステップアップに繋がります。

いつでも認証が取れるレベルを目指して取り組んでみましょう！

農作業安全の徹底を!!

近年、農作業死亡事故者数は年間300人前後で推移しており、事故件数を減少させることが喫緊の課題となっております。

一人一人が農作業安全について見つめ直し、事故防止に取り組みましょう！

特に気を付けて下さい！

①トラクター・コンバイン等の走行中(圃場・道)の転落、横転、衝突

●死角（バック時や足下など機械の大型化により、死角が拡大）やスピードの出しすぎに注意。

チェック 事前に作業環境を確認し危険な場所が無いか確認を

チェック 安全フレーム、シートベルトの徹底を

②運搬トラックによる車両積載重量超過

●過積載は、制動力を低下させ、さらにバランスを崩しやすくなるので、重大事故を引き起こす可能性があります。

チェック トラックごとの最大積載量の確認を

③連日の猛暑による熱中症

●水分補給と適時休憩を取り、熱中症には十分に気を付けてください。

チェック 天気予報で気温の確認を

チェック 無理のない作業スケジュールを

作業機付トラクターの公道走行が可能となりました!

直装タイプの作業機および被けん引タイプの作業機を装着した状態のトラクターが、一定のチェックポイントをクリアした場合にのみ公道走行が可能となりました。

直装タイプの作業機

〈後方装着〉

- ロータリ
- ハロー
- ブロードキャスタ
- 畔塗り機
- ライムソワー
- ブームスプレーヤー
- 他

〈前方装着〉

- フロントローダー
- 他

被けん引タイプの作業機

- ロールベーラー
- トレーラ
- マニュアスプレッダ
- バキュームカー
- 他

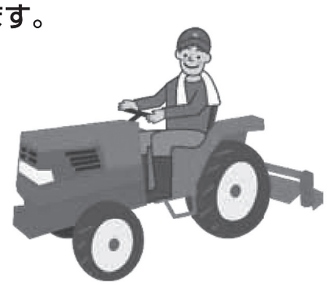
公道走行にあたってのチェックポイント

Ⅰ 免許の確認 → 作業機を取り付けた状態で、全幅が1.7mを上回る場合、大型特殊免許（農耕車限定）が必要です。

Ⅱ 灯火器類の確認 → 作業機を取り付けた状態で灯火器類が他の交通から確認できる必要があります。

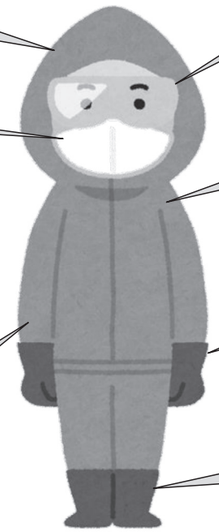
Ⅲ その他 → 条件により標識等の追加や道路管理者の特殊車両通行許可書を得るなど、基準を満たす必要があります。

お問い合わせは
JA農機センターまで



農作業安全の徹底を!!

農薬散布時の服装チェック



準備のときから着用
片付けまで着用

防護服を着ているときは
共有スペース・収穫物に近づかない

農薬取扱い手順

	作業手順	注意点
1	使用薬剤の決定	病虫害の発生状況、防除指針、混用、回数・成分回数、作物適用、使用時期・収穫前日数、その他注意事項
2	ラベル記載内容の確認	
3	防護服の着用	ラベル記載内容を確認、フィルター使用時間、等
4	散布機の点検	洗浄済みか、ノズル・ホース・接合部、漏れや故障がないか、等
5	農薬の調合	所定の調合場所、較正済み計量器を使用、空になった容器（液体の場合は、水で３回すすいでタンクにあける。袋の場合は、軽くたたいて内面の付着分を散布機内に落とし、残農薬がないことを確認する）。
6	農薬散布	天候、風速、風向き、ドリフト注意
7	使い切りの確認	残った場合は、所定の場所に廃棄
8	散布機の洗浄	所定の場所で洗浄し記録、タンク・散布機・ホース・ノズル等洗浄
9	防護服の洗浄・保管	散布機洗浄場所で洗うか、他の服と分けて洗浄。所定の場所に保管
10	農薬使用の記録	散布後、速やかに記入する。
11	散布後の圃場管理	散布液が乾くまで圃場への立ち入りを禁止にする。

農家の皆様今一度ご確認を!

○農薬は、専用の倉庫や頑丈なキャビネットなどに保管し、常に施錠している。

○保管棚は、吸収性のない素材で作られている。棚では粉剤は液剤より上段に保管し、毒物・劇物と普通物が触れないように分けている。

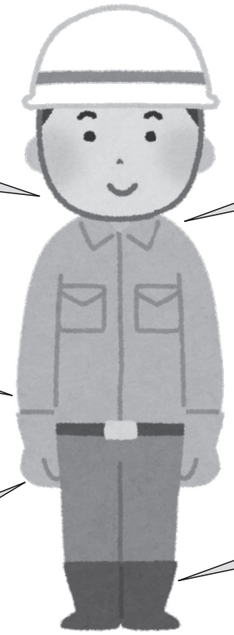
○農薬保管場所には農薬や農薬散布機等以外のものがなく、入口に農薬の危険性を警告する表示がある。

○農薬事故時の手順書は、保管庫から 10m以内の見やすい場所に設置してある。

○農薬や希釈液が漏出した場合に、農薬を回収するための砂や布等の吸着材を用意している。

機械操作時の身だしなみとルール

機械操作時の身だしなみ



機械作業時のルール

① ヘルメット着用

② シートベルト着用（乗車型の機械）

③ 作業中断時、機械から離れる時は**エンジンを切る**

④ 座席周辺にモノを置かない（乗車型の機械）

⑤ アタッチメントのカバーの上にモノを置かない（トラクター）

⑥ 必ず作業前点検を実施する

⑦ 作業中は**機械の周囲３m以内に人を近づけない、近づかない**

⑧ 旋回、後進時は特に周囲の人やモノに注意する

農業に伴う廃棄物は適切に処理しましょう！

事業活動で生じた廃棄物を自らの責任で適正に処理しなければなりません。
町内のごみ集積所に出すことはできません。

農業に伴う廃棄物の種類

（1）産業廃棄物（法で規定された20種類の廃棄物）
- 廃油：農業用機械の廃潤滑油、燃料等の残り
- 廃酸、廃アルカリ：期限切れの農薬等
- 廃プラスチック：ハウス用ビニール、波板、育苗箱、肥料農薬の空袋等
- 金属くず：ハウス用パイプ、釘、針金、機械部品等　　など

（2）事業系一般廃棄物（事業活動に伴い生じた廃棄物で産業廃棄物以外）
- 紙類、段ボール類、作物残渣等

処理方法

（1）産業廃棄物
- 廃プラスチック：最寄りのJAの回収事業を利用してください。
- 上記以外：石川県の産業廃棄物処理業許可業者に依頼してください。

県の産業廃棄物処理業許可業者の一覧はコチラ▶

（2）事業系一般廃棄物
- 紙類、段ボール類は資源回収業者に依頼してください。
- 作物残渣等については、白山市の一般廃棄物収集運搬許可業者に依頼するか、松任石川環境クリーンセンターに直接搬入してください。

一般廃棄物収集運搬許可業者の一覧はコチラ▶

注　意

- **廃プラスチックの焼却や廃農薬を河川等に捨てることは不法投棄にあたり、法律で禁止されていますので絶対にしないでください。**
- 廃棄物の処理を委託する場合は、処理方法に応じて、上記許可を受けた業者に委託しましょう

【問い合わせ先】　白山市環境課　274－9535

燃料の保管方法

燃料については消防法にて保管量に規定あり。

燃料種類	指定数量	1/5は
軽油	1000ℓ	200ℓ
灯油	1000ℓ	200ℓ
ガソリン	200ℓ	40ℓ
エンジンオイル	6000ℓ	1200ℓ

※6mの間隔をあけておいておく。
燃油などの危険物を保管する場合、「指定数量」という規定があり、この数量以上の保管では、かなり厳しい「消防法」の設置許可を受けることになります。また、指定数量未満で5分の1以上を保管している場合は、地方条例により少量の危険物の貯蔵取扱届出書および関係書類を提出の上、市町村（消防署）の完成検査を受けなければなりません。

＜防油堤について＞
防油堤の設置を義務づけられる燃油の保管量は「指定数量」の5分の1または2分の1以上となっています。軽油の場合、指定数量が1000リッターなので、200リッターまたは500リッター以上の場合は防油堤を設けなければなりません。

救急車の呼び方

救急車の呼び方

① 119番にダイヤル
② 「救急です！」と第一声
③ 住所と目印を伝える
④ いつ、だれが、どうして、どうなったかを説明
⑤ 自分の名前と連絡先

緊急時の連絡先・手順

ここの農場名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

住　所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

担当者 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1．**被害者の保護**（2次被害に注意）／機械等の緊急停止
2．連絡（**場所・状況**を説明）⇒ 対応の指示を仰ぐ
3．応急処置／被害拡大の防止

事件・交通事故	警察	１１０
事故・救急・火災	救急・消防	１１９
救急対応病院		
ガス		
電気		
水道		
資材業者等		
農機具販売店		
行政組織等	保健所：	
	警察署：	
	消防署：	
	普及所：	

水稲ほ場内での　　JA白山

イノシシ被害対策について

○近年、当ＪＡ管内におきまして水田へのイノシシ被害が増加しております。

○被害が確認されたほ場については、今後対応が必要となってきますので、以下に注意して頂きますようお願い致します。

【ポイント】

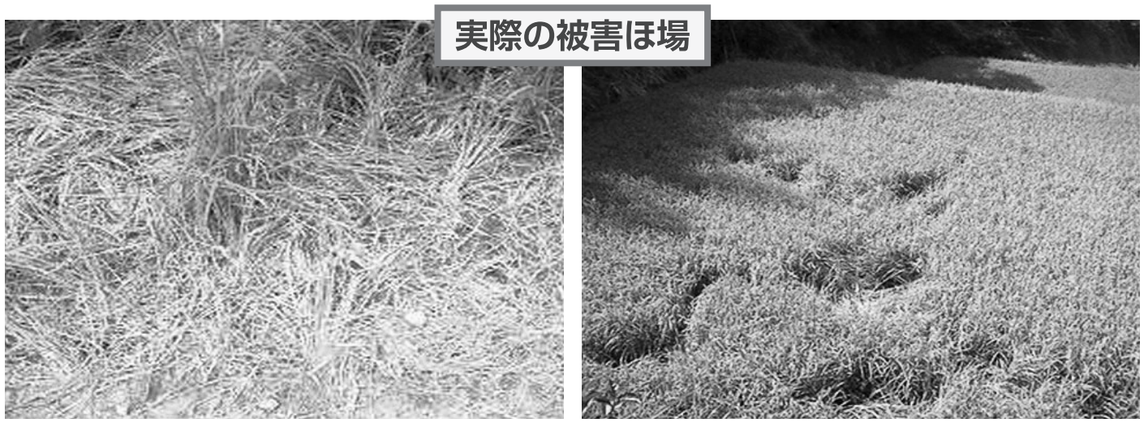
●イノシシはほ場に進入すると、稲にカラダを擦り付ける習性があります。

●進入が確認された場合は、刈取りせずに農業共済へ連絡し被害状況を確認してください。
（※収穫してしまうと補償対象となりません）

①ほ場全体が補償対象となった場合は、刈取りをしない。
（ほ場内にすき込んでください）

②ほ場の一部のみが補償となった場合は、補償対象の部分は刈取りしない。（すき込む）
補償対象外の部分は刈取り出来ますが、イノシシの臭いが付いている可能性があるため別調製し、他のほ場の米と混合しない。

実際の被害ほ場



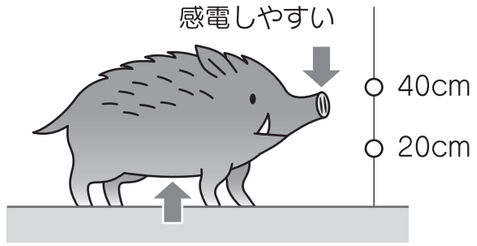
詳しくは営農センターまで問い合わせください。

電気柵 設置のポイント

イノシシに対してショックを与えることができる電気柵ですが、いくつかの約束事を守ったときにその効果が発揮されます。突破を防ぐのにまず基本となるのは電線を張る高さです。

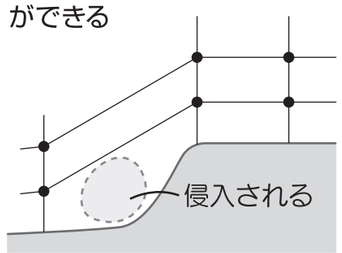
イノシシ用電気柵の基本

電線は２段に張る。上の段は親イノシシがちょっと上をみるときの鼻の位置。高さは40cm。下の段は20cm。もぐりこもうとするときの鼻の高さで、ウリ坊とも兼用

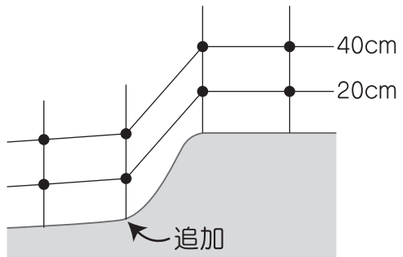


感電する部位は鼻と腹、２箇所だけ。そのほかは剛毛で覆われ、ほとんど感電しない

よくある失敗①
高低差のあるところにすきまができる

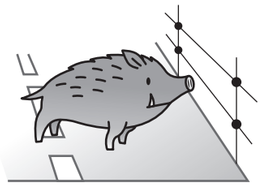


支柱を追加する



あくまで地際20cmを保つ

よくある失敗②
舗装道路のすぐわきに設置



柵は舗装道路から50cm以上離す

前足から土へ電気が通ることで感電する

○電線は田から見て支柱の外側に張る。○放電を防ぐため草は刈ること。
○電気柵を設置した畦畔の除草には、地上部だけを枯らすバスタが特におすすめです。

設置についてはJAまたは市役所へご相談ください。

農家の皆様へ

「野焼き」は原則として法律で禁止されています
（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）

農作物の残さは、なるべく焼却せずに、堆肥にするなど、土づくりに有効活用しましょう。
ただし、農林業を営むために、やむを得ないものとして行われる焼却については、法律の例外として認められています。
節度を守り、必要最小限の範囲で行ってください。

やむを得ない場合、焼却が認められているもの

（例）「稲わら」「籾殻」「剪定枝」「いもの蔓」などの**農作物の残さ**
※ ほ場内で発生し、燃やすゴミとして搬出することが困難なもの。

いかなる場合でも、焼却してはいけないもの

（例）「ビニール」や「支柱」などの**農業用資材**

やむを得ず焼却する場合は、次のことを必ず守ってください。

- 近くの住民に迷惑がかからないよう、時間帯や風向きなどに配慮してください。
- 焼却している間は、火の側から離れないでください。
- 焼却できるものは、あくまでも法律の例外として認められたものに限ります。**ビニールや生活ゴミ等は、絶対に焼却しないでください。**
- 法律の例外として認められているものであっても、万が一、近隣の住民等から苦情が発生した場合は、**すみやかに焼却を止めてください。**

火災との誤解を避けるため、焼却する前には必ず、**最寄りの消防署（出張所）と環境課へ**、電話連絡（火災とまぎらわしい煙または火災を発するおそれのある行為の届出）をしてください。
（例）:**「今から、○○（場所）で、△時間、□□を焼却します。」**
なお、近隣の住民等から消防署へ通報があった場合には、消防及び警察が出動し、悪質の場合は5年以下の懲役又は100万円以下の罰金が科せられる場合があります。

【 問い合せ先 】白山市農業振興課　２７４－９５４０　　環境課　２７４－９５３８

農家の皆様へ

道路の泥汚れ防止にご協力ください

粗おこしや代かき、田植えや刈取り等、圃場での作業後にそのまま道路に出ると、泥を持ち出してしまいます。
公道に落ちた大きな泥や土のかたまりは、歩行者や車両の通行に支障をきたし、地域住民の迷惑になるうえ、交通事故の原因にもなるため大変危険です。

✕ 泥を路上に放置している

○ 泥を除去している

農作業後に公道に出る際はできるだけ泥を落としていただくよう、ご協力をお願いします。

メ　　モ

水稲生産者の皆様へ

県育成登録品種は産地の財産です

登録品種はルールを守って活用しましょう

県では、ブランド農林水産物の生産振興に必要な種苗や栽培技術を外部への流出から守るため、県が開発した登録品種※の利用時のルールを定めています。
（「種苗法」及び「石川県の特色ある農林水産物を創り育てるブランド化の推進に関する条例」の改正に対応）
利用に当たっては、以下のことを守り、生産者・ＪＡ・関係機関で一体となって本県を代表するブランドに育てていきましょう。

※対象品種
ひゃくまん穀、百万石乃白、ゆめみづほ、石川門
の４品種です。

☑自家採種（自家増殖）は行わないでください
品質を安定させるため、全量種子更新し、自家採種（自家増殖）は行わないでください。

☑有償無償に関わらず、第3者への種苗（種子・苗）の譲渡はできません
種もみや苗を他の農家へ譲渡することはできませんのでご注意ください。

☑種苗（種子・苗）の盗難防止のための保管管理を徹底してください
種苗の第三者への流出防止のため、種苗や収穫物を施錠できる保管倉庫で保管する等の盗難防止措置の実施を徹底ください。

☑栽培技術等の情報の取り扱いに注意してください
県育成登録品種の栽培技術は種苗と同じく産地の財産です。流出防止のため、県の許可なく第三者（ひゃくまん穀・百万石乃白は生産者組織の会員以外の第三者）への提供はしないでください。

☑生産および収穫物の販売については生産者組織が定める方針に従ってください
［ひゃくまん穀・百万石乃白］
栽培には生産者組織への加入が必要です。また、生産者組織が定める生産・販売方針を遵守願います。

この資料に関する問合せ先　JA白山　営農企画課　TEL ０７６－２７３－５２７７
石川県農林水産部生産流通課　TEL 076-225-1621
石川県石川農林総合事務所農業振興部　TEL 076-276-0371

3月 健苗につなげる的確な播種準備

芽出しが揃いスクスク育つ条件を整えます。

作業スケジュール

床土準備 → 種籾袋詰め → 種子消毒 → 浸　種 → 催　芽 → 播　種

＜床土の準備は出来ていますか？＞

☆自家製の床土を準備する際は、『土壌pH』に注意しよう！

【土壌pHの目安：pH4.5～5.5】

	要　因	影　響	調整資材
pH5.5以上	菌による苗立枯病が急増	ムレ苗	サンドセット
pH4.5以下	土壌中アルミニウムが溶出	イネ出芽時に根の伸長に影響	くん炭

＜種子消毒はしっかりしていますか？＞

☆籾がらに付着している病原菌を死滅させ、健全苗を育てましょう！

【消毒薬で種子消毒をする場合】

薬 剤 名	希釈倍数	使用時期	使用方法	薬 液 温	対象病害
テクリードC フロアブル	200倍	浸種前	24時間 種子浸漬	15～18℃	いもち病、ごま葉枯病、ばか苗病、褐条病 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、苗立枯病

※薬剤吹き付け種子の場合は、最初の３日間は水を交換しない。

【種もみに対する水量及び薬量】

種籾重量	3kg	5kg	10kg	15kg	20kg	40kg
水量（ℓ）	6	10	20	30	40	80
薬量（mℓ）200倍	30	50	100	150	200	400

①薬液の中で２～３回上下にゆすって空気を追い出し、種籾を完全に浸漬しましょう。
②消毒中は、２～３回は攪拌して、効果ムラの防止に努めましょう。
③**環境に配慮し**、廃液処理は適切に行いましょう。（簡易廃液処理キット「イレートキット」がお勧めです。）

＜浸種・催芽の日数はしっかりとっていますか？＞

☆芽出し揃えを良くし、播種後の出芽も早くさせて健全苗を育てましょう！

【浸種積算温度100℃以上の目安】

種類＼水温	10℃の場合	15℃の場合
うるち米 酒造好適米	12日	8日
もち米	10日	7日

●浸種水量は種籾の２倍以上とし、２日に１回水の入れ替えを行う。
但し、最初の２日間は水を交換しない。
（薬剤吹き付け種子の場合は３日間）

●浸種の注意

【催芽の目安】

催芽日数	1.5～2.0日	催芽適温	30～32℃
		催芽程度	1mm（鳩胸）

【催芽温度と日数】

催芽温度	28℃	30℃	32℃
芽が出るまでの日数	2.3日	1.9日	1.6日
幼根が出るまでの日数	2.8日	2.6日	2.1日

●コシヒカリ、ゆめみづほ、五百万石は発芽しにくい品種なので、芽が十分揃うように注意する。

■芽出しの注意

●芽出し時には十分酸素を供給する。
●必ず発芽状態を確認し催芽を終了して下さい。
80％以上鳩胸状態に！

■催芽の方法

●育苗器を利用する場合の温度計のセットは30～32℃にする。芽出し袋を育苗器の棚にならべる場合は、袋の厚さをできる限り薄くする。
（厚さがあると外側と内側で催芽ムラが生じる。途中で芽出し袋を反転する。また、電熱の育苗器は乾燥するので、芽出し袋の上に濡れたものをかけるとよい。）
●**循環式育苗催芽機（シャワー式催芽機）の温度セットは30℃**とし、発芽が確認できたら直ちに電源を切る。
一度使用した水は入れ替えを行い、重複使用しない。
また、催芽はなるべく同一品種ごと行い、混種催芽は行わない方がよい。

＜５月田植時期にあわせた播種作業を行っていますか？＞

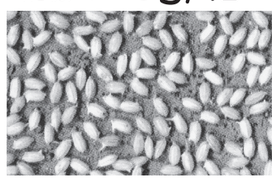
☆健全苗から健全な稲体への第一歩！

■１箱当たりの播種量

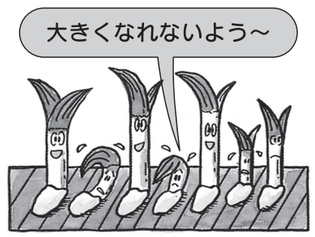
品 種 名	乾 籾 重
コシヒカリ ゆめみづほ（石川43号） カグラモチ	120g
五 百 万 石	150g

は種量を確認!!
厚播きになっていませんか?

（乾籾）120g/箱



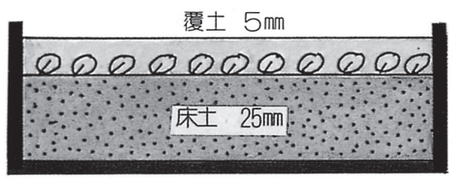
●厚播きは苗質を弱くします。



■田植時期にあわせた播種時期の目安

育苗等作業	田 植 時 期		
	5／5	5／10	5／15
催　芽	4／11	4／19	4／26
播　種	**4／13**	**4／21**	**4／28**
育苗期間	23	20	18

●覆土は種籾のかくれる程度とする。



■育苗器内の温度は30～32℃とする

■厚播きによる品質低下に注意！

播き床は、稲の赤ちゃん（種籾）がスクスク育つベッドです。
ゆったりベッド（乾籾で120g／箱）で腰の太い子供（苗）に育てましょう。
厚播きになると、腰の細い徒長苗になり、苗の生育が遅れ、苗の体重が小さくなる。
更に苗の老化が早く、活着力が弱くなるため、植え遅れると植傷みが多くなり、分げつの出方が遅れて初期生育が悪くなる。
厚播きにするほど障害苗（カビ類・立枯れ病）の発生が多くなる。

4月 素直に育つ健苗づくり

田植え後に生育停滞の無い健康な苗に仕上げます。

❶ 適切な温度管理と水やりで健全な苗づくり

出　芽

◎一斉に芽を揃えよう。

- 出芽日数…3日間　● 温度管理…30～32℃
- 出芽目安…芽の長さが8mm～10mm程度。
- 水管理……基本的に、覆土後の灌水は行わない。
  （覆土後の灌水は生育ムラの原因となるため、播種時覆土前に均一に灌水する）

緑　化

◎保温が第一、苗の素質が決まる。

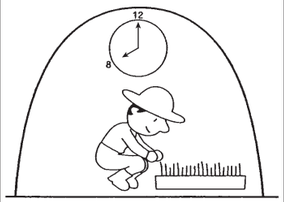
- 緑化日数…3～5日間（高温時には早めに硬化へ。）
- 温度管理…昼：20～25℃，夜：15～20℃
- 緑化目安…本葉1枚が完全に出揃うまで。
- 水管理……被覆資材を外した後、床土の中まで乾いている場合は、表面だけ湿るよう軽く灌水する（苗箱の底まで湿るのはやりすぎ）。

注意事項…○ 出芽直後の白い芽は直射日光にあたると白化現象を起こすので、寒冷紗等で被覆する。
○ 日中25℃以上に上がる場合は換気を行うこと。
○ 夜温が12℃以下の時は保温を行うこと。
○ 灌水は床土が乾くまで控えること。
灌水する場合は早朝（7時～8時）に少し行うこと。
覆土の持ち上がりがある場合は軽く灌水し、芽をおちつかせる。
（種籾がみえたら再覆土する。）

緑化　3～5日

昼間20～25℃
夜間15～20℃

3～5日被覆（遮光のため）



（朝7～8時）
水は土の乾燥をみて → 少し、またはやらない

硬　化

◎きめ細かな水・温度管理で丈夫な苗づくり。

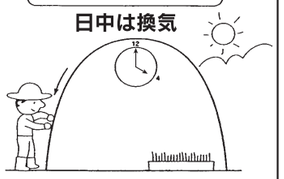
- 硬化日数…初期：6日間，中期：6日間，後期：5日間
- 温度管理…初期：昼は15～20℃，夜は10～15℃
  中期：初期と同様に。
  後期：外気温にならす。
- 水管理……初期：緑化期と同程度
  中～後期：原則として１日１回、早朝気温の低いときに灌水する。

換気の注意…初・中期：早い時期に冷たい風に当てないよう注意する。
（夕方3～4時にはハウスをしめる。）
中・後期：日中の高温に注意し、早朝から換気する。
田植えの5～3日前から外気温にならし、極端な低温の恐れがない限り夜間もハウスをあけておく。
晴天時は床土が乾きやすいので、様子をみて1日1回～2回灌水する。

硬化初期　6日
硬化中期　6日

昼間15～20℃
夜間10～15℃

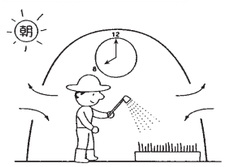
日中は換気



（夕方3～4時）
ハウスを閉める

硬化後期　5日

外気温にならす

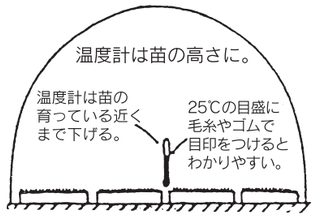


（朝7～8時）
今日は晴れそう→水やりと換気

《温度管理と被覆資材使用の目安》

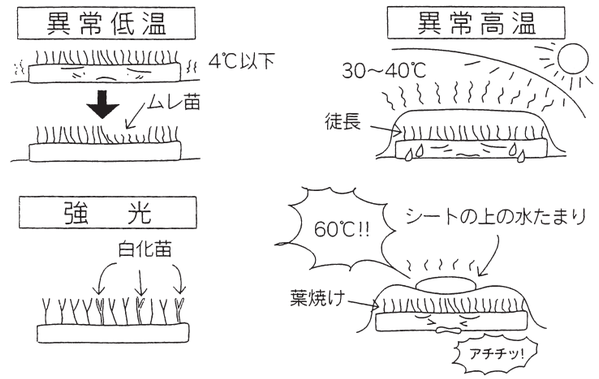
ステージ		緑化期	硬化初期	硬化中期	硬化後期	注意事項
日　数		3～5日間	6日間	6日間	5日間	※育苗日数 20～25日 ※緑化期は30℃ 硬化期は25℃ 以上にしない。 ※最低8℃以下にしない。
昼	温　度	20～25℃	15～20℃	15～20℃	外気温	
	被覆資材	○	△	×	×	
夜	温　度	15～20℃	10～15℃	10～15℃	外気温	
	被覆資材	○	△	×	×	

注）○は常時必要、△は状況に応じて必要、×は不要。



緑化期の障害の例

※温度が低すぎても高すぎてもよくないので温度管理に十分気をつける。



※田植え後、苗が冠水して欠株になることを避け、長めに苗を作ることは、軟弱苗を助長し逆効果です。苗は徒長させず水田の均平を図りましょう。

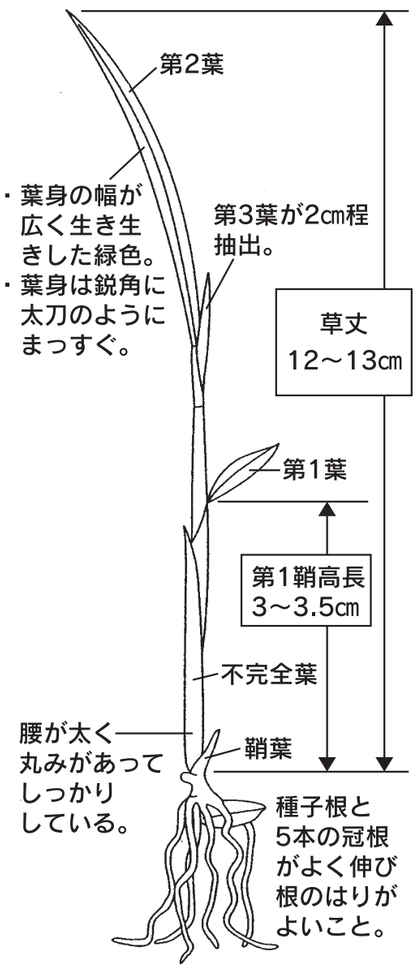
❷ 箱育苗の生育障害と対策

※病状の詳細はP.58参照

病害名等	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数		使用方法
苗立枯病（リゾープス菌(白カビ) トリコデルマ菌(青カビ) フザリウム菌 (白～淡紅色のカビ)）	ダコレート水和剤	400～600倍	播種時から緑化期(但し播種14日後まで)	2回以内	※使用回数は播種時を含め2回以内	1箱当たり500㎖灌注
いもち病（苗いもち）		400倍	播種時	1回		
苗立枯病（ピシウム菌 フザリウム菌 (白～淡紅色のカビ)）ムレ苗防止、根の生育促進	タチガレエースM液剤	500～1000倍	播種時又は発芽後	1回		1箱当たり500㎖灌注
苗立枯病（ピシウム菌 フザリウム菌 (白～淡紅色のカビ)）ムレ苗防止、根の生育促進	タチガレン液剤	500～1000倍	播種時及び発芽後	2回以内	※田植前の土壌灌注は2回以内	1箱当たり500㎖灌注

※タチガレエースM液剤とタチガレン液剤を組み合わせて使用する場合、それぞれ1回のみの使用となります。

田植時の良い苗　※原寸大



❸ 圃場準備

耕　　起

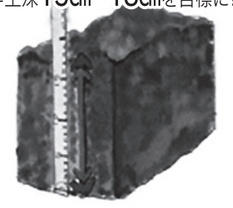
【目的】

① 土を柔らかくし、深層部にまで空気を入れ、根の発育を良くすること。
② 田面にある稲わらや雑草を埋め込み、土壌中に有機物を増やし雑草発生を抑制すること。
③ 深層部の土を表面に出し、養分の分解を早めること。

【目標】

① 耕起深さは15㎝以上を目指しましょう（**※深耕の方法については P. 5参照**）。
② 春の荒起こしだけでは稲わらが十分に腐熟せず、浮きワラ、根腐れ、地力低下につながります。稲わらの分解促進を図るには、春の荒起こしだけでなく、土づくり資材の散布と併せて、気温が高いうち（10月上旬頃まで）の秋起こしを実施しておきましょう。

作土深15㎝～18㎝を目標に!!



いまより2～3㎝深くしましょう。

代かき（植え代）

【目的】

① 田面を平らにし、漏水を防ぎ、土壌を柔らかくし、苗を活着させやすくすること。
② 雑草を土壌中に埋め込むことによる物理的除草、田面を整えることにより水稲除草剤の効果を高めること。

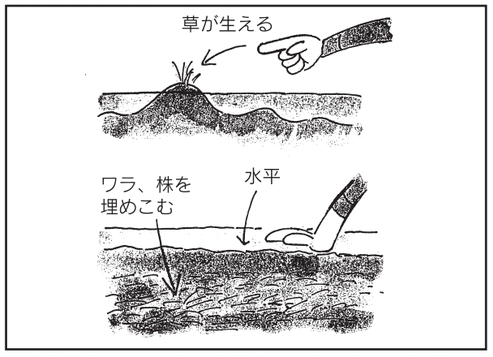
【目標】

① 水管理をしやすくするため、また稲の生育を揃えるため、凹凸をなくし、均平に努めましょう。
② 代かきが終わった瞬間から雑草の再生が始まります。代かきから田植えまでの日数が空きすぎると取りこぼす雑草が多くなるので、代かきから7日以内に田植えを実施できるよう、春作業を計画しましょう（**※代かきによる漏生イネ対策についてはP. 8【対策2】参照**）。

● 代かきは、ねりすぎにならないように。

トラクターによる代かきの場合は、枕地になる所はねり込みすぎないよう注意する。
代かき時の水は少なめにして、ワラや春雑草が浮かないようにする。
※代かき作業後の強制落水はやめましょう。

● 圃場を均平にする。



田面が露出していると除草効果が落ち、また低い部分は薬害が出やすくなるので田面を均平にする。

畦　畔　除　草

【4月中に畦畔・農道を除草しましょう！】

○ 斑点米カメムシ類はすでに4月から増殖を始めています。4月中に除草を実施して雑草がない状態とすることで、その後の増殖を抑えることにつながります。
○ カソロン粒剤6．7を冬期に散布しておくことで、春の除草を省略できます（6月頃まで抑草）。

❹ 基肥施用基準

活着を早め、初期分げつを確保するのに適正な施肥量にしましょう。

（10a当たり）

肥料／品種	側条施肥								
	基肥一発肥料使用の場合	基肥一発肥料							
	（全層施肥）PKけい酸09号	コシー発くん1号 コシー発くんDX24	けい酸アップ・コシー発くん	コシー発くんNEOα	新早生一発くん 又は 早生一発くんDX28	早生一発くんNEO		五百万石一発くん	側条BB 003-40号
コシヒカリ	60kg	40～45kg（40kg）	53～60kg（50～55kg）	35～40kg	―	―		―	30kg（35kg）
ゆめみづほ（石川43号）		―	―	―	45kg	35～40kg			35kg（45kg）
					―	―			
五百万石								45kg	45kg
カグラモチ	―							―	

※（　）内は手取地区の施肥量です
※コシー発くん1号・新早生一発くんはR5年産より取扱終了予定です

注意1　大豆跡の「コシヒカリ」は基肥を2割減らす。
（※基肥一発肥料使用の場合は生育診断に応じて追加穂肥を実施してください。）

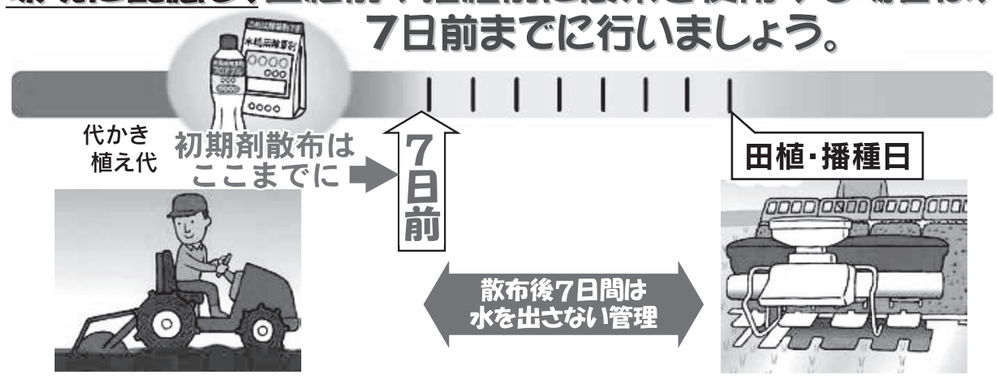
注意2　手取地区や、秋落ちし易い砂壌土などの低地力田では、基肥一発肥料を全層と側条に分けて施肥すると、肥料からの栄養補給が効率よくなります。
（※ただし、全層と側条の割合は、4（全層）：6（側条）を目安とし、全層施肥日と田植日の間を1週間以上あけないこと。）

注意3　初期生育の悪い圃場は、過燐酸石灰を20kg施用する。

❺ 水稲初期除草剤の使用時期

水稲除草剤の田植前・播種前の使用時期については注意してください。

環境に配慮し、田植前や播種前に農薬を使用する場合は、7日前までに行いましょう。



5月 登熟向上を意識した田植え

健全で登熟の良い稲が育つ環境を整えます。

❶ 田植えの4大ポイント

過剰生育防止、良質茎確保のため5月の好天日に田植を行いましょう。

① コシヒカリは特に

田植えは5月になってから、8月2日以降に出穂期となるように田植時期を設定しよう。

早期の田植えは出穂期が早まることにより、登熟期間が高温に経過し、乳白・腹白粒等品質低下の要因となります。そのため、田植えを遅らせ出穂期を遅らせることによって、高温時の登熟を回避し、好適な条件とすることにより品質の向上を図ろう。

◎田植時期と出穂期の関係（品種：コシヒカリ）

田植時期		出穂期	
4／25	−10日	7／30	− 3日
5／ 1	− 4日	8／ 1	− 1日
5／ 5	基準日	8／ 2	基準日
5／10	＋ 5日	8／ 5	＋ 3日
5／15	＋10日	8／ 8	＋ 6日

② 栽植密度は坪当たり60株植えを基準にしましょう。

※10a当たりの苗箱使用は、補植を含めて18箱。
過度な疎植は減収や乳白粒の多発を招くおそれがあるため行わない。

③ 良質茎の確保のため、3～4本の細植えに調整しましょう。

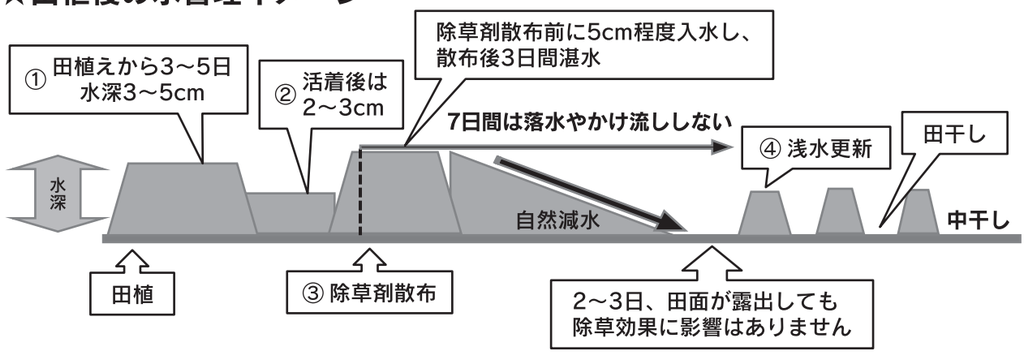
※植付本数が多くなると、整粒歩合が低下し、 未熟粒や奇形粒の原因となるので、細植えを徹底する。
又、茎数が多くなると、倒伏しやすくなり、品質の低下となる。

④ 活着・初期生育促進のため、3センチ程度の浅植えにしましょう。

※圃場ごとに田植えを始めたら、植付深さ、本数のチェックを忘れずに行いましょう。

❷ 初期生育を促進する水管理

★田植後の水管理イメージ



◎ 田植え後～分げつ期の管理のポイント

①【田植え直後】・・・「できるだけ早く活着させる」
活着とは、一般的に新根が３～５本発生して養分や水を十分吸収できる状態のこと
苗の**活着限界温度は12 ～ 13℃、最適温度は25 ～ 30℃**

温度が高い方が早く活着する！

田植え直後から５日目くらいまでの間は、**低温時や強風時には**
５～７㎝程度（草丈の2/3位の水深）の**やや深水で管理し苗を保護する**
天候が悪い時に水深を保つ効果　①地温と水温を確保して発根を促す
②苗からの水分蒸発を抑制して苗をしおれさせない

②【活着後】・・・「分げつの発生を促す」

分げつの発生は、昼夜の温度差が大きいと促進される
浅水にすると、昼夜の地温、水温の温度差が大きくなる

分げつ発生には浅水管理！

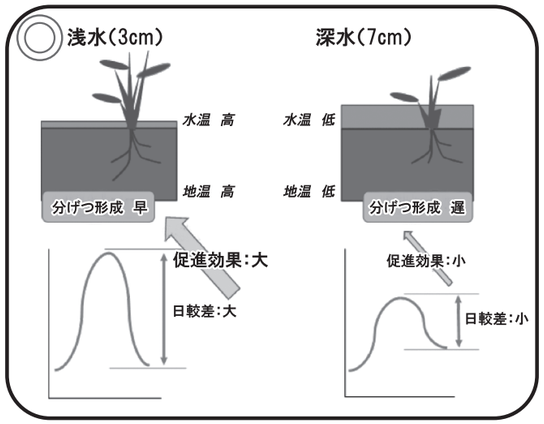
昼の気温が低い天候の場合は、分げつが抑制されるので、深水にして水温を保つ

（参考）水深と水稲生育への影響

水深と影響	活着	保温	発根	分げつ	養分吸収	酸素供給
深水（5～7㎝）	▲	☆	▲	▲	△	▲
浅水（2～3㎝）	☆	△	☆	☆	☆	△
落水（0㎝）	☆	▲	△	△	▲	☆

☆：促進・効果高い
△：中くらいの効果
▲：抑制・効果低い

分げつの発生促進には日較差が重要！



❸ いもち・初期害虫防除

●育苗箱施薬剤

区分	使用時期	薬剤名	使用量	対象病害虫名
早生	播種時～移植当日	**エバーゴルプラス箱粒剤（紋枯病の出やすい圃場）**	1箱当たり50g	いもち病、紋枯病、疑似紋枯症、白葉枯病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネツトムシ、フタオビコヤガ、コブノメイガ
中生	移植3日前～移植当日	**Dr.オリゼリディア箱粒剤**	1箱当たり50g	いもち病、イナゴ類、ウンカ類、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、イネヒメハモグリバエ、イネカラバエ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ

使用量の厳守・・・**初期害虫**だけでなく、**いもち病予防**も兼ねた混合剤です。
7月中旬まで効果を持続させるため、必ず1箱当たり50ｇを散布する。

使用方法・・・・・1箱当たり50ｇを育苗箱の上から均一に散布する。

使用上の注意・・・①使用前、苗についた露を落とす。
②薬剤使用後に散水し、薬剤が苗箱に落ち着くようにする。
③軟弱徒長苗、ムレ苗、移植適期を過ぎた苗などは薬害の恐れがある。
④水稲育苗ハウスを活用して野菜を栽培する場合は、育苗ハウス内で使用しない。（こぼれた農薬が後作の野菜に残留する場合があります。）

水稲除草剤処理一覧表

（初中期一発剤の詳細はP.36参照）

初期剤

漏生イネ対策のため品種変更圃場では使用をお願いします

初期の雑草を抑えて一発剤の効果を最大限引き出す！

10kg 大型規格

1成分 ソルネット 1キロ粒剤

登録内容　移植時～ノビエ1葉期
移植後30日まで

使用適期 7～14日後

一発剤

効果重視ならコレ！

ヒエ、広葉に約50日の長期残効。4成分の万能強力剤！

※R4年産で供給が最後

10kg 大型規格

4成分 シリウスエグザ 1キロ粒剤 直播

登録内容　移植時～ノビエ2.5葉期
移植後30日まで

価格重視ならコレ！

低コストならコレ！ヒエ3葉期まで使えて、しかも長期残効！

10kg 大型規格　40kg 担い手 直送規格

2成分 ガンガン 1キロ粒剤 直播

登録内容　移植時～ノビエ3葉期
移植後30日まで

新規成分サイラを配分！オモダカやヒエを白く枯らします！

10kg 大型規格　40kg 担い手 直送規格

3成分 ジェイソウル 1キロ粒剤 直播

登録内容　移植時～ノビエ2.5葉期
移植後30日まで

作用性の異なる4成分で、ヒエ・広葉に速く効く、長く効く！

10kg 大型規格　40kg 担い手 直送規格

4成分 バッチリLX 1キロ粒剤 直播

登録内容　移植時～ノビエ2.5葉期
移植後30日まで

ヒエに即効性&残効性！ホタルイ・オモダカにも高い効果。豆つぶ・ジャンボの省力剤も！

10kg 大型規格　40kg 担い手 直送規格

3成分 エンペラー 1キロ粒剤 直播

登録内容　移植時～ノビエ3葉期
収穫75日前まで

シリウスエグザの後継剤！エグザのヒエへの長期残効はもちろん！クログワイ等多年性雑草に強くなって新登場！

10kg 大型規格　40kg 担い手 直送規格

3成分 ディオーレ 1キロ粒剤 直播

登録内容　移植時～ノビエ3葉期
移植後30日まで

手強い雑草に喝！ノビエ、ホタルイに効果あっぱれ！！

10kg 大型規格　40kg 担い手 直送規格

3成分 アッパレZ 1キロ粒剤 直播

登録内容　移植時～ノビエ3葉期
移植後30日まで

3成分で、クログワイ等の問題雑草に効果的!!

5kg規格

3成分 銀河 1キロ粒剤 直播

登録内容　移植時～ノビエ3葉期
収穫60日前まで

省力剤

水口から流し込みで均一に拡散！藻の発生時でも使える。

4成分 シリウスエグザ顆粒 直播

登録内容　移植直後～ノビエ2.5葉期
移植後30日まで

投げこみタイプ

4成分 シリウスエグザジャンボ

登録内容　移植直後～ノビエ2.5葉期
移植後30日まで

畦畔からパラパラとまくだけで豆つぶが勝手に動いて均一に拡散！

ひしゃく散布が便利です！

3成分 エンペラー豆つぶ250 直播

登録内容　移植直後～ノビエ3葉期
収穫75日前まで

畦畔からサッとまくだけ！風上からの散布でより省力的に！

詳しくは巻末チラシをご覧下さい。

4成分 バッチリLX400FG 直播

登録内容　移植直後～ノビエ2.5葉期
移植後30日まで

注意：ジャンボ剤、豆つぶ剤、FG剤は藻の発生前に散布して下さい。

取りこぼし時の薬剤についてはP.41へ

水稲除草剤の使用時期の目安

【前提条件：代かき5月1日、田植え5月5日（代かきから田植えまで5日以内）】

月	日	代かきからの日数
4月	25	
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	
5月	1	1
	2	
	3	
	4	
	5	5
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	10
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	15
	16	
	17	
	18	
	19	
	20	20
	21	
	22	
	23	
	24	
	25	25
	26	
	27	
	28	
	29	
	30	30
	31	
6月	1	
	2	
	3	
	4	35
	5	

代かき　田植え

＋

体系処理　ソルネット1キロ粒剤　＋

薬剤	代かき	田植え（ソルネット粒）	薬剤名	散布時期	収穫期
シリウスエグザ１キロ粒剤	ノビエ 2.5葉期まで	▲ 田植時処理	シリウスエグザ	7日後 14日後まで	（登録は移植後30日まで）
ガンガン１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで		ガンガン	7日後 14日後まで	（登録は移植後30日まで）
ディオーレ１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで		ディオーレ	7日後 14日後まで	（登録は移植後30日まで）
バッチリLX１キロ粒剤	ノビエ 2.5葉期まで		バッチリLX	7日後 14日後まで	（登録は移植後30日まで）
エンペラー１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで		エンペラー	7日後 14日後まで	（登録は収穫75日前まで）
銀河１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで		銀河	7日後 14日後まで	（登録は収穫60日前まで）
ジェイソウル１キロ粒剤	ノビエ 2.5葉期まで		ジェイソウル	7日後 14日後まで	（登録は移植後30日まで）
アッパレZ１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで		アッパレZ	7日後 14日後まで	（登録は移植後30日まで）

一発処理（田植同時）

薬剤	代かき	田植時処理	散布時期	収穫期
シリウスエグザ１キロ粒剤	ノビエ 2.5葉期まで	▲	10日後まで	（登録は移植後30日まで）
ガンガン１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで	▲	14日後まで	（登録は移植後30日まで）
ディオーレ１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで	▲	14日後まで	（登録は移植後30日まで）
バッチリLX１キロ粒剤	ノビエ 2.5葉期まで	▲	10日後まで	（登録は移植後30日まで）
エンペラー１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで	▲	14日後まで	（登録は収穫75日前まで）
銀河１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで	▲	14日後まで	（登録は収穫60日前まで）
ジェイソウル１キロ粒剤	ノビエ 2.5葉期まで	▲	10日後まで	（登録は移植後30日まで）
アッパレZ１キロ粒剤	ノビエ 3葉期まで	▲	14日後まで	（登録は移植後30日まで）

省力剤

薬剤	代かき	散布時期	収穫期
シリウスエグザ顆粒	ノビエ 2.5葉期まで	5日後 10日後まで	（登録は移植後30日まで）
シリウスエグザジャンボ	ノビエ 2.5葉期まで	5日後 10日後まで	（登録は移植後30日まで）
エンペラー豆つぶ250	ノビエ 3葉期まで	5日後 10日後まで	（登録は収穫75日前まで）
バッチリLX400FG	ノビエ 2.5葉期まで	5日後 10日後まで	（登録は移植後30日まで）

<除草剤使用上の注意>
・代かき直後から発生するノビエに対しては、除草剤の使用時期が遅れると効果が劣るので、ノビエの葉令に注意し、遅れないように使用して下さい。
・このため、一般に実際の使用時期（適期）は、登録上の使用期間より短く、除草剤が安定した効果を発揮するノビエの葉令までが適期となります。
・散布後７日間の止水管理を徹底し、強制落水はしないで下さい。

初中期一発剤の詳細はP.36へ
中後期剤の詳細はP.41へ

主な水稲除草剤の登録と使い分け

初中期一発剤

ヒエ重視

- ディオーレ
- エンペラー
- シリウスエグザ
- バッチリLX
- アッパレZ

ヒエ

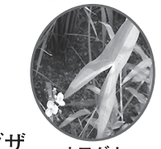
ホタルイ重視

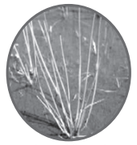
- エンペラー
- アッパレZ
- ディオーレ
- バッチリLX
- シリウスエグザ

ホタルイ

多年生雑草重視

- ディオーレ
- アッパレZ
- エンペラー
- 銀河
- シリウスエグザ


オモダカ


クログワイ

畦畔侵入性雑草重視

- ジェイソウル
- ディオーレ
- シリウスエグザ
- エンペラー

イボクサ

アシカキ

中後期剤

1成分で
ヒエ・オモダカ・
クログワイ等の
広葉にも効く！
収穫45日前まで
使える！

1成分 アトトリ 1キロ粒剤　直播　豆つぶ

ヒエや
ホタルイなど
問題雑草を
難なく一掃する
最上級除草剤！

4成分 レブラス 1キロ粒剤　直播　ジャンボ

区分	品名	使用時期
初期剤	ソルネット1キロ粒剤	植代後～移植前7日前 又は移植時～ノビエ1葉期 但し、移植後30日まで
初中期一発剤	シリウスエグザ1キロ粒剤	移植時～ノビエ2.5葉期まで 但し、移植後30日まで
	シリウスエグザジャンボ	移植直後～ノビエ2.5葉期まで 但し、移植後30日まで
	シリウスエグザ顆粒	移植直後～ノビエ2.5葉期まで 但し、移植後30日まで
	ガンガン1キロ粒剤	移植時～ノビエ3葉期まで 但し、移植後30日まで
	エンペラー1キロ粒剤	移植時～ノビエ3葉期まで 但し、収穫75日前まで
	エンペラー豆つぶ250	移植直後～ノビエ3葉期まで 但し、収穫75日前まで
	バッチリLX1キロ粒剤	移植時～ノビエ2.5葉期まで 但し、移植後30日まで
	バッチリLXジャンボ	移植直後～ノビエ2.5葉期まで 但し、移植後30日まで
	バッチリLX400FG	移植直後～ノビエ2.5葉期まで 但し、移植後30日まで
	アッパレZ1キロ粒剤	移植時～ノビエ3葉期まで 但し、移植後30日まで
	ディオーレ1キロ粒剤	移植時～ノビエ3葉期まで 但し、移植後30日まで
	ジェイソウル1キロ粒剤	移植時～ノビエ2.5葉期まで 但し、移植後30日まで
	銀河1キロ粒剤	移植時～ノビエ3葉期 収穫60日前まで
中・後期剤	ヒエクリーン1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで
	クリンチャー1キロ粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで
	クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで
	トドメMF１キロ粒剤	移植後14日～ノビエ5葉期まで 但し、収穫50日前まで
	トドメMF乳剤	移植後14日～ノビエ7葉期まで 但し、収穫50日前まで
	バサグラン粒剤	移植後15日～55日 但し、収穫60日前まで
	バサグラン液剤	移植後15日～55日 但し、収穫50日前まで
	アトトリ1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで
	レブラス1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで
	レブラスジャンボ	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで
	クリンチャーバスME液剤	移植後15日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで
	モゲトン粒剤	藻類・表層はく離の発生時 ウリカワの増殖初期（2～4葉期） 但し、収穫45日前まで
	ロイヤント乳剤	移植後20日～ クサネムの草丈70cmまで 但し、収穫45日前まで

※令和3年10月末時点での農薬登録内容ですので、ラベルを確認の上使用願います。

ヒエ対策特集

おすすめ除草体系

【初期剤（田植同時可）＋初中期一発剤＋中後期剤】

メリット　初期剤の抑草効果がプラスされるため、一発処理より長期間抑草効果が得られる

●５月の水温気温が低い場合は後発ヒエに注意！！
一発剤での処理ができない可能性も高いため、ヒエクリーン等中後期剤を使用
ヒエへの長期残効が得られる一発剤！！

初期剤

ソルネット 1キロ粒剤

＋

一発剤

シリウスエグザ 1キロ粒剤
2.5葉まで

ディオーレ 1キロ粒剤
3葉まで

バッチリLX 1キロ粒剤
2.5葉まで

エンペラー 1キロ粒剤
3葉まで

＋

中後期剤

ヒエクリーン 1キロ粒剤・豆つぶ250

ヒエへの残効が認められる数少ない中後期剤。豆つぶでの省力散布が可能！移植後15日からノビエ4葉期までの散布でノビエを抑草できます。成分特性上長期間ゆっくりノビエの発生を抑えます。

収穫までに除草できなかった場合
――秋作業で雑草を減らそう――

○石灰窒素の効果

①石灰窒素はノビエの休眠を覚醒させる効果があります。
②稲刈後、できるだけ早く石灰窒素を全面散布することで、地表に落ちているノビエ種子の休眠が覚醒され発芽し、冬の寒さで枯死します。
③発芽には18℃以上の気温が15日ぐらいと発芽できる土壌水分が必要です。秋に発芽しなかった場合は、春先、田植前に一斉に発芽しますのでこの時にすき込みます。

- 使用方法：10ａあたり40kg施用
- 注 意 点：①散布してから１か月後に田起こしを行ってください。
  ②窒素成分が含まれるので、翌春の基肥量を２割程度減らしてください。

○「プリグロックス」の散布

●刈取後に発生するヒエの除草と、薬液を直接種子に付着させることで発芽を抑えます。毎年散布することで雑草の発生量を低減できます。

- 使用方法：10ａあたり100倍希釈液を150リットル散布してください。
- 注 意 点：秋起こしする前に散布する必要があります。

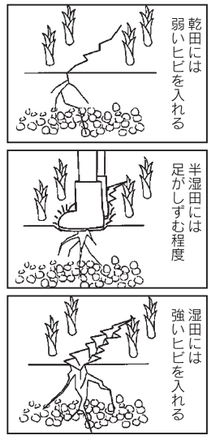
6月 中干し開始は田植え後１か月

過剰生育を抑えて適正穂数に誘導します。地耐力を高めます。

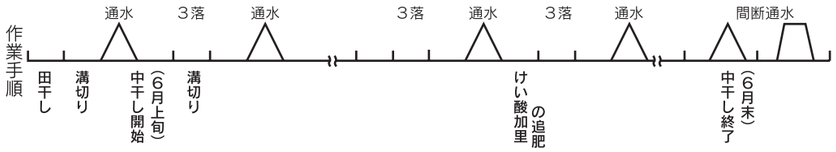
❶ 田植後１か月の中干しを徹底しよう！

- 中干し開始の目安は、目標穂数の70%の茎数が確保された時期です。
  （コシヒカリの場合：１株14～15本）
- 溝切りを実施し中干しを効果的に実施する。
- 中干しの程度は田面に小ヒビが入るぐらいにし、これを2～3回繰り返す。
- 乾田では、強く干しすぎたり、大ヒビを入れると、根を切ったり圃場の水持ちが悪くなるので注意する。

〈中干しの程度〉



《中干しのやり方（1日通水、3日落水）》



～中干し・溝切りの効果～

〈中干し〉

①ムダな分げつを抑制　→　実りの悪い穂を減らし、屑米や乳白粒を減らす
　　→　茎が強く太くなり、倒伏が軽減される

②土に酸素を供給　→　根張りが良くなる　→　収量・品質向上、倒伏軽減

③地耐力の向上　→　地面が締まり、コンバインが入り易くなる

〈溝切り〉

①均一な水管理が可能　→　圃場全体の生育が揃い、品質のバラツキが減り、収量も向上

②通排水をスムーズに　→　収穫直前までの通水管理が可能になり、収量品質が向上
　　→　フェーン等、緊急時に迅速な入水ができる
　　→　収穫時期の雨でも水が溜りにくく、適期収穫が可能に

〈中干し開始時期（目安）〉

中干し開始適期（15本／株）　　中干し開始おくれ（20本以上／株）

〈溝切り〉

溝の連結は忘れずに

❷ 初期病害虫防除

●いもち病の予防を確実に

使用時期	薬　剤　名	10aあたり使用量	対象病害虫
６月中旬	オリゼメート1キロ粒剤	１kg	葉いもち

（注）使用後4～5日間は湛水状態を保ち、7日間は強制的に落水しない。

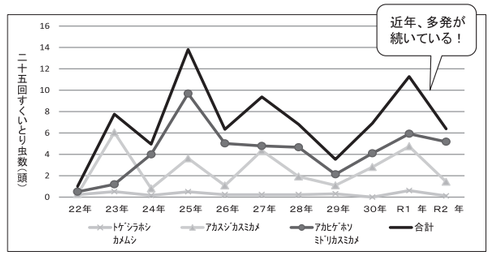
●ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、イネドロオイムシの防除

使用時期	薬　剤　名	10aあたり使用量	対象病害虫
６月上旬	トレボン粉剤DL	３～４kg	ニカメイチュウ
６～７月	トレボン粉剤DL	３kg	フタオビコヤガ（イネアオムシ）
６月	トレボン粉剤DL	３kg	イネドロオイムシ

●棲み処を無くしてカメムシ対策

除草の徹底により斑点米カメムシ類の発生を元から絶とう

カメムシ類の発生源となる畦畔雑草地については、カメムシ類の生息密度を抑えるため、6月中旬から7月上旬まで草がない状態を保ち、7月上旬には仕上げ除草を行う。



雑草地におけるカメムシ類生息密度調査結果
（JA白山管内:6月下旬～7月上旬調査）

❸ けい酸加里の追肥で稲体の健全化

施用時期	肥料名	施肥量	備　考
６月中・下旬 ※早生は6月中旬	けい酸加里プレミア	40kg／10a	代かき前全層散布も可 （その場合は60kg施用）
	ＢＢグッドサポート		
	省力 エスアイ加里カリ投げくん	4kg／10a（200g×20個）	動散での散布が困難な方へ おすすめの投げ込み肥料
	ファイトアップ	500g／10a（50g×10錠）	湛水状態で散布。全面処理。

※けい酸加里プレミアを施用できない場合は基肥一発に「けい酸アップ・コシ一発くん」を使用してください。
　但し、土づくりによるケイ酸分の補充は継続しないと、土壌中のケイ酸は減少していきます。
※カリ投げくんは湛水状態（5cm以上）で投げ入れ、4～5日間は水を切らさないようにする。
※ファイトアップの効果「毛細根」が充実し、生育を促進→健全な強い稲に

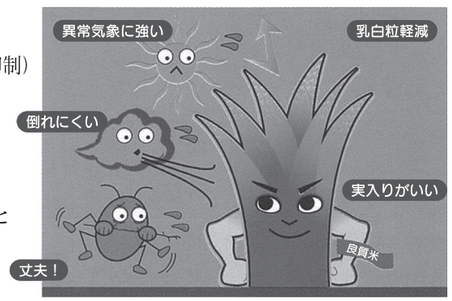
けい酸施用の効果

①高温障害に対する耐性向上 注目
　根の活力が向上し、養分・水の吸収量アップ
→気孔からの蒸散活性化により穂の高温化防止→登熟向上（乳白粒発生の抑制）

②登熟向上による収量・品質・食味向上 注目
　受光体勢が良くなり光合成が良好→デンプンの蓄積が増大
→タンパク含量を抑え、乳白粒発生減少

③葉いもちや虫害に強くなる
　けい酸が稲体の表面に集積（ケイ化細胞）→病害虫の侵入を防ぐ鎧となり、抵抗力を高める

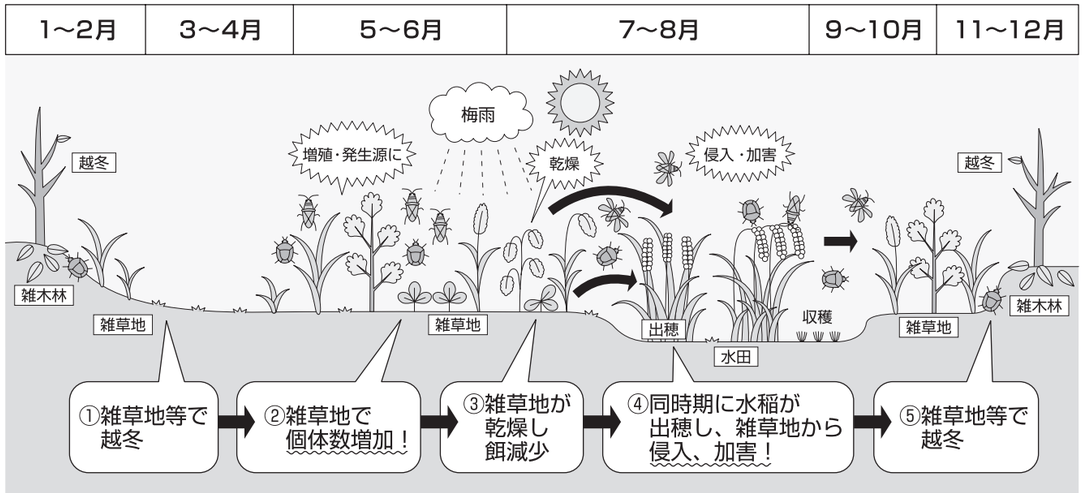
④倒伏に強くなる
　茎葉や稈が強くなる



除草の徹底によるカメムシ対策について

斑点米の原因となるカメムシの防除のためには、殺虫剤による直接的な対策も欠かせませんが、生息場所や繁殖源となる雑草の防除によって発生する個体数自体を少なくしていくことが基本です。

斑点米カメムシ類の生活史



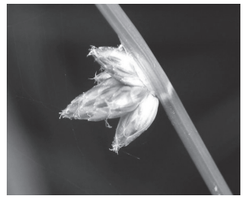
対策1 畦畔等雑草地の除草

農道や畦畔等の雑草地は、カメムシの発生源および水田へ侵入する中継点となります。したがって、これらの除草を徹底し、草が無い状態をできるだけ長く保つことが大原則です。また、水稲出穂期頃の除草は、雑草地のカメムシを水田内へ追い込むほか、この時期までずっと雑草を放っておいても、雑草地自体の乾燥による餌の減少を受けて水田侵入が助長されるので、6月頃から出穂期頃まで、期間をとおして雑草を少なく維持しておくことが重要な対策となります。

対応 春先除草 ⇨ **6月除草** ⇨ **7月上旬仕上げ除草** ⇨ 収穫前除草

対策2 水田内雑草の除草

近年、ヒエやホタルイ等、水田内雑草がカメムシの発生源、誘引源となって斑点米被害を増加させることがわかってきました。これらの雑草が水田内に多く生えてしまった場合、雑草が穂をつける前に中後期除草剤により除草をしてください。
※水田内の取りこぼし雑草が多いときの対応については右ページ参照。


ホタルイの穂

カメムシの生態に基づいた雑草管理によって、斑点米被害を効果的に減らしていきましょう！

■水田内の取りこぼし雑草が多いときの草種別除草剤の選択

《ヒエ剤》ノビエの取りこぼしが多いとき

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	使用方法	使用上の注意
ヒエクリーン 1キロ粒剤（豆つぶ）※1	移植後15日～ ノビエ4葉期（但し、収穫45日前まで）	1kg	湛水状態で散布 本剤は遅効性であるが抑草期間は長い。	① 水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に使用する。 ② 使用後7日間は湛水状態を保ち落水、かけ流しをしない。
クリンチャー 1キロ粒剤（ジャンボ）※2	移植後7日～ ノビエ4葉期（但し、収穫30日前まで）	1kg	湛水状態で散布 残効性がないので処理時期を見極めて散布する。（年2回まで）	
	移植後25日～ ノビエ5葉期（但し、収穫30日前まで）	1.5kg		
クリンチャーEW	移植後20日～ ノビエ6葉期（但し、収穫30日前まで）	薬量100㎖ 希釈水量100ℓ（1,000倍）	落水状態で散布（年2回まで）	① 展着剤（「ハイテンパワー」等）を加用する。 ② 均一に雑草茎葉散布する。
トドメMF 1キロ粒剤	移植後14日～ ノビエ5葉期まで（但し、収穫50日前まで）	1kg	湛水状態で散布	① 水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に使用する。 ② 使用後3～4日間は湛水状態を保ち、7日間は強制落水、かけ流しをしない。 ③ 強風時には使用しない。
トドメMF乳剤	移植後14日～ ノビエ7葉期まで（但し、収穫50日前まで）	薬量200㎖ 希釈水量100ℓ（500倍）	湛水散布又は落水散布	① 展着剤は不要。 ② 均一に雑草茎葉散布する。

《広葉剤》広葉雑草が多いとき

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	使用方法	使用上の注意
バサグラン粒剤	移植後15～55日（但し、収穫60日前まで）	3～4kg	落水散布またはごく浅く湛水して散布	① 晴天時に使用し、使用後3日間は入水しない。 ② 1年生イネ科雑草には効果がない。 ③ 多年性雑草が部分発生している場合は落水してスポット処理する。
ロイヤント乳剤	移植後20日～ノビエ5葉期まで（但し、収穫45日前まで）	薬量200㎖ 希釈水量100ℓ（500倍）		① 散布後3日後を目安に入水する。 ② ホタルイ、クログワイ、コウキヤガラ等には効果が劣る。

《ヒエ剤＋広葉剤》ノビエや広葉雑草の取りこぼしが多いとき

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	使用方法	使用上の注意
アトトリ 1キロ粒剤（豆つぶ）※1	移植後14日～ ノビエ4葉期（但し、収穫45日前まで）	1kg	湛水状態で散布（年1回まで）	① 水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布する。 ② 使用後7日間は湛水状態を保ち落水、かけ流しをしない。
レブラス 1キロ粒剤（ジャンボ）※2	移植後14日～ ノビエ4葉期（但し、収穫60日前まで）			
クリンチャーバスME液剤	移植後15日～ ノビエ5葉期（但し、収穫50日前まで）	薬量1,000㎖ 希釈水量70～100ℓ（70～100倍）	落水散布又はごく浅い湛水状態で散布（年2回まで）	① 使用液は使用当日に調製すること。 ② 展着剤は加用しない。 ③ 使用前に落水状態にして水の出入りを止め、田面に均一に散布する。 ④ 使用後7日間は湛水状態を保ち落水、かけ流しをしない。 ⑤ 晴天の持続する時を選んで使用する。軟弱苗への使用、重複散布、DCPA剤との近接散布、高温条件の使用はさける。

《クサネム対策》

薬剤名	使用時期	使用量 10a当たり	使用方法	使用上の注意
ノミニー液剤	移植後30日～ クサネムの草丈40cmまで（但し、収穫60日前まで）	50～100㎖	落水又はごく浅い湛水状態で散布（年1回まで）	① 雑草の生育期に薬液が茎葉全体に均一にかかるように加圧噴霧機などで散布する。 ② 3日以上落水（浅水）状態を保つ。 ③ 散布後、6時間以内に降雨が予想される場合は使用を控える。

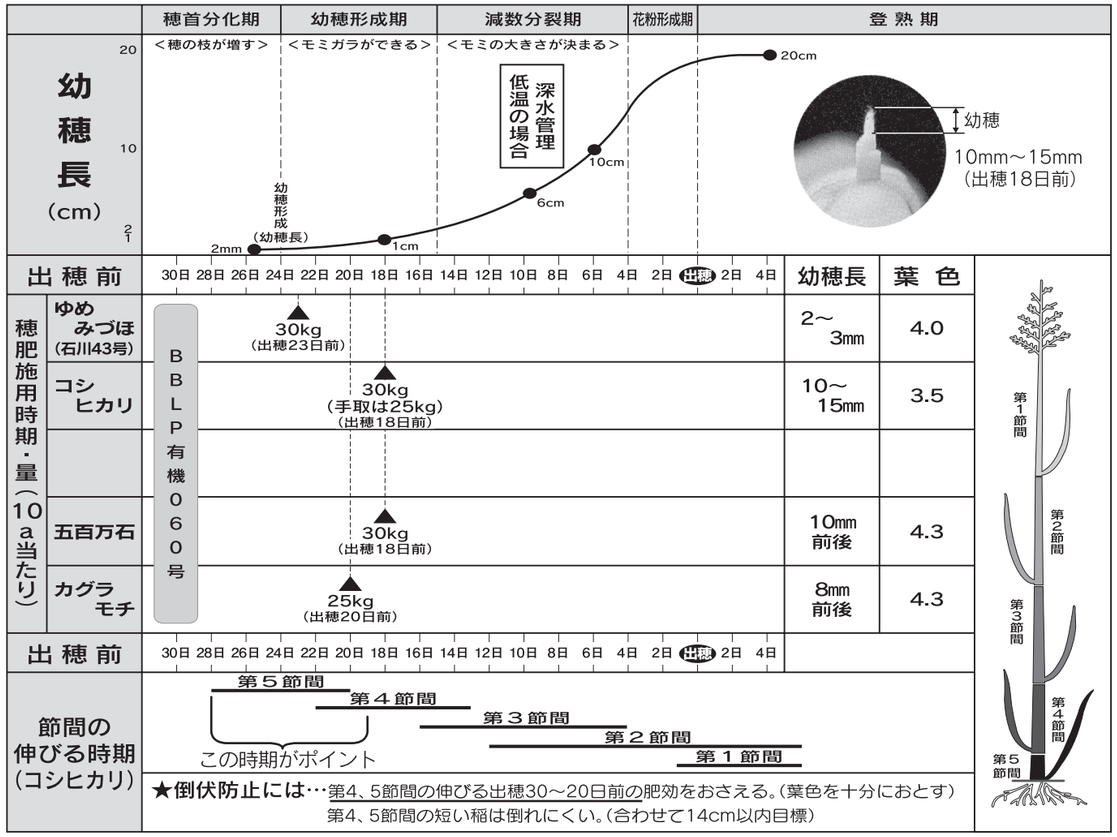
※1 豆つぶ、※2 ジャンボの登録内容については、p.116「農薬の使用基準一覧」参照。

7月 生育に応じた追肥と斑点米カメムシ類防除

的確な追肥で稲の夏バテ防止・登熟向上、生育に合わせた防除で効果的なカメムシ対策。

～生育診断により、的確な追肥対応～

❶ 穂肥の施用基準（分施体系）

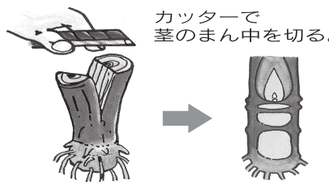


① 自分の田んぼの「穂肥」診断を・・幼穂長・葉色の確認

幼穂の確認方法は？

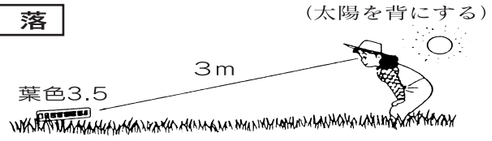
（1） 一株の中の最長茎を抜き取る。（畦畔から1m以上入り、3株以上の株取りが望ましい。）
（2） 茎の中央をカッターで切る。
（3） 幼穂の長さを測る。
コシヒカリは10～15mmが穂肥適期。

幼穂長の確認方法



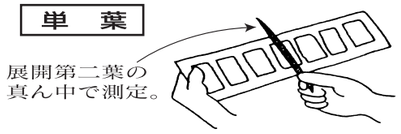
◎カラースケールによる葉色の測定法

群　落



穂肥時の葉色は3.5（コシヒカリ）までおとす。

単　葉



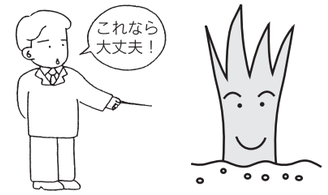
群落測定に比べ0.8程度濃く見える。

❷ 生育、地力に応じた施肥量、時期を判断

茎数が多く葉色が濃い場合は、**穂肥の施肥時期を基準より遅らせたり、施肥量を減らす**などして、乳白粒等の発生を軽減させることが必要です。

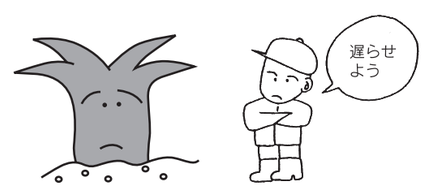
稲の姿による診断

十分穂肥を施用できる稲



・茎揃いが良く、茎数少なめ。
・茎葉が硬い。
・葉色が淡く、直立ぎみ。

穂肥時期を遅らせる稲



・茎数が多い。
・葉が垂れている。
・葉色が濃い。

❸ 追加穂肥（一発肥料＋追肥）の施用について

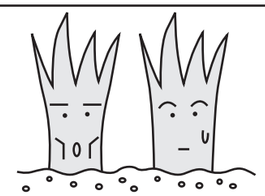
高温登熟が予想される場合は、追加穂肥を施用してください。

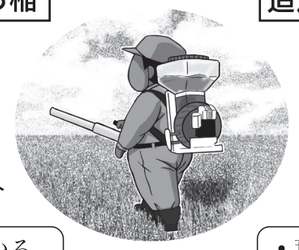
※基肥一発に「コシ一発くんDX24」「早生一発くんDX28」を施用した場合は、追加穂肥は不要です。

施用時期	肥　料　名	施用量
出穂7日前頃（走り穂が出る頃まで）	**BBとれるぞう**	7～10kg/10a程度

〈追加穂肥〉高温年における追加穂肥（出穂7日前頃）

追加穂肥を施用できる稲

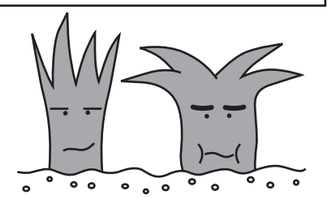




• 葉色が淡く、直立している。
• 茎葉が硬い。
• 下位節間が短い。

葉耳間長が＋5～10cm

追加穂肥を施用できない稲



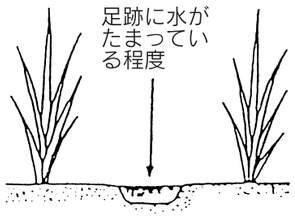
• 葉色が濃い。
（ゆめみづほで葉色板5以上、コシヒカリで葉色板4.5以上ひゃくまん穀で葉色板4以上）
• 草丈が長い。
• 葉が垂れ、乱れている。
• 下位節間が長い。

葉耳間長が＋10cmより長い

玄米タンパク質含有率が高まるので、出穂以降は絶対に施用しない。

④ 水管理　飽水管理で高品質化

●飽水状態とは

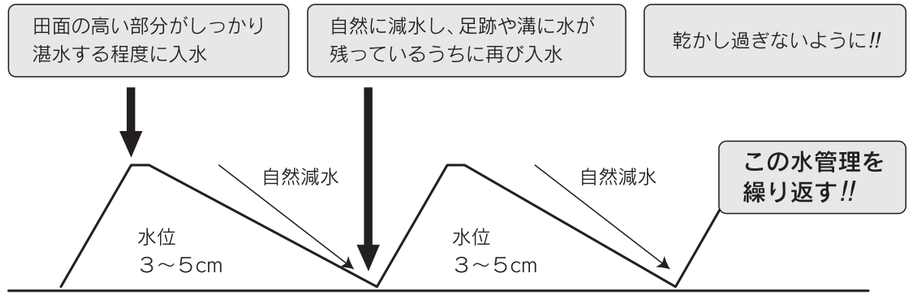


歩くと少し水が染み出す程度

「田面の足跡や溝に水が溜まっている状態」
を保つ水管理のこと

効果
- 根が常に水分吸収可能な状態を維持します。
- 地力窒素の発現を促して後期栄養を供給します。
- 下葉の枯れ上がりや倒伏を抑制します。
- デンプンの転流を助け未熟粒の発生を防ぎます。

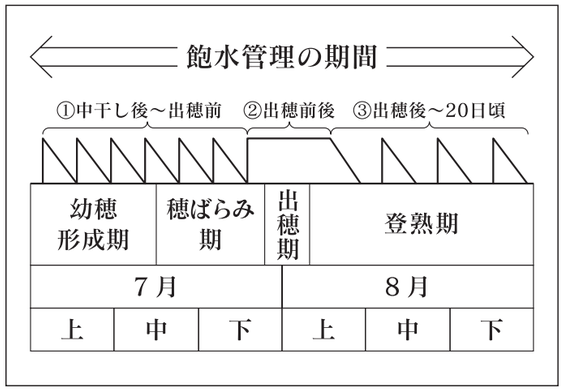
●中干し終了後の管理（幼穂形成期から出穂後３週間）



①中干し後～出穂期
- 中干し後は間断通水を行い、水分と酸素を交互に供給して稲体の活力を保つとともに、地耐力の維持を図る。
- 出穂15～5日前に低温（17℃以下）が予想される場合は、深水にして幼穂を守る。
- 穂肥・追加穂肥の施用時は、浅く湛水し、肥料の分解を促すとともに肥効の均一化を図る。

②出穂前後
- 幼穂形成期から出穂・開花期にかけては水を最も必要とする時期のため、花水として湛水する。ただし溜めっぱなしを避け、水の入れ替えに努める。

水管理のイメージ（コシヒカリの場合）

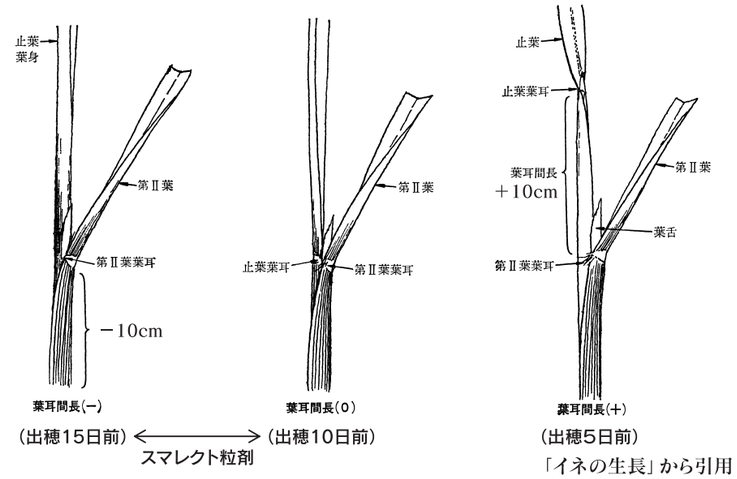


③出穂後～20日頃
- 開花後は間断通水を行い、根の活力を維持する。
- 登熟期に高温が続く場合、できれば夜間入水により地温を下げる。
- 強風やフェーン現象等の一時的な異常高温が予想される場合、あらかじめ十分に入水し、稲を高温から守る。

⑤ 倒伏軽減剤の使用について

薬　剤　名	使用適期	使 用 量	作 用	使　用　上　の　注　意
スマレクト粒剤	出穂 15～10日前	2～3kg/10a （5日間湛水）	上位節間の伸長を抑制	① 湛水状態で均一に散布し、使用後7日間は落水やかけ流しをしない。 ② 時期・量を守らないと、枝梗や籾数が減少する恐れがあるので使用基準を厳守する。 ③ 使用した田では野菜等の床土利用や後作利用をしない。 ④ 薬剤のみでは完全に倒伏を防止することはできないので、基本的な倒伏防止技術と組み合わせて使用する。

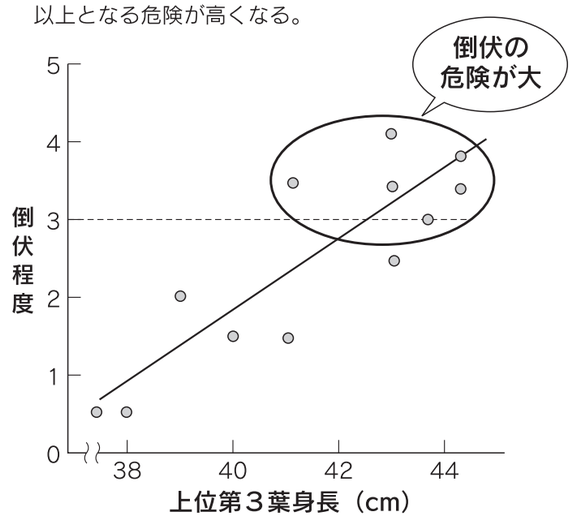
●出穂 15～5 日前の稲の姿（葉耳間長での判断方法）



「イネの生長」から引用

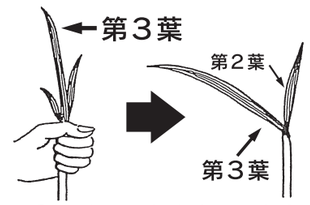
●葉の長さを目安とした倒伏診断

上位第３葉の長さが42cm以上になると、倒伏程度３以上となる危険が高くなる。



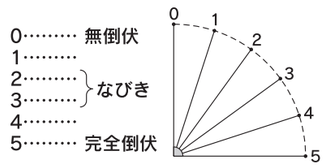
上位第３葉身長と倒伏程度の関係
（武生現地試験）（佐藤ら1991改写）

■上位第３葉の見分け方



上位第３葉は止葉を含めて上から３枚目の葉で出穂23～20日前頃に完全展開している最も新しい葉。通常、この時期の最長葉が３枚目に相当する。
下から数えて11枚目か12枚目にあたる。

■倒伏程度のイメージ（６段階法）



防除体系

※早生（ゆめみづほ・五百万石）について、紋枯病対策として
苗箱処理剤は「エバーゴルプラス箱粒剤」を使用して下さい。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
早生	苗箱処理 **エバーゴルプラス箱粒剤** 50g／箱 播種時（覆土前）～田植当日 いもち病、紋枯病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ等				
中生	苗箱処理 **Ｄｒ．オリゼリディア粒剤** 50g／箱 田植3日前～田植当日 いもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ等				

＜随時防除＞

ニカメイチュウ
6月上旬
トレボン粉剤DL
3~4kg／10a

幼虫が稲体に潜り食害し、稲の茎が折れて倒伏する場合もある。

墨黒穂病
稲こうじ病
7月上旬
Zボルドー粉剤DL
3~4kg／10a
〈空散防除〉
トライフロアブル
8倍
0.8L／10a

出穂前に感染する。
穂ばらみ期～出穂にかけて雨が多く、低温・日照不足に発生が多い。

フタオビコヤガ
6月～7月
トレボン粉剤DL
3kg／10a

幼虫が稲体に潜り食害し、稲の茎が折れて倒伏する場合もある。

紋枯病
7月上中旬
モンセレン粉剤DL
4kg／10a
モンセレンフロアブル
500倍
25L／10a

病斑は下位から上位へ次第に進展する。穂ばらみ期以降に急激に上位進展し枯れあがる。

イネドロオイムシ
6月
トレボン粉剤DL
3kg／10a

いもち病
発生時
ブラシン粉剤DL
4kg／10a

水稲での最重要防除病害。
箱処理剤をしっかり施用することが重要。

●防除のポイント

・育苗箱処理剤を１箱当たり50ｇを厳守して使用することで、薬剤の効果を本田防除時期まで持続させる。
薬剤を減らすと、抵抗性害虫や耐性菌の出現を助長させる。

・カメムシの多発時及び常発地は、追加防除を実施する。

出穂期の正しい判断が適期防除の第一歩！

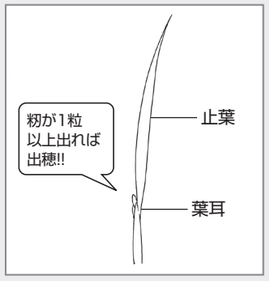
効果的な防除のために、適期に合わせて2回散布を徹底しましょう。なお本年の出穂期予想は農事メモにてご案内しますので、それに基づき適期防除を行ってください。

【出穂期】
圃場全体の40～50%が出穂した状態。

2～3日後

【穂揃期】
圃場全体の80～90%が出穂した状態。

（参考）この状態でも出穂です！



基幹防除時期のイメージ　詳しい散布時期は農事メモ参照

＜粉剤体系＞

※R5年で供給終了予定

	7 月 上旬	7 月 中旬	7 月 下旬	8 月 上旬	8 月 中旬	8 月 下旬
早生			出穂期	7月下旬～8月上旬 ※ **ビームキラップ** **ジョーカー粉剤DL** 4kg／10a / いもち病・カメムシ類 ウンカ類他	8月上中旬 **スタークル粉剤DL** 3kg／10a / カメムシ類他	
中生			出穂期	8月上旬 ※ **ビームキラップ** **ジョーカー粉剤DL** 4kg／10a / いもち病・カメムシ類 ウンカ類他	8月中旬 **スタークル粉剤DL** 3kg／10a / カメムシ類他	

＜液剤防除体系＞

	7 月 上旬	7 月 中旬	7 月 下旬	8 月 上旬	8 月 中旬	8 月 下旬
早生			出穂期	7月下旬 **ビームエイトトレボンゾル** / いもち病 カメムシ類他	8月上旬 **スタークル液剤10** / カメムシ類他	
中生			出穂期	8月上旬 **ビームエイトトレボンゾル** / いもち病 カメムシ類他	8月中旬 **スタークル液剤10** / カメムシ類他	

＜微粒剤体系＞（専用散布ホースが必要です。）

	7 月 上旬	7 月 中旬	7 月 下旬	8 月 上旬	8 月 中旬	8 月 下旬
早生			出穂期	7月下～8月上旬 **ビームスタークル** **微粒剤F** 4kg／10a / いもち病・カメムシ類 ウンカ類他	8月上中旬 ※ **キラップ微粒剤F** 4kg／10a / カメムシ類他	
中生			出穂期	8月上旬 **ビームスタークル** **微粒剤F** 4kg／10a / いもち病・カメムシ類 ウンカ類他	8月中旬 **キラップ微粒剤F** 4kg／10a / カメムシ類他	

＜粒剤体系＞

	7 月 上旬	7 月 中旬	7 月 下旬	8 月 上旬	8 月 中旬	8 月 下旬
早生		7月中旬 ※ **イモチエース** **キラップ粒剤** 3kg／10a / いもち病・紋枯病・カメムシ類	出穂期	8月上旬 **スタークル粒剤** **(スタークル豆つぶ)** 3kg(250g)／10a / カメムシ類		
中生		7月中下旬 ※ **イモチエース** **キラップ粒剤** 3kg／10a / いもち病・紋枯病・カメムシ類	出穂期		8月中旬 **スタークル粒剤** **(スタークル豆つぶ)** 3kg(250g)／10a / カメムシ類	

8月 収獲までのきめ細やかな通水管理

稲の活力を維持し終盤の登熟を高めます。胴割粒を防止します。

❶ 品質向上のための水管理

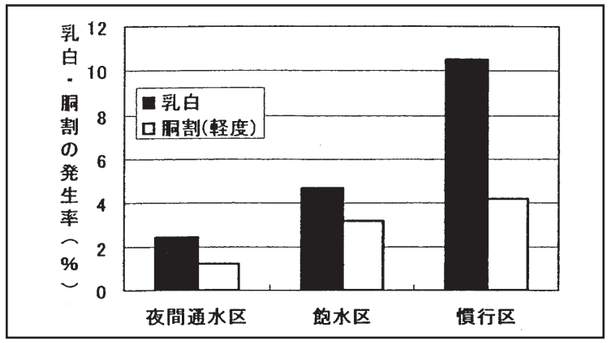
●登熟期（8月上旬～刈取り4～3日前）

①2～3日おきの間断通水が基本であるが、高温等の稲体が消耗する気象条件下では、毎日でも通水を実施する。
ただし、出穂期を含め、強風、フェーンを伴う場合はあらかじめ通水し、土壌水分を保持しておく。
（登熟後半ほど必要。特に収穫直前のフェーンによる水分変化は胴割粒多発の最大の原因）

②高温となる日中の湛水を避け根の健全化に努める。通水は夜間通水が効果的。

③刈取り4～3日前まで間断通水を継続すること。

出穂後の水管理が品質に及ぼす影響（石川農研）



高温年においては5日間隔の間断通水を行う慣行区に比べて、夜間通水により乳白粒や胴割粒の発生が抑えられる。
夜間通水を行えない場合でも、通水間隔を短くして土壌を常に飽水状態に維持すると、慣行区に比べて乳白粒や胴割粒の発生を抑えることができる。

飽水管理で良好な稲体
根部が健全であり、登熟も良い。

水不足の稲体
根部が不健全であり、乳白粒や着色粒が発生しやすい。
また、早期落水で胴割粒が発生しやすい。

●落水時期

○農作業に支障のないかぎり、落水時期を遅らせ、高温登熟の場合は、刈取直前まで通水する。

－早すぎる落水は、米の収量・品質を低下させる－

・落水の時期が早すぎると、イネの根の機能を早く弱め、稲全体の活力を急激に落とす。その結果、デンプンを作って穂に送る葉の働きを弱めて、籾の肥大を途中で止めるために、シイナやクズ米が多くなり、収量が低下する、又、胴割粒の発生をまねくことになり品質も低下する。

・水分不足で稲体の機能が低下すると、下葉の枯れ上がりが多くなり、着色粒の発生や各種の病害に対する抵抗力も弱くなる。

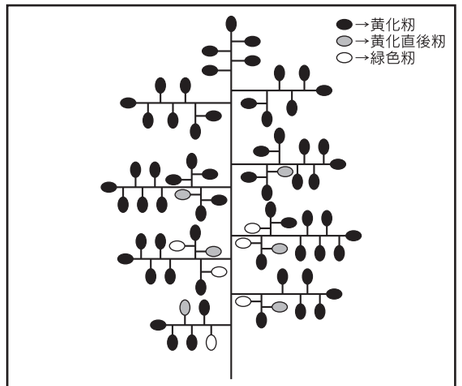
❷ 品種別刈取適期の目安

●全籾数の85～90%が黄化したとき。
（枝梗が青くても、籾の黄化具合で判断する。）

品　種　名	出穂期からの登熟日数
ゆめみづほ（石川43号）	32日程度
五　百　万　石	39日程度
コ シ ヒ カ リ	35～38日程度
カ グ ラ モ チ	41日程度

・登熟日数や刈取り目安は登熟期が高温に経過した場合はさらに早くなる場合があります。

刈取適期の籾の黄化状況（籾黄化率90%）



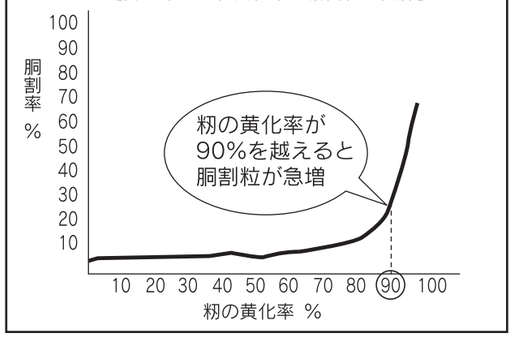
穂の下の方にわずかに緑色の籾が残っている。

●高温年次におけるコシヒカリの胴割粒の発生について。

高温年次は、籾の黄化率が70%頃から胴割粒の増加が始まり、籾の黄化率が90%を越えると胴割粒が急増します。

このため、高温年次には胴割粒の発生を防ぐため、やや早めの刈取りが必要です。

【高温年次の籾黄化率と胴割粒の関係】



【コシヒカリの刈取適期目安】

	登熟期間の平均気温	籾の黄化率	積算気温	出穂後日数
高温年	**27℃以上（手取は25℃以上）**	**80～85%**	**990℃（手取は920℃）**	**36日**
平　年	27℃未満（手取は25℃未満）	85～90%	1,050℃（手取は990℃）	40日

なお、籾の黄化率の目安を85%とすれば、今までの籾の黄化率90%に到達するよりも2～3日早く、刈取適期となります。

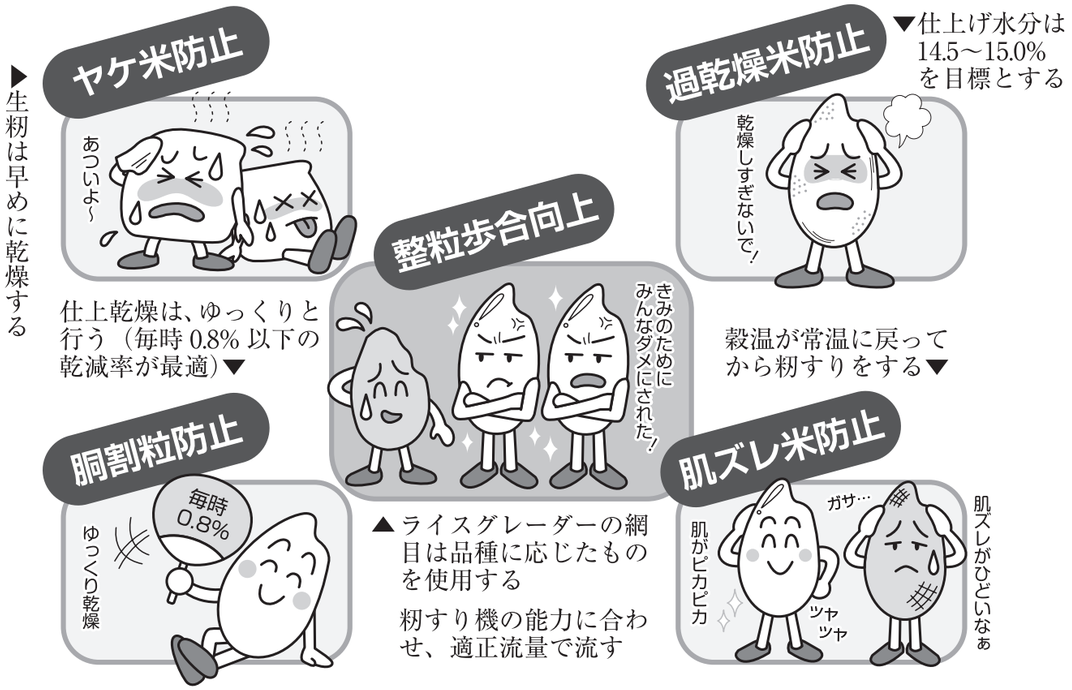
❸ カメムシ類の出穂後の防除

薬剤名	対象害虫	使用量 10a当たり	使用時期	本剤の使用回数
スタークル粉剤DL	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	3kg	出穂 10～14日後	3回以内
スタークル液剤10	カメムシ類、ウンカ類 ツマグロヨコバイ	60～150L（希釈倍率1,000倍）	出穂 10～14日後	3回以内

9月 適切な乾燥調製作業

整粒歩合を高め、きれいな米に仕上げます。

◆ 万全な仕上げ5つのポイント



乾燥調製作業チェック

●乾燥作業の留意点

- □ 本格的な作業の前に事前作業を行い、各部の点検を実施しましたか？
- □ 生籾は3時間以内に乾燥機へ張り込み、通風・乾燥しましたか？
- □ 過乾燥米や高水分米を絶対出さないようにするため、玄米水分は14.5～15.0%を目標に均一に仕上げましたか？

※高温時の乾燥注意点

・刈取時の籾水分が低い時には、水分をチェックして乾燥する。
・低い送風温度で乾燥し、急乾燥はしない。（熱風温度：40～45℃（穀温35℃以下））
・張り込み後、昼間は通風のみとし夜間に温度をかける。

●調製作業の留意点

- □ 砕米や肌ずれ米の発生を防ぐため、穀温を充分に冷まし、玄米水分を均一にしてから籾摺りを行いましたか？
- □ もみ混入、量目不足、異物（石、クサネム等）混入がないよう調製しましたか？

お米への異物混入防止を徹底しましょう

異物混入防止チェック

□ 納屋・作業場の清掃を徹底しましたか？

ネズミが住み着く理由は、雨露をしのぐことのほかに、エサとなる米粒などが落ちていることが原因です。**このため、清掃を徹底することが一番の対策です。**

□ 使用後のコンバイン・乾燥機・籾すり機の清掃を徹底しましたか？

機械内に残っている残米を取り除いてください。必ず電源スイッチを切ってから行い（キー、プラグは抜く）、取り外したカバー・フタは、必ず元どおりに取り付けてください。

ネズミ対策のポイント

①倉庫内の米粒やゴミ等がネズミの餌となります。**倉庫内の清掃が一番の対策** となります。

②農産物を扱う作業場では、異物混入の危険性があるため、**ネズミ駆除剤は絶対に使用せずに、粘着シートで対応** してください。

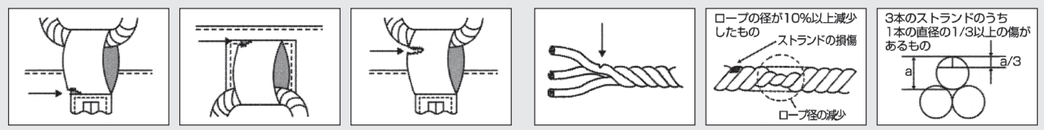
注：ネズミ駆除剤は、ホームセンターやドラッグストアなどでも販売されておりますが、**納屋や作業場等ではお米に混入する危険性が高いため、絶対に使用しない**ようにお願いいたします。

【フレコンをお使いの方へ】

近年、JA乾燥施設への持込みの際に、フレコンのひも切れ事故が多発しております。搬入の際には必ず点検をお願いします。

次のような時は、買い替え（廃棄）をお願いします。

ご使用前には必ず各部の異常の有無及び部品の欠落の点検をお願いします。



●吊りベルトに傷、切れ、著しいけば立ち等がないか確認してください
●吊りロープに傷、切れ、著しいけば立ち、ロープ径の減少がないか確認してください

異品種・異物混入防止を徹底しましょう

石川の米をご愛顧いただく
消費者・取引先の
信頼に応えていくために
使用前、品種が変わる際、使用後には
コンバイン・乾燥機・籾すり機を清掃し
異品種や異物の混入を防止しましょう

作業をする際の注意点

コンバイン
- 必ずエンジンを停止し、メインスイッチキーを抜いてください
- エンジン、マフラーが冷えてから作業してください
- 取り外したカバー類は、必ず元の位置に取り付けてください

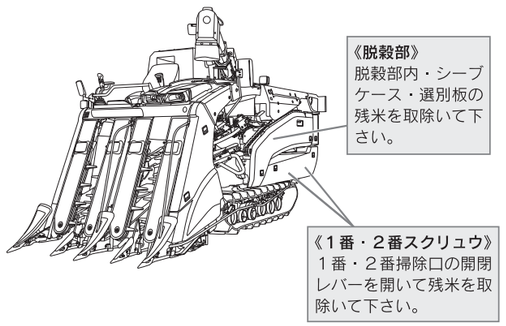
乾燥機
- 必ず元電源のコネクタを抜いてください
- はずしたカバー、点検フタは、必ず元どおりに取り付けてください

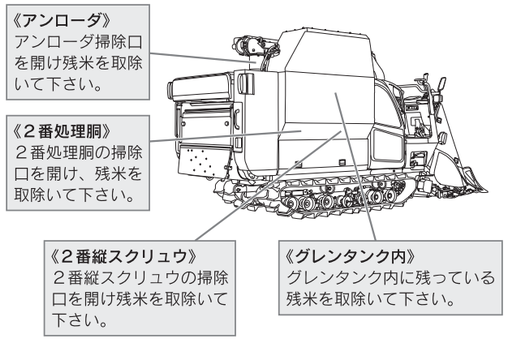
籾すり機
- 各部の掃除は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてから行ってください
- はずしたカバー、点検フタは、必ず元どおりに取り付けてください

適正な乾燥・調製を行いましょう

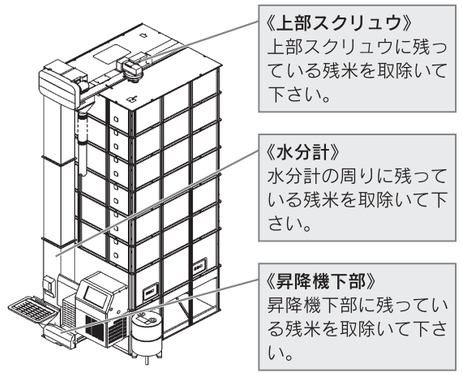
- 玄米水分値は、14.5～15.0%に仕上げましょう
- 選別機の網目は、LL網（1.90㎜）以上を使い、適正な流量で調製しましょう

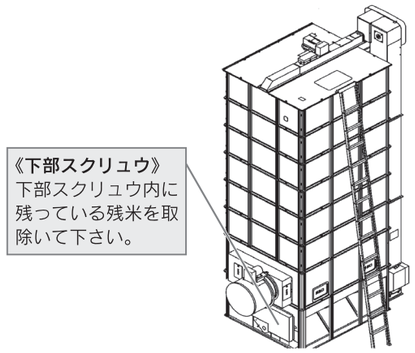
コンバイン



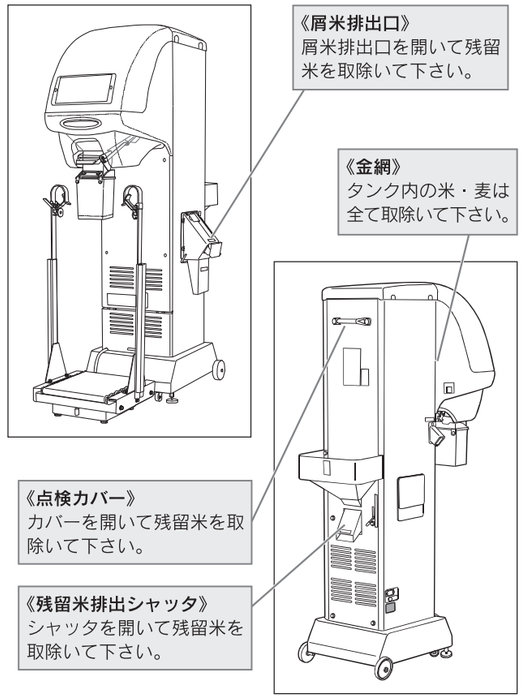


乾燥機

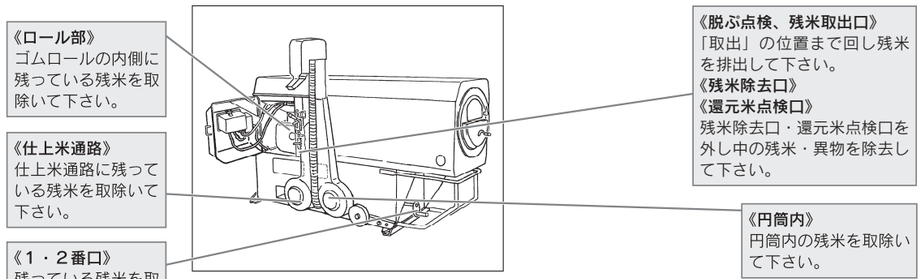


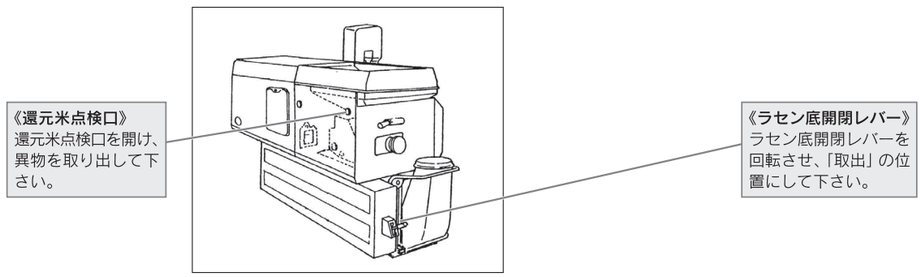


選別計量機

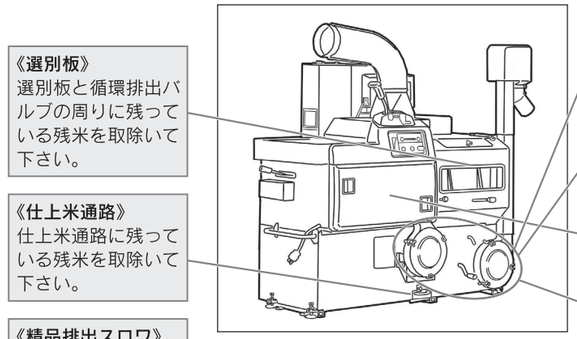


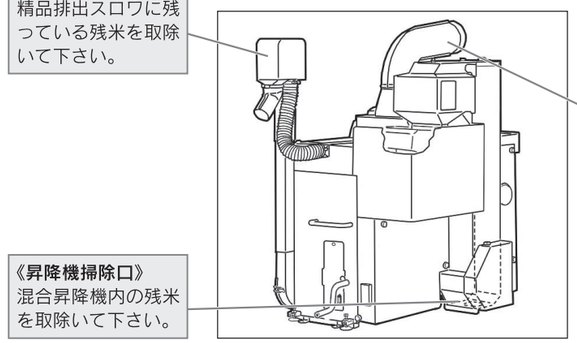
籾すり機（回転式）





籾すり機（揺動式）





10月 土づくりで農の基礎体力向上

未来に向けて、営農しやすいほ場をつくります。

◆ 天候に左右されない米づくりは土づくりから

管内の水田土壌の問題点

① 手取川扇状地に位置し、耕土が浅く、腐植含量・保肥力・保水力が低い。
② 手取川水系は灌がい水中のケイ酸含量が少なく、ケイ酸分の天然供給が少ない。
③ 土づくり資材施用量が低下し、稲わらが分解されにくくなっている。

上記のような背景から、今後とも、天候に左右されない収量品質を確保していくため、稲わらの全量すき込みと併せ、土づくり資材を施用しましょう。

1. JA白山の土壌実態

R2年度採取結果（全集落平均）

	腐　植	加　里	ケイ酸
目　標　値	3%	30mg	30mg
最低基準値	2%	15mg	15mg
白山平均値	**2.56%**	**13.4mg**	**14.5mg**

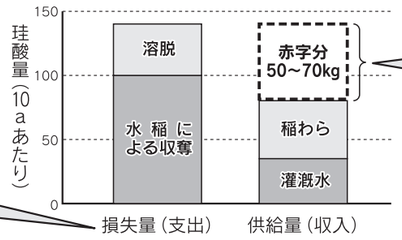
稲体中の成分
（成熟期の石川農林管内６地点平均）

分析した６地点全てで健全なケイ酸含有率の基準値以下!!

部位	乾物重	成分含有率（%）					
	g/株	窒素	リン酸	加里	ケイ酸	石灰	苦土
茎葉	39.3	0.6	0.2	1.9	8.0	0.5	0.2
穂	43.0	0.9	0.3	0.4	3.5	0.1	0.2

※収穫期の健全な水稲の茎葉のケイ酸含有率は11%以上

2. 水稲圃場のケイ酸「収支」



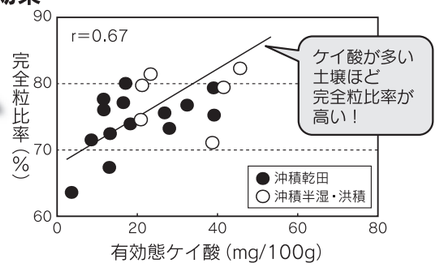
毎年10aで約150kgのケイ酸分が水稲に吸われる等、「支出」となっている

稲わらをすき込んで還しても、毎年これだけのケイ酸分が「赤字」に！

➡この分を「土づくり」で補う必要がある

3. 土づくりの効果

品質向上！



土壌の有効態ケイ酸含量と完全粒比率の関係
（富山県、月刊「食糧ジャーナル」より）

収量向上!!

石川農林管内
29年産コシヒカリでの試験

	収量（10a）
BB土づくり資材300kg施用区	623kg
BB土づくり資材60kg施用区	566kg

➡充分なケイ酸を与えてやればしっかり増収する！

その他にも、ケイ酸には「**根張り向上**」「**受光体勢の向上による光合成活性化**」「**耐病虫性・耐倒伏性向上**」「**低温・日照不足・高温耐性の向上**」「**登熟向上による食味の向上**」等、水稲にとって多様な効果があります。

土づくりを継続し、将来にわたって持続的な生産に努めましょう。

土壌分析結果と収量調査結果

（R2年度JA白山管内の50サンプル分析結果）

	pH	腐植（%）	交換性加里（mg/100g）	有効態ケイ酸（mg/100g）	遊離酸化鉄（%）	有効態リン酸（mg/100g）
土づくりしていない圃場	5.5	2.44	13.5	10.4	0.92	27.1
土づくりしている圃場	**5.7**	**2.67**	**13.2**	**18.5**	**0.98**	**25.2**
管内平均	5.6	2.56	13.4	14.5	0.95	26.2
目標値	5.5 ～ 6.5	3.0%以上	30mg	30mg	0.8%以上	20mg

土づくりによって**ケイ酸**に大きな差が!!
管内平均も目標値に達していないため、継続的な土づくりが必要！

◆ 土づくり３つのポイント ◆

① 秋起こしによる稲ワラのすき込み

稲の刈取後、なるべく気温の高いうちに稲ワラをすき込むことにより、稲ワラの腐熟促進につながります。また、稲ワラを早期にすき込むことで、次年度の硫化水素の発生によるガス沸きを抑えることができます。目安は10月中旬までを目標に頑張りましょう!

稲ワラはしっかり還す!

② 土づくり資材の投入を

アルカリ分を始め、ケイ酸分を含む資材の投入をオススメします。また、含鉄資材は根を硫化水素から守る役割を果たします。
アルカリ分はpHを適正値へ誘導し、微生物の活性化による稲ワラの腐熟促進も期待できます。土づくり資材散布後に耕耘し、効果を高めましょう!

ケイ酸以外も大切!

③ 深耕による作土深の確保を

作土を深くすることで根の成長領域を確保し、活力のある根を目指します。
トラクターの走行速度を遅くする、秋と春の２回荒起こし、「プラウ」や「スタブルカルチ」などの深耕用インプルメント等を活用しましょう。目標は15 ～ 18cm！
※深耕の詳細はP.5を参照下さい。

土づくりは資材だけじゃない!

土づくり資材散布量の目安

●BB白山大地	60kg/10a	●BB PKけい酸09号（補正剤）	60kg/10a
●BBひゃくまん馬力	60kg/10a	●BBダイナマイトソイル	100kg/10a
●スーパーケイサン	60kg/10a	●ケイカル	160kg/10a

土壌分析結果や作付品種によって施用量を増やして下さい。

土壌分析をしてみませんか？

圃場の栄養状態チェックをきっかけに、収量アップに向けた取組みを始めましょう！

1 取組みの目的

近年、気象変動が激しくなっているなか、水稲生産者の皆様から**「収量が毎年安定して獲れない」**といった声や、地力の低下などから**「昔より収量が落ちてきた」**等の声をお聞きするようになりました。一方、米価下落や補助金政策見直しのなか、土づくり散布率が低下しているのも事実です。

このような状況を踏まえJAグループは、生産者の皆様が経営の安定を図るには収量の維持向上が欠かせないという認識の下、**まずは土壌分析をきっかけに、経営に合わせた土づくりをご提案いたします。具体的には、生産者単位、さらには圃場単位の分析です。**

このことにより、肥培管理履歴や収量等の結果と紐づけて土壌養分実態の把握ができるようになり、土壌養分の不足が減収につながっている場合には、実態に合わせた効果的な土づくりの強化により、収量の底上げを図ることができるようになります。

まずは、いくつか圃場別に土壌を採取して分析値を調べてみることから取り組んでみませんか?

2 土壌分析の具体的な流れ

生産者が土壌の採取・乾燥調製・提出

↓

JA

↓

分析・処方箋（全国広域土壌分析センター石川）

↓ 約2か月間

JA・生産者で改善策を検討

上記のスケジュールとなるため、次年作の対策に間に合うよう、提出してください。分析値は、刈取跡・未耕起・土づくり資材未散布の状態を基準とします（すでに散布・耕起済みの場合は翌年産刈取直後に採取して下さい）。具体的な採取方法は下記の通りです。

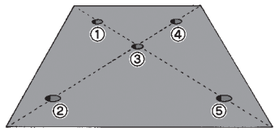
⑴土壌提出期間…刈取り後９月～２月末まで

⑵料金……皆様の取組みをバックアップするため、上記期間提出分に限りJAで負担します

土壌サンプルの採り方

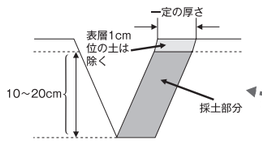
1 土を採る場所と時期

土のサンプルは中央と対角線の５カ所もしくは３カ所から採り、合わせて均一にしてください。
収穫後、次作の作業（資材散布・耕起）に入る前に採取しましょう。



2 土の採り方

表土１cm ぐらいを除いてから、深さ10～20cmの作土を移植ゴテで採ります。



3 乾燥・調製

採取した土は、新聞紙などの上に薄く広げ、風通しの良いところで１週間くらい乾燥させます。乾燥させた土を１mmの目開きの篩に通して、細かい土を集めます。篩の上に残った土は、軽く砕いて、また篩に通します。

4 土と明細表を提出する

袋（または封筒）に必要事項を記入の上、土のサンプルを入れ、土の明細表（袋の記入内容と一致させてください）とセットにして、JAの担当職員へお渡しください。

提出いただいてから約2か月後、分析値と併せて処方箋（施肥改善の提案）をお返しします。「いつも収量がある・ない」等の尺度に照らして採取していただいているならば、その差と分析結果を比較検討し、土壌養分の不足が減収につながっていると想定される場合には、土づくり資材の散布強化等の対策に活かしてください。

基肥・穂肥肥料の特徴

基肥肥料

肥　料　名	成分（N－P－K）	特　徴	仮比重
BB高度056号	10－25－16 (AN10 WP18 WK16)	燐安を主に塩安、重焼燐、塩加を配合。燐酸は水溶性とく溶性がバランスよく含まれ、初期生育を促進し、早期に茎数が確保される。(燐酸・加里成分が高いので大麦、大豆の基肥にも適する。	0.99
BBエコ028号	10－12－8 (AN10 WP9 WK8)	BB高度056号のＰＫ成分を削減した基肥肥料。全品種に使用できます。	1.04
BB003－40号	10－20－13 (AN7 WP16 WK13)	窒素成分のおよそ半分が40日タイプの被覆尿素であり、つなぎ肥を省力できる。原料の形状が均一に揃った側条施肥専用肥料。	0.95
新早生一発くん	24－15－8 (AN10.2 WP13 WK8)	窒素成分24％の内、基肥分である速効性が約10％で、残り約14％が穂肥時に肥効があらわれる遅効性である。燐酸成分が高く、初期生育を促進させる。スリム早生一発くんの改良タイプで、収量・品質のバランスが良い。	0.85
早生一発くんDX28	28－13－9 (AN4.7 WP11 WK9)	窒素成分約28％の内、基肥分である速効性が約10％で、残り約18％が穂肥時に肥効があらわれる遅効性である。新早生一発くんより穂肥分を増量。	0.85
コシ一発くん1号	20－21－13 (AN7.9 WP18 WK13)	窒素成分20％の内、基肥分である速効性が約8％で、残り約12％が穂肥時に肥効があらわれる遅効性である。コシヒカリの生育に応じて肥効をあらわし、基肥1回で必要量が施肥できる。	0.90
コシ一発くんDX24	24－14－10 (AN8 WP12 WK10)	窒素成分24％の内、基肥分である速効性が約8％で、残り約16％が穂肥時に肥効があらわれる遅効性である。コシヒカリの生育に応じて肥効をあらわし、基肥1回で必要量が施肥できる。1号より穂肥分を増量。	0.84
新 コシ一発くん NEOα	25－8－10 (AN4 WP5 WK9.7)	窒素成分28%の内、基肥分である速効性が約10%で、残り15%が穂肥時に肥効があらわれる遅効性である。成分はコシ一発くん1号をベースとした設計で、新規被覆資材を用いることで崩壊性を高めほ場外への流出を今までよりも抑えられる。	0.86
新 早生一発くんNEO	28－7－9 (AN3.7 WP4 WK8)	窒素成分28%の内、基肥分である速効性が約10%が速効性である。残り約18%が遅効性である。被膜の殻の崩壊性を高めた新規被覆肥料(Jコート)を用いることでほ場外への殻の流出を今までよりも抑えられる。	0.80～0.85
けい酸アップ コシ一発くん	15－15－10 (AN5.1 WP13 WK2.8)	窒素成分15％の内、基肥分である速効性が約5％で、残り約10％が穂肥時に肥効があらわれる遅効性である。けい酸成分を12％配合してあり、基肥・中間追肥・穂肥が同時に施肥できる。	0.91
五百万石一発くん	28－13－9 (AN4.9 WP11.2 WK9)	窒素成分28％の内、基肥分である速効性が約10％で、残り約18％が穂肥時に肥効があらわれる遅効性である。五百万石の生育に応じて肥効をあらわし、基肥1回で必要量が施肥できる。	0.82
コシ直播一発くん	20－6－6 (WP2.5)	窒素成分20％の内、基肥分である緩効性が約10％で、残り約10％が穂肥時に肥効があらわれる遅効性である。コシヒカリの直播栽培において、生育に応じて肥効をあらわし、基肥1回で必要量が施肥できる。	0.90
V溝直播 コシ一発くん	41－0－0	窒素成分41％の内、基肥分が約21％で、穂肥の時期に肥効があらわれる分が約20％の割合で配合されている。コシヒカリのＶ溝直播専用の肥料。	0.76

AN－アンモニア態窒素、WP－水溶性燐酸、WK－水溶性加里

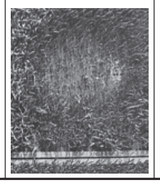
中間追肥

肥　料　名	保証成分(単位：％)		特　徴
けい酸加里プレミア（粒状）	く溶性加里	20	・水稲の珪酸の吸収は生育後期に多く、加里は溶脱が激しく生育後半に不足しがちとなる。 ・施用時期…最高分げつ期前後（稲の生育の旺盛な出穂45～35日前） ・施用方法…田に水のある状態で全面散布する。 ・施用効果…① 受光態勢の向上　② 根の活力維持　③ 光合成能力の向上　④ 病害虫抵抗性の増大　⑤ 倒伏防止等 ・動散が困難な場合は、春の代かき前施用も可能（施用量60kg。土づくり資材は別途必要）
	可溶性珪酸	34	
	く溶性苦土	3	
	く溶性ほう酸	0.05	
エスアイ加里 カリ投げくん	水溶性加里	33	・施用時期…中間追肥時期（出穂35～50日前頃） ・施用方法…田に水のある状態(5cm以上)で投げ入れる。その後4～5日間は水を切らさないようにする。 ・施用効果…(けい酸加里プレミアと同様) ・1つ200gの肥料を10aに20個投げ入れるだけの簡単施用。
	可溶性珪酸	35	

穂肥肥料

肥　料　名	成分（N－P－K）	特　徴
BBLP有機060号	20－6－10 (AN1.6 WP4.7 WK9.7)	窒素成分20％の内、約14％は肥効が50日間持続する被覆尿素であり、追肥の省力化ができる。有機含量約30％。
BBとれるぞう	15－5－10 (AN3.2 WP3.9 WK9.9)	窒素成分15％の内、約7％は肥効が30日間持続する被覆尿素であり、追肥の省力化ができる。有機含量約30％。基肥一発肥料栽培において気象条件等で生育後半に肥料が不足するときに使用する肥料です。
BB有機入り追肥 いしかわライト550号	15－5－10 (AN13.3 WP4.0 WK10)	有機肥料と無機肥料を配合した有機含量約20％の肥料であり、肥効がゆるやかに持続し、稲に適した吸収がなされる。

育苗期の病害の症状

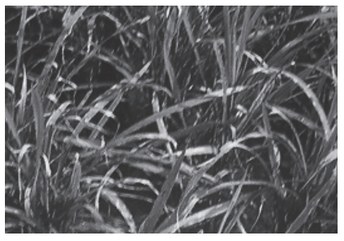
苗立枯病				ばか苗病	細菌病	
フザリウム菌	ピシウム菌	リゾープス菌	トリコデルマ菌		籾枯細菌病	褐条病
地際部に白いカビがみられ、籾を中心に白～淡紅色のカビが蔓延する。 病原力は弱く、軟弱な苗を侵す。	急に苗がしおれ腐敗枯死する。坪枯症状となるが地際部にカビはない。ムレ苗の原因となる。 緑化期後の低温・過湿は症状を助長	出芽時に箱全体が白いカビに覆われ、苗の生育が悪くなる。菌糸は太い。 高温を好み繁殖は早い。伝染源は汚染籾・資材。	出芽時に白いカビが表面にでるが、緑化期以降は青緑色となり、立枯れ症状を呈す。 繁殖は早く伝染源は汚染籾・資材。	黄化徒長し、やがて枯死する。本田移植後にも発病し罹病苗は稔実しない。 種子伝染性で出穂後の籾や開花中の穎に侵入する。	苗腐敗症。出芽後早く地際部が褐色に腐敗し枯死する。症状が軽い場合は基部渇変し、芯葉は萎凋して容易に抜ける。発病は坪状。	地際部や葉身に暗褐色の条斑が現れ生育が不揃いとなる。芯葉は容易に抜けない。 種子伝染性である。
						

※育苗期間中に細菌病が発生した場合は、苗箱等を消毒しましょう（「イチバン」がおすすめです。）

病害名		発生時期	処置方法	備考
ムレ苗		硬化期 （1.5～2葉期が出やすい）	• pH5.0前後にし、通気性のある床土を使用する。 • 低温時は保温資材をかける。 • 夜間冷えて晴天の日には早めにハウスをあけるようにする。	• 葉身が針状に巻き、しだいに黄褐色に変わる。 • 夜間8℃以下の低温と日中の高温により地上部と地下部のバランスがとれなくなり発生する。

いもち病の生態と防除

生態	病状	防除
① 伝染源は育苗時に発生した罹病苗、前年の被害わら。 ② 胞子は夜間に飛散し、気温が20～30℃で葉が10時間以上濡れていると感染。 ③ 気温が25℃前後で日照不足が続くと、葉いもちは上位葉に進展。 ④ 穂いもちは出穂以降雨が多いと発病し止葉に病斑がでると多発。	葉いもち：中央部灰白色、周縁部褐色の紡錘形の病斑を形成。悪化すると稲体は萎縮しズリコミ症状を示す。 穂いもち：穂首、枝梗等に暗褐色の病斑部より先端部が枯死し白穂となる。 節いもち：節が黒変乾燥して折れやすくなる。	• 葉いもち 田植直前（緑化期～当日）に育苗箱に箱施用薬を散布。 育苗箱処理が、できなかった場合、6月中旬に、オリゼメート粒剤を散布。発生をみたらブラシン粉剤DLを散布。 • 穂いもち 出穂直前～穂揃期に時期を失せず薬剤の一斉防除を必ず実施。耐性菌の発生防止のため同一薬剤の連用を避ける。


葉いもち

穂いもち

節いもち

箱剤は 50g 散布を守りましょう!

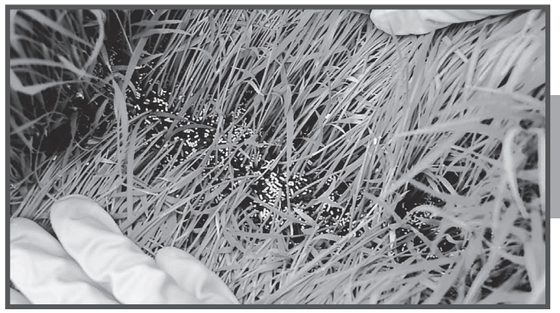
水稲育苗箱に施用する苗箱用殺虫殺菌剤は、育苗箱１箱あたり50g散布することを前提に開発されています。

１箱あたり50gを下回る散布を続けると、いもちや害虫の抵抗性をかえって発達させてしまうおそれがあります。

「効く薬がなくなってしまった！」「高い剤しか使えなくなった…」

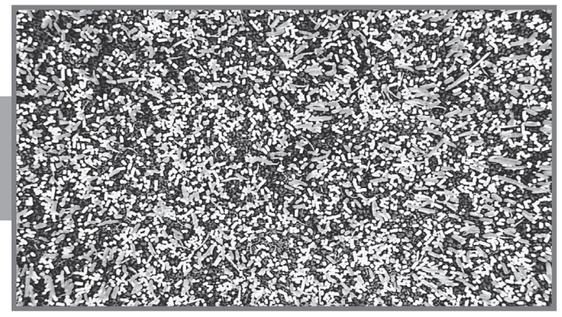
とならないように、箱剤の散布量は削らずに、きちんと50g施用しましょう。

50g/1箱　散布するとこれだけ白く見えます。



50g
散布

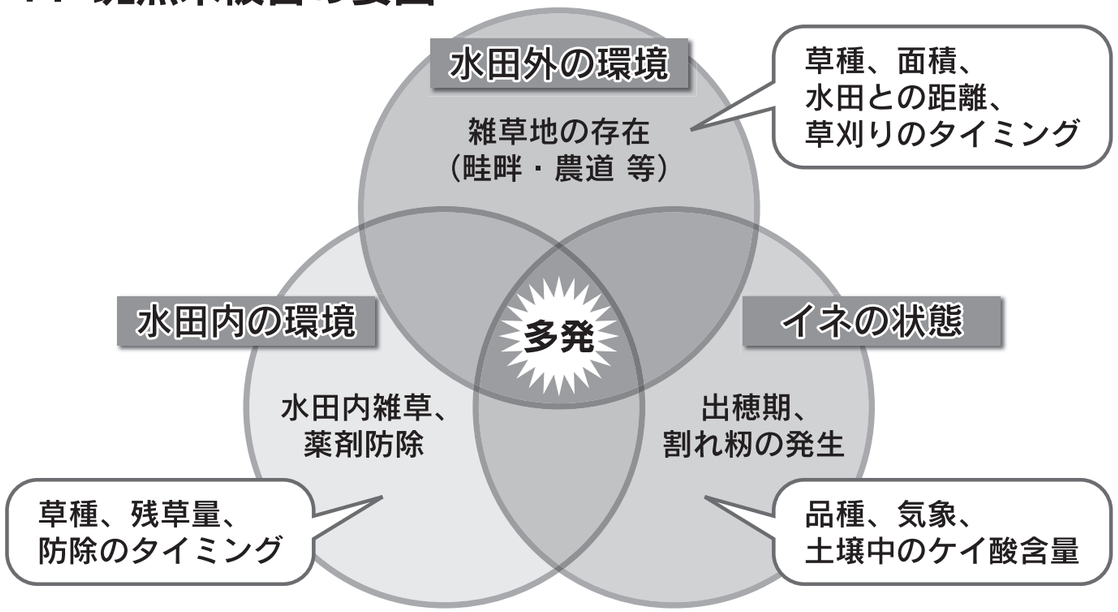
50g
散布
（拡大）



1. 使用前にラベルをよく読んでください。 2. ラベルの記載以外には使用しないでください。 3. 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
4. 使用後の空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう、適切に処理してください。 5. 防除日誌を記入しましょう。

斑点米カメムシ類対策〈特集〉

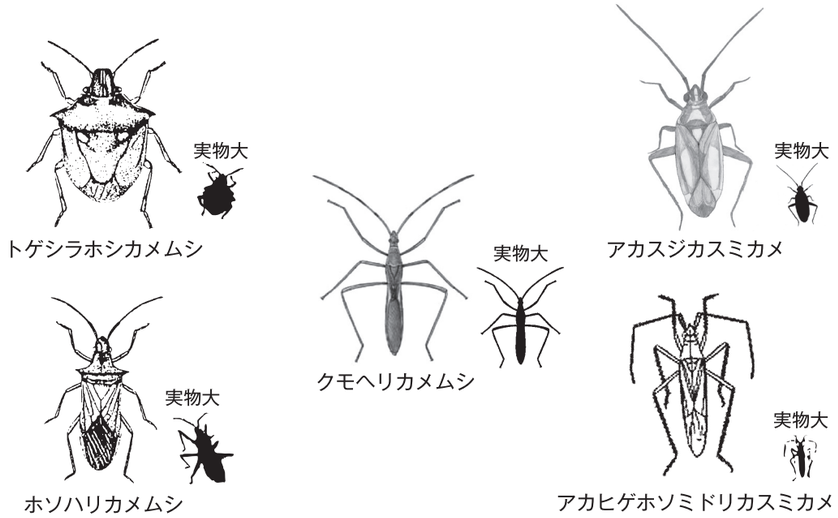
1．斑点米被害の要因



➡斑点米被害の多発には、様々な要素が上図のように複合的に関わっています。
「畦畔の除草を徹底する」等により、１つずつ要素を排除していくことで、斑点米被害の多発を回避することができます。

2．斑点米カメムシ類の特徴

カメムシの生育密度を下げるため、追加除草を実施する。
○畦畔・農道等の雑草は７月上旬にもう１回、追加除草を行う。



3．効果的な防除方法

① 薬剤防除２回の徹底
② ６月頃の除草＋７月上旬の仕上げ除草
③ 出穂期の除草はしない！
④ 水田内除草の徹底

具体的な除草対策については、６月の特集ページ(p.41)参照。

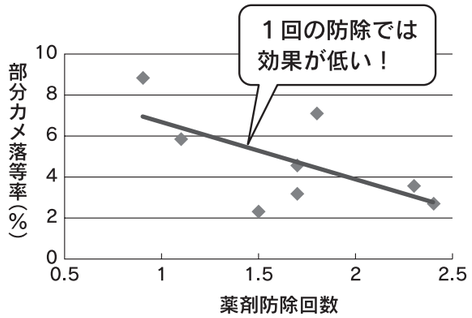
4．粉剤と比較した場合の各剤型の特徴

剤型	長所	短所
①微 粒 剤	・飛散が少なく、散布者や環境に優しい ・低コスト	専用ホースが必要
②液　　剤	低コスト	専用の液剤散布機と水が必要
③粒　　剤	飛散しない	入水後の散布
④豆つぶ剤	省力	入水後の散布

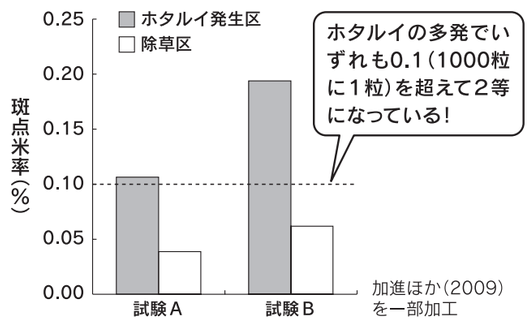
③粒剤、④豆つぶ剤については、稲体が成分を吸収してから効果を発揮するので、粉剤等と比較して３日程度前もって散布してください。

参考データ

■薬剤防除回数と部分着色粒（カメムシ）落等率の関係



■水田内ホタルイの多発が斑点米発生率に与える影響



◆ 使用基準を守って適正に除草剤を使用しましょう。

除草剤使用のポイント

①雑草は、代かき直後から発生します。**代かきから田植えまでの期間が長い**と、その間に雑草が生長しますので、散布遅れにならないよう注意して下さい。

②**気温が高い年は、雑草の生育が早まる**ので、散布遅れにならないよう注意して下さい。

③**代かきや田植えの時期が遅くなる（気温が高くなる）**と、田植後の雑草の生育が早まるので、散布遅れにならないよう注意して下さい。

④除草剤の種類により、ノビエに対する効果等が異なるので、容器等に記載されている内容（ノビエ葉令）等をよく確認して使用して下さい。

【田植日が同じでも代かき日が早いと雑草の生育が早まります】

代かき日	田植日	ノビエ2.5葉期に達する日		
			代かき後日数	田植後日数
4／26	5／ 5	5／16	20日	11日
4／29		5／18	19日	13日
5／ 2		5／20	18日	15日

（注）金沢アメダスデータ、平年平均気温による推定

【気温が高い年は、雑草の生育が早まります】

区　分	代かき日	ノビエ2.5葉期に達する日	
			代かき後日数
平　　年	5／ 2	5／20	18日
暑い年(H10)		5／17	15日
寒い年(H 8)		5／25	23日

（注）金沢アメダスデータ、平年平均気温による推定

除草剤使用上の注意事項【共通】

- 田面を均平にし、十分な湛水状態で使用すること。
- 除草剤の使用時は、極端な深水を避けるとともに、ムラ散布、重複使用にならないよう注意すること。
- 極端な浅植え、深植田での使用は避けること。水質汚濁を防ぐため、除草剤は**使用後７日以内**の落水は避けること。
- 差し水は、急激に行うと水口付近での薬剤処理層が壊されるため、静かに行うこと。

その他の注意事項

- **一発処理（田植同時処理）について**

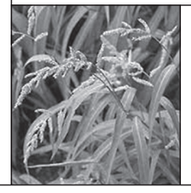
  ［シリウスエグザ１キロ粒剤、ガンガン１キロ粒剤
  バッチリLX１キロ粒剤、銀河１キロ粒剤
  エンペラー１キロ粒剤］

  ・田植同時処理剤は、通常処理と比較して薬害の危険性が高いので、漏水の大きな圃場や、砂質土壌等の圃場条件の合わない所では使用しないこと。
  ・散布後３～４日間湛水状態を保つことが出来る圃場で使用すること。
  ・田植機に装着された散布機を使用すること。
  ・**田植終了後は水尻を確実に止め、速やかに所定の湛水深（５cm）まで入水し、田面が露出しないようにすること。**

畦畔から侵入する雑草対策

雑草名		イボクサ	キシュウスズメノヒエ	アシカキ
		ツユクサ科　一年生雑草	イネ科　多年生雑草	イネ科　多年生雑草
発生状況		・代かき前に発生したものは、代かきによって茎が切断され、そこから増殖 ・その他、田植後、種子からの発生や畦畔からの侵入	・稈が地表を這い畦畔から、水田内に侵入し、節から根を張り水田内で増殖 ・水田内で増殖したものを放置すると翌年、再発生し、耕起・代かきで稈が切断されそこから増殖	
防除方法	収穫後	・発生の見られる圃場 収穫後、早めの耕起	・発生の見られる圃場 ラウンドアップマックスロード散布（雑草生育期）	
	田植前	・代かき前に発生が多い場合 バスタ液剤散布 （但し耕起15日前まで雑草生育期） ・代かきを丁寧に行い、茎を土中に埋設	・代かきを丁寧に行い、稈を土中に埋設	
	本田	・発生初期までに除草剤散布 ・その後発生があった場合 中期剤・後期剤の散布 ・発生の見られる圃場 ノミニー液剤散布 移植後30日～イボクサの茎長30cmまで （但し収穫60日前まで）	・早めにクリンチャー剤を散布する （1キロ粒剤：10a 1.5kg 散布ではノビエ5葉期まで、10a 1kg散布ではノビエ4葉期まで。EW：ノビエ6葉期まで。必ず展着剤を加用する。）	・ベンゾビシクロンおよびピラクロニルを含む一発除草剤（シリウスエグザ剤等）を使用する。 ・ベンゾビシクロンのみでも抑草効果は認められる。 ・テフリルトリオンも有効（ジェイフレンド剤等）。
	畦畔	・バスタ液剤散布 （但し収穫7日前まで雑草生育期：草丈30cm以下）	・ラウンドアップマックスロード散布 （但し収穫前日まで　雑草生育期）	

中干し後発生する雑草

クサネム		防除方法	本田	・ノミニー液剤散布 移植後30日～クサネムの草丈40cmまで（但し収穫60日前まで） ・ロイヤント乳剤散布 移植後20日～クサネムの草丈50cmまで（但し収穫40日前まで）（ヒエにも!!）
			畦畔	・ラウンドアップマックスロード散布 （但し収穫前日まで　雑草生育期）
ノビエ	〈発生の特徴〉 ノビエは土壌表面3cmまで浅い深度で発生しやすく、特に畑地や飽水状態の土壌で発芽しやすい。 10℃前後から発芽し、最適温度は25～30℃で気温が高いほど生育は早い。			
		**・管理のねらい** ・耕起入水後1週間以上間隔を開け丁寧に浅水で代かきを行い発芽したノビエを埋没させる。 ・田面が露出すると発生の助長、除草剤効果も安定しないことから水田の均平を図る。 **・有効な除草剤** ・ヒエクリーン1キロ粒剤、クリンチャー 1キロ粒剤・EW、トドメMF1キロ粒剤・乳剤 【ヒエ多発年の収穫後対策】 ・石灰窒素、プリグロックスL、クロレートS粒剤		

◎「水田作物（水田畦畔）」に適用のある除草剤

令和３年10月末現在

除草剤名	ラウンドアップマックスロード	サンフーロン液剤	サンダーボルト007	バスタ液剤	ザクサ液剤	カソロン粒剤6.7	プリグロックスL	MCPソーダ塩	2,4-Dアミン塩
使用時期	収穫前日まで（雑草生育期）	収穫14日前まで（雑草生育期：草丈30cm以下）	収穫14日前まで（雑草生育期：草丈30cm以下）	収穫7日前まで（雑草生育期：草丈30cm以下）	収穫7日前まで（雑草生育期：草丈30cm以下）	秋冬期～春期の雑草発生前～発生始期	雑草生育期	雑草生育期（草丈30cm以下）但し収穫14日前まで	雑草生育期（草丈30cm以下）但し収穫30日前まで
適用雑草および使用量（10a当たり）	一年生雑草 200～500㎖（水量50～100ℓ 少量散布25～50ℓ）	一年生雑草 250～500㎖（水量50～100ℓ）	一年生雑草 多年生雑草 400～600㎖（水量100ℓ）	一年生雑草 多年生雑草 500～1000㎖（水量100～150ℓ）	一年生雑草 多年生雑草 500～1000㎖（水量100～150ℓ）	一年生雑草及び多年生広葉雑草（まめ科を除く）、スギナ 4～6kg	一年生雑草 600～1000㎖（水量100～150ℓ）	一年生及び多年生広葉雑草、スギナ 200～400g（水量100ℓ）	一年生及び多年生広葉雑草 100g（水量100ℓ）
	多年生雑草 200～1000㎖（水量50～100ℓ 少量散布25～50ℓ）	多年生雑草 500～1000㎖（水量50～100ℓ）					多年生雑草 1000～2000㎖（水量100～150ℓ）		
	スギナ 1500～2000㎖（水量50～100ℓ 少量散布25～50ℓ）								
水稲畦畔	○（※1） 3回以内	○（※1） 2回以内		○（※2） 2回以内 同類成分剤のため合わせて2回以内		○ 1回	○ 5回以内	○ 3回以内	○ 3回以内
その他の適用作物 だいず（畦畔込み）	○	×	○	○	○	×	○	×	×
大麦（畦畔込み）	○	×	×	○	×	×	○	○ 但し収穫45日前まで	×
水田作物畑作物（休耕田）	○ 2回以内	×	○ 2回以内	○ 3回以内	×	○ 1回 4～7月の雑草発生前～発生始期	○ 4回以内	×	×
樹木等（農道等）	○ 3回以内			○ 3回以内		○ 3回以内	○ 3回以内	○ 3回以内	○ 3回以内
摘要	・崩れやすい畦畔では使用しない。					近隣に農作物が作付けされていないことを確認して散布する			

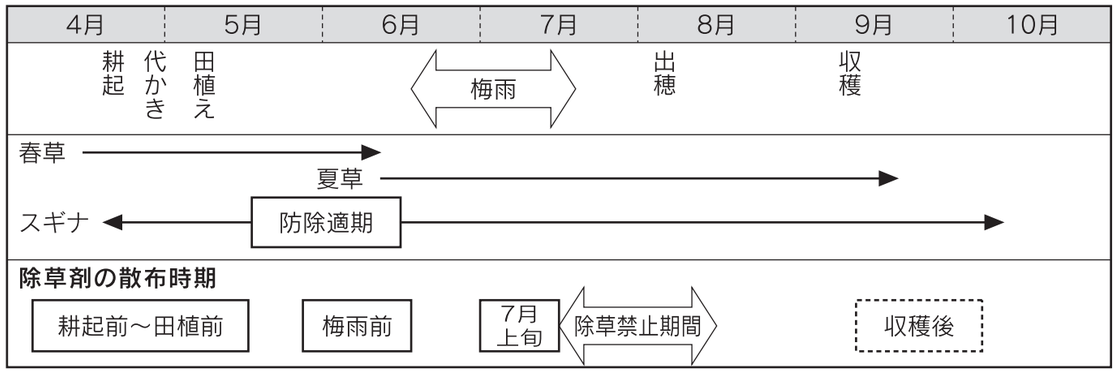
※1ラウンドアップマックスロードは畦畔で3回使用できるようになりました。

※2バスタ、ザクサは同じ成分を含んでいます。水田畦畔で使用する場合は合わせて2回までしか使用できません。

使用上の注意

- **違った作物が隣接する場合には、両方に登録のある除草剤を使用して下さい。**
- **同類成分剤（※1）（※2）の畦畔散布は、合わせての回数となります。**
- **大豆・大麦の農薬使用時期・使用量は異なりますので、使用方法等を確認して散布して下さい。**
- **大豆・大麦については、農薬登録上畦畔と本田の区別がありません。**

◎水稲畦畔の除草体系の目安



◎主な除草剤の特徴と使い分け

剤　名	抑草期間	難防除雑草への効果 スギナ	イボクサ	キシュウスズメノヒエ	オオアレチノギク	散布後の降雨（目安）	特徴および注意点
ラウンドアップマックスロード	50～60日	△（25倍◎）	○	○	×（10℃以下◎）	1時間	・有効成分が移行し、根まで枯らすので効果が持続する ・速やかに雑草に吸収されるので翌日には耕起可能 ・25倍液処理ならスギナの根絶が可能 ・オオアレチノギク対策としてバスタとの混用が可能（マックスロードに限る） ※低温時の処理でオオアレチノギクの根まで枯らせる
サンダーボルト007	50～60日	△	○	○	○	3時間	・根まで枯らす成分と速効性の成分の2成分混合の除草剤 ・オオアレチノギク含め広範囲の雑草に効果が高い ・スギナ対策には、2,4-Dアミン塩等との混用がおすすめ
バスタ液剤	40～50日	○	○	○	○	6時間	・畦が崩れないので畦畔に有効（電柵設置時含め） ・散布後2～5日に効果発現し7～14日後には効果完成（低温時遅効的） ・スギナやオオアレチノギク等、広範囲の難防除雑草に効果が高い ・雑草全体に十分量散布し、オオアレチノギクについては草丈が小さいうち（30cm以内）に散布する
プリグロックスL	20～30日	○（25倍◎）	○	○	○	15分	・散布後1日で効果が出て、低温でも効果が安定 ・薬剤がかかった部分しか枯れないので作物に安心 ・イネ科雑草種子にも効果があり、水稲刈後の耕起前散布で翌年のヒエや漏生イネの発生量の低減が可能

（注意事項）

・除草剤ごとの使用回数は、農薬登録上定められているので、使用回数に注意する。

・雑草の種類（スギナなど）によっては使用濃度が異なるので、ラベルを良く確認する。

・斑点米カメムシ類の生息密度を下げるため、畦畔等の雑草地の除草を徹底する。

※出穂期前後に圃場周辺の除草を行うと、カメムシ類の本田侵入を助長する可能性があるので、7月中旬から8月中旬まで除草しなくても済むように、7月上旬の仕上げ除草を徹底する。

畦畔雑草「オオアレチノギク」について

近年、当管内にてラウンドアップやサンフーロン等の有効成分である「グリホサート」が効きにくくなったオオアレチノギクの発生が確認されています。

生態

生態を理解した上で対策が必要です！

- キク科一年生雑草（越年草）。
- 「秋発芽個体」と「春発芽個体」がある。
- 「秋発芽個体」は小さなロゼット（写真①）で越冬、翌年夏～秋に開花。
- 「春発芽個体」はその年には開花せず、大きなロゼット（写真②）で越冬、翌年夏～秋に開花。

写真①

写真②

対策パターン❶ ……秋冬期（11月中旬～12月）

低温に強いマックスロードが有効です！

「ラウンドアップマックスロード」による防除

寒い時期（気温10℃以下）は、オオアレチノギクの抵抗性が弱まることが確認されています。

【方法】ロゼット状の個体（写真①、②）に、**500～1000mL/10a・50L**（50～100倍液）を散布
（春発芽個体が多い場合は1000mLを推奨）

メリット　：抵抗性が弱まる低温時に処理するため、**オオアレチノギクの根まで枯らすことが可能**。

デメリット：既存の畦畔除草体系に追加での対応となる（この時期の散布はあくまで本雑草に対するものであり、カソロン剤のような他雑草全般への効果は期待できないため）。

対策パターン❷ ……雑草生育期（4～8月）～草丈30cm程度

「サンダーボルトOO7」による防除

オオアレチノギクに活性のある成分が配合されています。

【方法】**400～600mL/10a・100L**（約167～250倍液）を散布

メリット　：1回の畦畔除草で**オオアレチノギクの地上部、他雑草全般の根まで**が同時に枯らせる。

デメリット：ベースはサンフーロンのため、別途スギナ対策と散布前後の気象条件に注意が必要。

状況に応じて草刈等も実施するなど、様々な体系を組合せることが重要です。

こんな雑草に困っていませんか！

問題となっている雑草

クログワイ

イボクサ

コナギ

オモダカ

カヤツリグサ

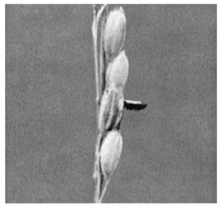
キシュウスズメノヒエ

水稲刈取後の除草剤

ラウンドアップマックスロード お得な大型規格がお奨め！		クロレートS粒剤
●一年生雑草、多年生雑草 ●クログワイ、オモダカ、カヤツリグサ等上記のような防除困難な雑草にも有効。 ●土に残らず分解が早い。	特　徴	●一年生雑草、多年生イネ科雑草 ●稲わらの上からでも効果がありますが、水がたまっていると効果が半減。 ●土壌中に3ヵ月残る。
薬剤500～1,000ml／10a（1,000ml推奨） 希釈水量50～100L。1回。	使用量	20～25kg（4～5袋）／10aを全面散布。1回。
使用後、2～3週間後には耕起可	耕起可能時期	使用後、1ヵ月後には耕起可
●雑草が緑化（青々と）している時に散布する！（9～10月の刈取り直後：薬量は一年生雑草は200～500ml、多年生雑草は500～1,000mlがお奨め）	注意点	●土壌に残っていると次作物に影響するので、使用はなるべく早く行う（年内処理） ●降雨時または降雨が予想されるときの使用は避ける。

◆ 近年発生が見られる被害粒対策

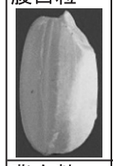
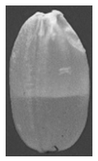
《変色籾》

	墨黒穂病	稲こうじ病
病徴・診断	内外穎の縫合部または穎の裂け目から粘質を帯びた黒色で舌状の突起物。 日がたつと突起物は砕けて、黒粉（厚膜胞子）が飛散、籾の表面が黒く汚れる。 	気象条件により発生量は大きく左右され、低温、日照不足、多雨条件下で多発します。 栽植密度が低く、多肥であるほど発生が多くなる傾向があります。
多発要因	【気象】 出穂期前20日間の特異な多雨や日照不足（福岡県、1993） 7～8月の多雨や浸冠水（新潟県、1996） 【栽培】 窒素の多施用、晩生種の栽培	【気象】 穂ばらみ期～出穂期の低温多雨 特に、穂ばらみ期の低温は発病を助長 【栽培】 窒素の多施用、中・晩生種の栽培
薬剤防除	**モンガリット粒剤** 防除適期：**墨黒穂病は出穂2週間前、稲こうじ病は出穂3週間前** （使用基準：収穫45日前まで） 使用量：3～4kg/10a 適用病害虫名：墨黒穂病、稲こうじ病、紋枯病、疑似紋枯症	
	ブラシン水和剤 防除適期：出穂直前 （使用基準：収穫30日前まで） 希釈倍数：1,000倍 適用病害虫名： 墨黒穂病、いもち病、ごま葉枯病、穂枯れ、変色米	**Zボルドー粉剤DL** 防除適期：出穂14～10日前 （使用基準：出穂10日前まで） 使用量：3～4kg/10a ※穂に付着すると薬害を生じるので、必ず出穂10日前までに散布すること。

（注）モンガリット粒剤は、使用後5日間は湛水状態を保ち、7日間は強制的に落水しない。

昨年、稲こうじ病が発生した圃場は防除を実施して下さい。

品質を落とす玄米の種類と発生要因およびその対策

種類				発生要因		軽減対策の要因	
				気象面	生育・管理面	気象面	生育・管理面
未熟粒	白未熟粒	乳心白粒	胚乳部中心が白色不透明なもの	・出穂後～20日間の高温(27℃以上)急激な成熟でデンプンの供給がおいつかず、部分的にデンプンが不足して発生する ・主に日照不足や倒伏で発生助長 ・登熟中期のフェーン	・籾数過多 ・弱勢穎花での発生が多い→養分競合 ・幼穂形成期の稲体窒素濃度が低いと増加 ・胚乳細胞の過大と養分蓄積不足 ・出穂後～20日間の葉色低下	・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避	・土づくり ・作土深の確保 ・珪酸質資材の施用 ・籾数の適正化（3万粒/㎡以内） ・倒伏防止 ・登熟後半までの水分確保・葉色維持
		腹白粒 	米粒の腹部が白色不透明なもの	・登熟中期の高温 ・低温ではほとんど発生しない ・多日照や高温による、穂の表温の高まり	・出穂期の適正な葉色の確保 ・登熟期間の稲体の活力低下(出穂前後～成熟期までの水不足、生育後半の栄養不足) ・登熟期間の葉色が淡いと多発 ・登熟後期のデンプン蓄積不良→ソース(玄米)能力やシンク(茎葉)能力の凋落		・土づくりの実施 ・作土深の確保 ・珪酸質資材の施用 ・登熟後半までの栄養状態の維持 ・出穂期の適正な葉色の確保 ・登熟後半までの水分補給(早期落水は避ける)
		背白粒	米粒の背部が白色不透明なもの	・登熟中後期の高温27℃以上で多発 ・低温ではほとんど発生しない ・多日照や高温による、穂の表温の高まり			
		基部未熟粒	米粒の基部が白色不透明なもの	・登熟後期の高温27℃以上で多発 ・背白粒よりさらに後半のデンプン蓄積不良 ・低温でも発生する			
	その他未熟粒		充実の不十分な粒。扁平で厚みが薄い、縦溝が深いもの等	・フェーン等による枝梗の枯れ上がり ・登熟期間の気温日較差が少ない過高温による登熟阻害 ・少雨等により、登熟後半の栄養凋落	・中干しの不徹底 ・過剰な基肥等により、生育量が過剰 ・穂肥量の過不足 ・選別の不徹底	・低温、不良天候時田植えによる植え傷み ・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避	・土づくり ・作土深の確保 ・珪酸質資材の施用 ・籾数の適正化（3万粒/㎡以内） ・倒伏防止 ・登熟後半までの水分確保
被害粒	胴割粒 		米粒に亀裂が入っている等	・出穂後10日間の高温(特に最高気温) ・登熟期間中の高温乾燥(フェーン等) ・出穂後30日～成熟期の多照 ・圃場で軽微に発生(立毛胴割)もある	・出穂が早まり、高温時期に出穂・登熟を迎える ・早期の落水 ・刈遅れ	・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避	・登熟後半までの栄養状態の維持 ・登熟後半までの水分補給(早期落水は避ける) ・高温時の刈遅れを防止
	着色粒		カメムシ類による斑点米等	・生育期間の気温が温暖に推移 ・登熟期間の高温 ・幼穂形成期の低温少日照	・畦畔雑草でのカメムシ類の増殖 ・適期防除の不徹底 ・畦畔、農道等の雑草処理の不備	・出穂期が高温の時期に当たらないよう田植を遅くして高温を回避	・草刈りの徹底 ・適切なカメムシ防除

※表中に27℃とあるのは、平均気温である。

※籾中のデンプンの詰まる順序①中心部(登熟初期)→②腹側(登熟中期)→
→③背側(登熟後期)→④基部(登熟後期)

メ　　モ

参考資料

令和３年産　水稲生育概況

石川農林総合事務所

生育ステージ	生育の概況等	備考
育苗期	【播種始期３月 29 日、盛期４月５日、終期４月 27 日】 播種時期は前年並みとなった。育苗期間中の気温は最低気温がかなり低い日もあったが全般的に平年よりも高く、日照時間は平年よりかなり多くなった。 苗質は、ゆめみづほでは草丈、充実度ともに平年並みであった。コシヒカリでは草丈は平年より短く、充実度は高くなった。 育苗期間中の病害発生は少なく、目立った障害等はなかった。	・前年の播種時期 始期３月 30 日 盛期４月　６日 終期４月 19 日 ・４月平均気温（金沢） （平年差） 月　12.9℃（　0.3℃） 上旬 11.7℃（　1.1℃） 中旬 13.1℃（　0.4℃） 下旬 14.0℃（▲0.5℃）
田植え及び活着期	【田植始期４月 30 日、盛期５月４日、終期５月 28 日】 田植え期間は全般的に雨の日が多くなったが、田植えは前年並みに行われた。 ４月植えや５月連休植えの一部のほ場では、強風や低温による植え痛みが散見されたが、活着は概ね順調であった。	・前年の田植時期 始期５月 １ 日 盛期５月 ４日 終期５月 23 日 ・５月平均気温（金沢） （平年差） 月　18.0℃（　0.3℃） 上旬 16.4℃（　0.1℃） 中旬 19.1℃（　1.6℃） 下旬 18.5℃（▲0.7℃）
本田初期	５月の天候は周期的に変わり雨の日が多く、初期分げつの発生はコシヒカリで鈍くなった。 初期の草丈は、ゆめみづほは平年より短く、コシヒカリはやや長くなった。	・６月平均気温（金沢） （平年差） 月　22.5℃（　0.9℃） 上旬 21.7℃（　1.3℃） 中旬 22.7℃（　1.2℃） 下旬 23.0℃（　0.2℃）
分げつ期	６月に入り、大雨の日もあったが、気温は高く日照時間は平年並みで推移し、生育は平年並みに回復した。普通期移植の各品種については、中干しが６月上旬から開始された。 中干し期間中の生育は、草丈がゆめみづほで平年より長く、コシヒカリで平年並みであった。茎数はゆめみづほで平年より多く、コシヒカリで平年よりやや多かった。葉の展開は、ゆめみづほで平年並み、コシヒカリで２日早かった。 梅雨入りは６月 18 日で、平年より７日早く、前年より７日遅かった。梅雨期間の前半の降水量は平年より少なく、気温は平年並みで経過した。 最高分げつ期の茎数は、ゆめみづほで平年よりやや多く、コシヒカリで平年並みとなった。 ６月 23 日～６月 30 日の管内雑草地カメムシ類生息調査では、１か所当たり 7.2 頭で例年より多くなった。種類別では飛翔性カメムシのアカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメが多く確認された。一部地域ではクモヘリカメムシも見られた。 県全体では、６月下旬の発生量が平年並みに多く、特に飛翔性の斑点米カメムシ類が多いことから、７月８日に県農林総合研究センターから多発注意報が発令された。 梅雨明けは７月 14 日で平年より９日、前年より 18 日早かった。	・生育観測田（6/28） ㎡当たり茎数 ＜ゆめみづほ＞ 本年　536 本 平年　560 本 前年　501 本 ＜コシヒカリ＞ 本年　536 本 平年　521 本 前年　460 本

生育ステージ	生育の概況等	備考
出穂期	梅雨明け以降、気温は平年より高く経過した。出穂期の茎数は、ゆめみづほで平年より多く、コシヒカリで平年並みであった。 出穂期は、ゆめみづほは平坦部で平年より ４ 日程度早く、山間部では平年並みとなった。コシヒカリは平坦部・山間部ともに平年より２日程度早かった。 【管内の出穂期】（　）内は前年値 ・ゆめみづほ 平坦部 7/16～19 山間部 7/19～22（平坦部・山間部 7/15～22） ・五百万石 平坦部・山間部 7/15～20（平坦部・山間部 7/16～18） ・コシヒカリ 平坦部 7/28～8/1 山間部 7/31～8/2（平坦部・山間部 7/31～8/4） ・晩植、直播コシヒカリ 晩植：8/7 頃　直播：（湛水）8/8 頃（Ｖ溝）8/11 頃	・７月平均気温（金沢） （平年差） 月　27.0℃（　1.2℃） 上旬 25.2℃（　0.8℃） 中旬 27.5℃（　1.8℃） 下旬 28.3℃（　1.1℃） ・７月日照時間（金沢） （平年比） 月　219.0hr（129%） 上旬　27.0hr（ 63%） 中旬　85.8hr（166%） 下旬　106.2hr（142%） ・７月降水量（金沢） （平年値） 月　160mm（232mm） 上旬　142mm（101mm） 中旬　5mm（ 81mm） 下旬　13mm（ 50mm） ・８月平均気温（金沢） （平年差） 月　27.1℃（▲0.2℃） 上旬 28.5℃（　0.6℃） 中旬 25.1℃（▲2.4℃） 下旬 26.3℃（▲0.2℃） ・８月日照時間（金沢） （平年比） 月　170.3hr（ 80%） 上旬　89.5hr（119%） 中旬　25.3hr（ 37%） 下旬　55.5hr（ 80%） ・刈取目安（籾黄化率） 早生　刈始め 80%、刈取適期 85%に設定。（高温登熟） コシヒカリ 刈始め 85%、刈取適期 90%に設定。 ・９月平均気温（金沢） （平年差） 月　23.4℃（　0.2℃） 上旬 23.2℃（▲1.8℃） 中旬 23.6℃（　0.4℃） 下旬 23.4℃（　2.1℃）
登熟期及び成熟期	登熟期の前半は平年より気温が高く、日照時間も多くなった。台風９号の接近に伴い、一時的に気温の低い日が続いた。ゆめみづほは高温条件下での登熟となり、コシヒカリは平年並みの気温で登熟が進んだ。 収穫作業は、登熟期後半にまとまった降雨があったことでゆめみづほの進捗がやや遅れた。コシヒカリの進捗は概ね順調であった。 ９月中～下旬は降雨があった日もあるが、直播や晩植などの晩生品種は、概ね適期に収穫作業が行われた。 【成熟期】（　）内は前年値 ・ゆめみづほ 平坦部　8/21～25（8/21～28）、山間部　8/25～28（8/25～30） ・五百万石 平坦部　8/27～31（8/27～31） ・コシヒカリ 平坦部　9/8～13　（9/4～9/8）、山間部　9/8～15（9/8～15） 【収穫時期】（　）内は前年値 品種 ／ 始期 ／ 盛期 ／ 終期 ゆめみづほ ／ ８月 23 日（８月 21 日） ／ ８月 27 日（８月 26 日） ／ ９月６日（８月 30 日） 五百万石 ／ ８月 28 日（８月 28 日） ／ ８月 30 日（９月１日） ／ ９月３日（９月 ７日） コシヒカリ ／ ９月６日（９月４日） ／ ９月 13 日（９月 11 日） ／ ９月 23 日（９月 22 日）	

生育ステージ	生育の概況等	備考
病害虫	紋枯病は、葉色が濃い茎数過多のほ場で確認された。紋枯病により早期倒伏を招くほ場は少なかった。 いもち病の発生は、葉いもち、穂いもちともに散見され、特に山間部での発生が多かった。 ごま葉枯病は、低地力地域や秋落ちし易いほ場で発生が見られ、発生面積が増加している。また、穂枯れ症状が見られるほ場もあった。 イナゴやツマグロヨコバイの被害が平年より多く見られた。	
収量及び品質	【生育観測田】 ○㎡当たり穂数 ゆめみづほは 488 本（平年比 103）、コシヒカリは 395 本（平年比 104）とやや多くなった。有効茎歩合は、ゆめみづほとコシヒカリで平年並となった。 *○一穂籾数及び㎡当たり籾数* 一穂籾数は、ゆめみづほが 72.3 粒（平年比 108）とやや多く、コシヒカリが 77.6 粒（平年比 97）とやや少なくなった。 ㎡当たり籾数は、ゆめみづほが 35,255 粒（平年比 111）と多く、コシヒカリが 30,633 粒（平年比 101）と平年並みとなった。 ○登熟歩合、千粒重 ゆめみづほの登熟歩合は 75.2%（平年比 92）、コシヒカリは 79.9%（平年比 95）といずれも低くなった。 ゆめみづほの千粒重は 23.4g（平年比 101）と平年並み、コシヒカリは 23.1g（平年比 105）と大きくなった。 ○収量 10a 当たり収量（坪刈り）は、ゆめみづほが 610kg（平年比 100）、コシヒカリが 558kg（平年比 101）と平年並みとなった。 屑米重は、ゆめみづほが 21.9kg（平年比 72）、コシヒカリが 19.4kg（平年比 85）と少なくなった。 ○品質（分析機器：ケット RN310・ケット AN820） 整粒歩合は、ゆめみづほが 69.5%（前年 69.6%）、コシヒカリが 74.7%（前年 75.2%）といずれも前年より低くなった。 玄米タンパク含有率はゆめみづほが 7.1%（前年 6.6%）、コシヒカリが 6.4%（前年 5.7%）といずれも前年と比べて高くなった。 ○検査概況（10 月 31 日現在） １等米比率は、ゆめみづほが 92.4%、コシヒカリが 92.6%となった。 落等要因は、他未熟、乳心白、斑点米が多くなった。	・作況指数 10 月 25 日現在 加賀地区　101 石川県　　101 北陸　　97 全国　　101 （北陸農政局 11 月 9 日公表） ・１等米比率 10 月 31 日現在 （　）内は前年同期 コシヒカリ 92.6% (94.0) ゆめみづほ 92.4% (94.8%) ・主な落等理由 （　）内は前年値 コシヒカリ ①　乳心白 2.5%（0.5%） ②　他未熟 1.9%（1.1%） ③　部カメ 1.8%（2.0%） ゆめみづほ ①　他未熟 3.4%（2.2%） ②　青未熟 1.7%（0.3%） ③　部カメ 1.4%（1.3%）

苗質調査

品種名	草丈(cm)	葉数(葉)	第一鞘高長(cm)	地上部乾物重(g/100 本)	充実度(乾物重 mg/草丈 cm)
ゆめみづほ	12.2	2.6	3.4	2.0	1.7
コシヒカリ	12.2	2.7	3.7	2.2	1.8
五百万石	15.1	2.6	4.4	2.1	1.4

5 月 28 日

品種名	草丈(cm)		茎数(本／㎡)		葉数(葉)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
ゆめみづほ	24.8	22.2	89	108	5.8	5.8
コシヒカリ	32.4	27.0	110	111	5.8	5.8
五百万石	28.0	22.1	82.9	130	6.1	5.9

6 月 28 日（最高分げつ期）

草丈(cm)		茎数(本／m²)		葉数(葉)	
本年	平年	本年	平年	本年	平年
54.7	50.9	536	560	11.0	10.8
54.5	54.7	536	521	10.8	10.6
56.3	51.9	396	442	11.1	10.8

成熟期調査

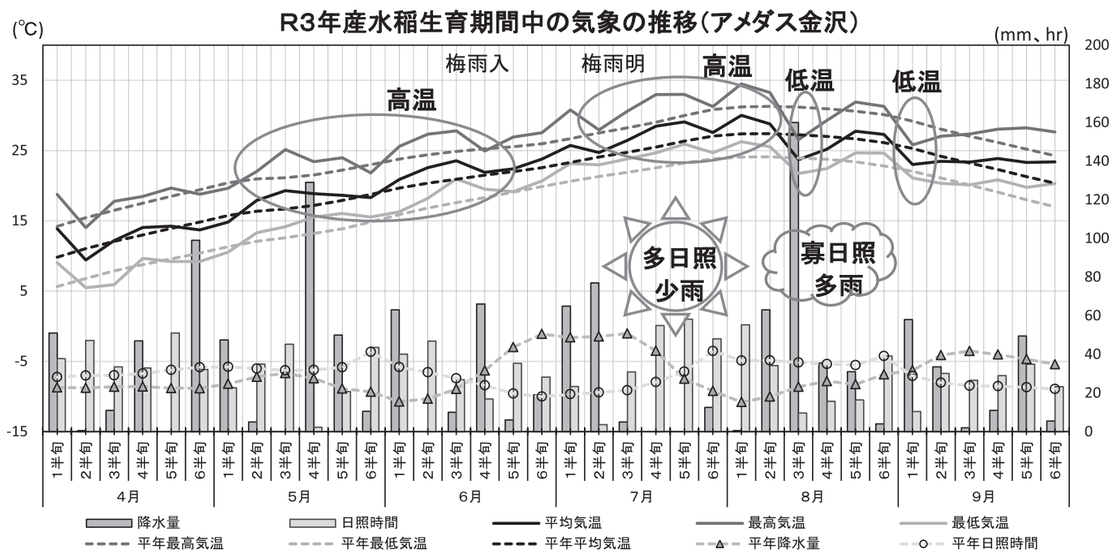
品種名	稈長(cm)		穂長(cm)		穂数(本/㎡)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
ゆめみづほ	68.8	74.5	18.3	18.3	449	463
コシヒカリ	87.6	88.5	18.2	19.1	388	379
五百万石	90.8	80.9	23.1	21.6	369	334

収量調査

品種名	全重(kg／10a)		わら重		精籾重		精玄米重		屑米重	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
ゆめみづほ	1310	1405	509	571	774	804	610	610	21.9	30.3
コシヒカリ	1406	1332	673	596	722	704	558	553	19.4	22.8
五百万石	1239	1188	533	479	664	674	498	532	45.6	21.1

収量構成要素

品種名	穂数(本／㎡)		１穂着粒数(粒)		㎡当たり着粒数(粒)		登熟歩合(%)		千粒重(g)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
ゆめみづほ	488	474	72.3	67.2	35,255	31,835	75.2	81.9	23.4	23.2
コシヒカリ	395	379	77.6	79.8	30,633	30,244	79.9	83.9	23.1	22.1
五百万石	336	340	88.3	77.5	29,638	26,325	68.1	81.0	26.0	25.3



令和３年産 大豆生育概況（１０月末時点）

石川農林総合事務所

生育ステージ	生　育　概　況
播　種　期	５月下旬に降雨が続き、大麦の収穫と重複した経営体ではエンレイの播種開始がやや遅れた。その後は降雨が少なく、晴天日が続いたことから播種作業は順調に進み、６月中旬までには麦跡大豆を含め、おおむね播種作業が完了した。 管内全体の播種時期は、麦跡大豆の面積が増えたことで、平年より遅くなる傾向があり、始期６月２日、盛期６月１０日、終期６月１５日となった。 ○播種期

	本　年			前　年			平　年		
	始 期	盛 期	終 期	始 期	盛 期	終 期	終 期	盛 期	終 期
管内全体	6/2	6/10	6/15	5/28	6/1	6/11	5/25	5/31	6/11
エンレイ	5/30	6/6	6/11	5/26	5/29	6/1	—	—	—
里のほほえみ	6/2	6/10	6/15	5/29	6/4	6/11	—	—	—

※１　始期:5%、盛期:50%、終期:95%　　※２　平年値はH7～R2年産

出芽・苗立ち	６月上旬以降は晴天日が多かったことに加え、各経営体でサブソイラや明渠などの排水対策が徹底されたことで、出芽・苗立ちは全般的に良好であった。
中 耕 培 土	５月下旬に播種したほ場では、初期生育は順調に確保された。 ６月上旬から中旬の生育初期にかけて、降雨が少なく土壌の乾燥が進んだことで、６月播種の里のほほえみのほ場では草丈・主茎長の伸長が例年に比べ遅い傾向が見られた。 狭畦栽培を除き、ほとんどのほ場では７月上旬までに１回目の培土を完了しており、培土後は生育量の増大が進んだ。また培土前後の除草剤散布についても多くのほ場で適正に実施された。
開花期～ 子実肥大期	開花期は、エンレイ７月１７日頃、里のほほえみ７月２５日頃となった。 梅雨明けは７月１４日で、それ以降は多日照・少雨となり、特に８月中旬まで平年に比べ高い気温で推移した。 干ばつによる落花・落莢を防ぐため、高温が予想される前に畝間かん水を積極的に実施した。特に開花の時期と重なる７月下旬については、落花のリスクが高いと判断し、例年より早い時期に管理情報を発行し、ほとんどのほ場で畝間かん水が実施された。 ８月中旬に通過した温帯低気圧の影響で、生育量が旺盛となっていた５月下旬は種のエンレイなどで一部倒伏が発生した。またこの時期以降、後発の雑草が繁茂するほ場が散見された。
黄葉期～ 成熟期	（黄葉期）エンレイ　　：９月２５日～３０日頃（前年より２日遅い） 里のほほえみ：９月３０日～１０月４日頃（前年並み） （落葉期）エンレイ　　：９月２７日～１０月５日頃（前年より２日遅い） 里のほほえみ：１０月７日～１５日頃（前年並み） （成熟期）エンレイ　　：１０月７日～１４日頃（前年より２日遅い） 里のほほえみ：１０月２０日～３０日頃（前年並み） 青立ち株、莢先熟は、ほ場によって発生程度は異なり、全体の発生頻度は少ないものの、生育のばらつきから、前年よりやや多く見られた。 麦跡でのエンレイの作付けが増えており、成熟期がばらつく傾向が見られる。
病　害　虫	里のほほえみで、出芽・苗立ち後、白絹病の発生が散見された。 ７月末以降、エンレイ、里のほほえみともハダニおよび葉焼病、斑点細菌病の発生が散見された。

令和３年産大麦 生育概況

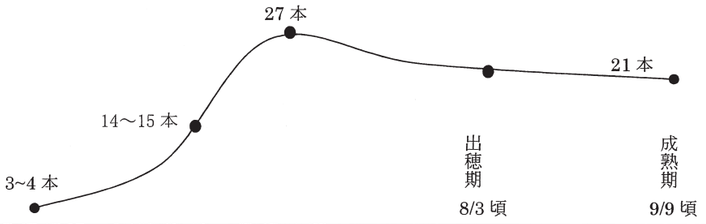
（石川農林総合事務所）

生育ステージ	生　育　概　況
播種期	播種時期は天候にも恵まれ、前年より１～３日程度早く、概ね適期に播種がなされた。 （始期：１０月７日、盛期：１０月１５日、終期：１０月２７日）
出芽・苗立ち	１０月はまとまった降雨もあったが晴天が多く、出芽・苗立ちは全般的に良好であった。 苗立数は、１８２本/㎡で目標苗立ち数（１５０本/㎡）を上回った。一部、排水性の劣るほ場では出芽不良により十分な出芽・苗立ちを確保できなかった圃場もあった。
越冬前	分げつ期に入り、１１月の気温は平年より高く、降水量・日照時間は平年並に経過し、分げつは順調に増加した。また、スズメノカタビラやタネツケバナが多発したほ場が散見された。 １２月の気温は平年並、日照時間は少なく降水量は多く、中旬ごろから降雪を伴う日があった。平年に比べ高温・少雨・多日照で経過した。越冬前の一斉調査における管内36ヶ所平均茎数は、６１５（312～982）本/㎡と目標越冬前茎数（500～650 本/㎡）を確保したほ場が多かった。また、10月上旬播種のほ場で茎数過剰傾向、11月播種のほ場や排水対策が十分でないほ場では茎数がやや少なくなった。
冬期間	１月の気温は平年並みに推移したものの２月の気温はかなり高く、日照時間もかなり多くなった。越冬後の一斉調査では茎数８４３（510～1304）本/㎡と目標茎数（650～750 本/㎡）を上回ったほ場が多く見られた。
越冬後	10月下旬以降播種の茎数が少ないほ場や湿害による苗立ち・生育不良のほ場では茎数確保のため消雪期追肥を実施した。３月も期間を通じて気温は平年より高く経過し、３月下旬の調査では茎数６１０本/㎡となった。 生育期間を通じて気温が高く経過したため、一発肥料の溶出が早まり、登熟期間の窒素供給不足が懸念されたため、止葉展開期追肥を実施した。
出穂期	４月気温は平年並～高めで経過し、出穂期は平坦部４月６～１３日、山間部４月２９日となった。管内の盛期は４月８日であったが、地域やほ場によってバラツキがみられた。 （R2:4/5～4/16、R1：4/5～4/18、H30:4/19～25、H29：4/11～17、H28：4/8～16）
登熟期	４月は大雨の日もあったが、気温は高く、降水量は多く、日照時間はかなり多く経過した。５月の気温は平年並、降水量は多く、日照時間は少なくなった。 穂数は十分に確保していたが登熟中期の降水量が多く、特に刈取間際で降雨が続いたことから成熟期の色ムラがみられ、枯れ上がりが早まった。また、全体的に倒伏するほ場がみられた。
収穫期・収量	成熟期は、５月２７日～６月８日（前年：5/27～6/4）、収穫作業は雨が少なく順調に進み５月２８日～６月８日（前年：5/27～6/7）となった。 ㎡あたり穂数は、松任地区では調査区で５３０本/㎡（前年平均536本/㎡）、美川地区は、調査区平均３９２本/㎡（前年平均414本/㎡）となった。 目標穂数を概ね確保したが、登熟期間中の日照不足および多雨により前年に比べ登熟歩合の低下し、細麦が多くなった。 製品収量(2.4㎜以上)は、松任地区で３９５kg/10a（前年：458kg/10a）、美川地区で３１７kg/10a（前年：406kg/10a）となり前年を下回った。

コシヒカリ栽培ごよみ

目標収量構成要素

栽植密度	60株/坪
一株穂数	21 本
一穂着粒数	74 粒
登熟歩合	85 %
千粒重	22.5 g
収量	540kg/10a



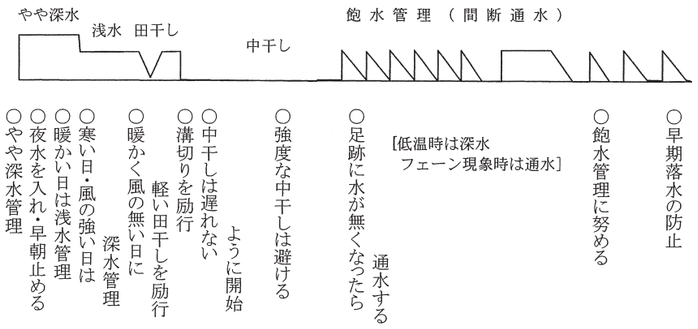
生育時期

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
育苗期間			田植期	活着期	分げつ期			高げつ期 最分つ	幼穂形成期	穂ばらみ期		出穂期	登熟期		成熟期		

栽培のポイント

- ○薄播きによる健苗の育成
- 適正播種量 120 g/箱
- ○苗の生育に応じた温度・水管理
- ○3 cm の浅植え
- ○3～4 本植え
- ○適正な水管理による初期分げつの促進
- ○中干しの開始(田植一ヶ月後)
- 確保された時点目標穂数の70%が
- ○飽水管理の実施
- ○中干し終了(幼穂形成期前)
- ○穂肥 出穂18日前
- (○追加穂肥)(幼穂長約10～15㎜)
- ○病害虫防除
- ○害虫防除
- ○落水(刈取り4～3日前)
- ○適期刈取り

水管理のポイント



- ○浸種・催芽は十分に行う
- ○やや深水管理
- ○夜水を入れ・早朝止める
- ○暖かい日は浅水管理
- ○寒い日・風の強い日は深水管理
- ○暖かく風の無い日に軽い田干しを励行
- ○溝切りを励行
- ○中干しは遅れないように開始
- ○強度な中干しは避ける
- ○足跡に水が無くなったら通水する
- ○飽水管理に努める
- ○早期落水の防止

施肥設計

10a 当たり施用量

施肥方法	基肥		穂肥
		施用量	出穂18日前
側条施肥(一発)	コシ一発くんNEO α	35～40kg	
	コシ一発くんDX24	40～45kg(手取は40kg)	
	けい酸アップ・コシ一発くん	53～60kg(手取は50～55kg)	
全層施肥	BB高度056号	30kg(手取は40kg)	BBLP 有機060号 30kg(手取は25kg)
側条施肥(分施)	BB003−40号	30kg(手取は35kg)	

※高温登熟が予想される場合は、出穂７日前頃に更に追肥（BB とれるぞうで７～10kg/10a）が必要です。

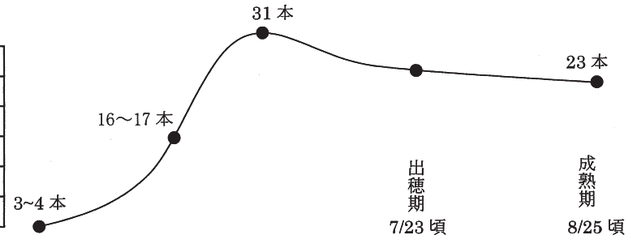
栽培上の留意点

① 苗が徒長しないように硬化期に外気に近い温度で管理する。
② 中干しの開始が遅れないようにする。
　※中干し開始の目安:1株当たりの茎数 14～15 本で始める。
　※中干しの開始は、田植後1ヶ月をメドに始める。
　※中干しは、幼穂形成期までに終える。
③ 稈長は長く、稈質が弱いため、幼穂形成期の草丈が 70cm 以上で倒伏の危険が高まる。
④ 収量・品質を維持するため、穂数 380～400 本/m²を確保する。
⑤ 刈遅れると胴割れ粒が発生しやすく品質が低下するため、適期刈取りに努める。

ゆめみづほ(石川43号)栽培ごよみ

目標収量構成要素

栽植密度	60株/坪
一株穂数	23 本
一穂着粒数	70 粒
登熟歩合	85 %
千粒重	23.0 g
収量	570kg/10a



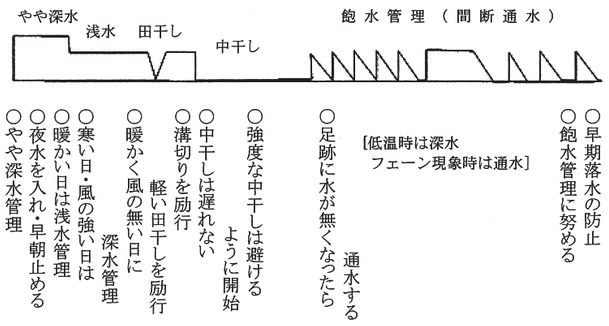
生育時期

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
育苗期間			田植期	活着期	分げつ期			高げつ期 最分つ	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期			成熟期		

栽培のポイント

- ○薄播きによる健苗の育成
- 適正播種量 120 g/箱
- ○苗の生育に応じた温度・水管理
- ○3 cm の浅植え
- ○3～4 本植え
- ○適正な水管理による初期分げつの促進
- ○中干しの開始(田植一ヶ月後)
- 確保された時点目標穂数の70%が
- ○飽水管理の実施
- ○中干し終了(幼穂形成期前)
- ○穂肥 出穂23日前
- (幼穂長約2～3㎜)
- ○(追加穂肥)
- ○病害虫防除
- ○害虫防除
- ○落水(刈取り4～3日前)
- ○適期刈取り

水管理のポイント



- ○浸種・催芽は十分に行う
- ○やや深水管理
- ○夜水を入れ・早朝止める
- ○暖かい日は浅水管理
- ○寒い日・風の強い日は深水管理
- ○暖かく風の無い日に軽い田干しを励行
- ○溝切りを励行
- ○中干しは遅れないように開始
- ○強度な中干しは避ける
- ○足跡に水が無くなったら通水する
- ○飽水管理に努める
- ○早期落水の防止

施肥設計

10a 当たり施用量

施肥方法	基肥		穂肥
		施用量	出穂23日前
側条施肥(一発)	早生一発くんNEO	35～40kg	
	新早生一発くん又は早生一発くんDX28	45kg	
全層施肥	BB高度056号又はBBエコ028号	35kg	BBLP 有機060号 30kg
側条施肥(分施)	BB003−40号	35kg	

※高温登熟が予想される場合は、出穂７日前頃に更に追肥（BB とれるぞうで７～10kg/10a）が必要です。

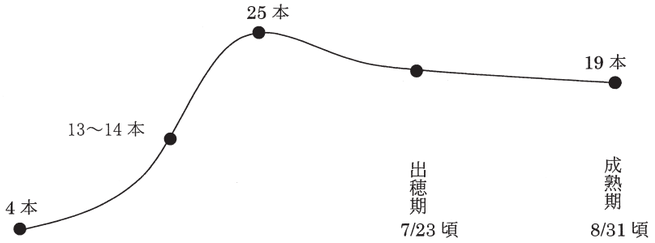
栽培上の留意点

① 育苗時の草丈は伸びにくく短いが、高温管理等で無理に伸ばさない。
② 分げつの発生が旺盛で茎数が多くなるので、過剰な基肥を避ける。
③ 中干しの開始が遅れないようにする。
　※中干し開始の目安:1株当たりの茎数 16～17本で始める。
　※中干しの開始は、田植後1ヶ月をメドに始める。
　※中干しは、幼穂形成期までに終える。
④ 稈径は細く、稈質がやや弱いため、稈長が80cm を超えると倒伏しやすい。
⑤ 短稈多けつの品種なので、高温時には紋枯病が発生しやすい。
⑥ 刈遅れると胴割粒が発生しやすく品質低下するため、籾の黄化を確認し適期刈取りに努める。

五百万石栽培ごよみ

目標収量構成要素

栽植密度	60株/坪
一株穂数	19 本
一穂着粒数	75 粒
登熟歩合	85 %
千粒重	25.0 g
収量	550kg/10a



生育時期

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
育苗期間			田植期	活着期	分げつ期			最高分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期	出穂期	登熟期		成熟期			

栽培のポイント

- ○薄播きによる健苗の育成
- 適正播種量 150 g/箱
- ○苗の生育に応じた温度・水管理
- ○3～4 本植え
- ○3 cm の浅植え
- ○適正な水管理による初期分げつの促進
- ○中干しの開始(田植一ヶ月後)
- 確保された時点目標穂数の 70 %が
- ○中干し終了(幼穂形成期前)
- ○飽水管理の実施
- ○穂肥 出穂18日前
- ○(追加穂肥)(幼穂長約 10 mm)
- ○病害虫防除
- ○害虫防除
- ○落水(刈取り4～3日前)
- ○適期刈取り

水管理のポイント

- ○浸種・催芽は十分に行う
- ○やや深水管理
- ○夜水を入れ・早朝止める
- ○暖かい日は浅水管理
- ○寒い日・風の強い日は深水管理
- ○暖かく風の無い日に軽い田干しを励行
- ○溝切りを励行
- ○中干しは遅れない
- ○強度な中干しは避けるように開始
- ○足跡に水が無くなったら通水する
- [低温時は深水 フェーン現象時は通水]
- ○飽水管理に努める
- ○早期落水の防止

施肥設計

10a 当たり施用量

施肥方法	基肥	施用量	活着肥	穂肥 出穂18日前
側条施肥(一発)	五百万石一発くん	45kg		
全層施肥	BB 高度056号 又はエコ028号	45kg (手取は50kg)	硫安 5kg	BBLP 有機060号 30kg
側条施肥(分施)	BB003−40号	45kg		

※高温登熟が予想される場合は、出穂 7 日前頃に追加穂肥（BB とれるぞうで 7～10kg/10a 程度）が必要です。

栽培上の留意点

① 栽培は比較的地力のある地域が望ましい。

② 育苗時の草丈は伸びにくく短いが高温管理等で無理に伸ばさない。

③ 稈径は太いが、多肥栽培では稈が長く軟弱になり倒伏しやすい。そのため、穂肥は出穂前 18 日頃とする。

④ 大粒であるため、登熟歩合を上げ心白の発現をよくするため、生育時期に応じた水管理を実施し、登熟期の根の活力維持に努める。

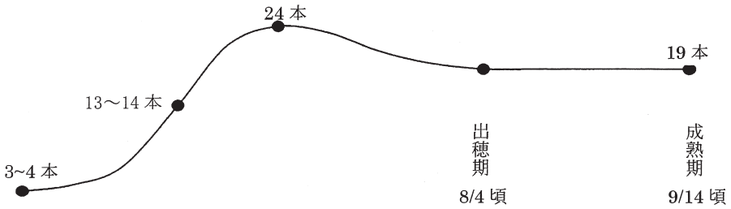
⑤ 稈茎が太く紋枯病の被害を受けやすいので、紋枯病常発田では単剤による予防防除の徹底を図る。

⑥ 刈遅れると胴割粒が発生しやすく品質低下するため、籾の黄化を確認し適期刈取りに努める。

カグラモチ栽培ごよみ

目標収量構成要素

栽植密度	60株/坪
一株穂数	19 本
一穂着粒数	84 粒
登熟歩合	85 %
千粒重	21.0 g
収量	520kg/10a



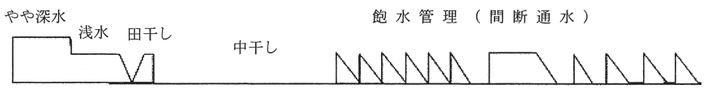
生育時期

4月			5月			6月			7月			8月			9月		
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
育苗期間			田植期	活着期	分げつ期			最高分げつ期	幼穂形成期	穂ばらみ期		出穂期	登熟期			成熟期	

栽培のポイント

- ○薄播きによる健苗の育成
- 適正播種量 120 g/箱
- ○苗の生育に応じた温度・水管理
- ○3～4 本植え
- ○3 cm の浅植え
- ○適正な水管理による初期分げつの促進
- ○中干しの開始(田植一ヶ月後)
- 確保された時点目標穂数の 70 %が
- ○中干し終了(幼穂形成期前)
- ○飽水管理の実施
- ○穂肥 出穂20日前
- ○(追加穂肥)(幼穂長約 8 mm)
- ○病害虫防除
- ○病害虫防除
- ○害虫防除
- ○落水(刈取り4～3日前)
- ○適期刈取り

水管理のポイント



- ○浸種・催芽は十分に行う
- ○やや深水管理
- ○夜水を入れ・早朝止める
- ○暖かい日は浅水管理
- ○寒い日・風の強い日は深水管理
- ○暖かく風の無い日に軽い田干しを励行
- ○溝切りを励行
- ○中干しは遅れない
- ○強度な中干しは避けるように開始
- ○足跡に水が無くなったら通水する
- [低温時は深水 フェーン現象時は通水]
- ○飽水管理に努める
- ○早期落水の防止

施肥設計

10a 当たり施用量

施肥方法	基肥	施用量	活着肥	穂肥 出穂20日前
全層施肥	コシ一発くんNEO α	35～40kg		
	コシ一発くん1号	40～45kg		
	BB 高度056号 又は BB エコ028号	50kg	硫安 10kg	BBLP 有機060号 25kg
側条施肥(分施)	BB003−40号	45kg		

栽培上の留意点

① いもち病抵抗性が弱い品種のため、初発に注意し、基幹防除の徹底に努める。

② 穂数がとれにくいため、一穂籾数確保のため穂肥は遅れないように注意する。

③ 立毛中でも穂発芽しやすいため倒さない栽培管理(水管理・肥料)に努め、刈り遅れにならないよう注意する。

令和４年版

不耕起Ｖ溝直播栽培こよみ

品種名 ： コシヒカリ

品種 コシヒカリ	３月	４月			５月			６月			７月			９月			10月	11月	12月
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			

生育ステージ 除草剤施用時期

除草剤（雑草発生）随時 → 播種 施肥 → 除草剤1回目 → 出芽 → 除草剤2回目 → 入水 → 除草剤3回目 → 最高分げつ期 → 出穂期 → 収穫期 → 土づくり肥料施用 耕起・代掻 溝切作業

管理の要点

●播種は4月以降、ほ場が乾いた状態で行う。

●播種は不耕Ｖ溝直播種専用播種機を使用する（クローラ型トラクタ60Ps、10条）。
- ・播種前に、肥料・種子ホッパーの開度調整ダイヤルにより落下量を調整する。
- ・作業輪は、PTOにより正転方向の回転で使用する（無回転ではＶ溝が崩れる）。
- ・播種作業は、毎秒1.2～1.5mが理想
- ・作業中に、播種機械を止めた場合は1～2m戻って再スタートする。
- ・枕地や外周仕上げの際は、肥料や種子が重複しないように注意する。

●入水までの除草剤は遅れないように散布する。
- ・雑草の発生が肉眼で確認できなくても必ず除草剤を散布すること（越年性雑草、ノビエが多発する恐れがある）。

●播種後、出芽までの期間に晴天が続く場合は通水し、発芽を促す。
- ・ほ場全体に水が行き渡ったら早急に落水する。

●入水後は、生育期間を通じて湛水状態を保つ。（上根が多いため）。
- ・登熟期間は、時々水の入れ替えを行い、水温の上昇を抑える。

●いもち病予防粒剤の散布

●ほ場の整地・雑草抑制・播種精度の向上
- ・浅水代掻きとし、代掻き水は強制排水せず、自然落水とする。
- ・残さが吹きよった場所は、田面が乾きにくくなるため取り除く。
- ・暗渠は、5月下旬のに入水まで解放状態にしておく。

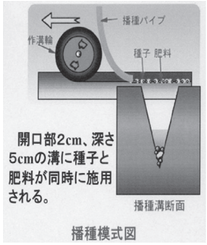
●排水溝を設置し、土壌が乾きやすくする。
- ・隣接ほ場が、一般移植栽培の場合は、額縁に深い排水溝を設置し排水口につなげる。

水管理

入水（イネ2～3葉期） ― 湛水状態 ― 登熟期間水の入れ替え ― 代掻き時

種子準備 播種作業

不耕起Ｖ溝直播栽培播種模式図



播種模式図

- ・種子準備：乾燥籾
- ・種子消毒（種子腐敗防止、鳥害防止）
  キヒゲンR－2フロアブル
  原液130mL/乾籾6～6.5kg
- ・種子殺虫殺菌
  ルーチンシードFS（殺菌）
  原液52mL/乾籾6～6.5kg
  ヨーバルシードFS（殺虫）
  原液39mL/乾籾6～6.5kg

播種量及び播種時肥量（kg/10a）

播種量	肥料名	施肥量	N	P	K
6～6.5	BBV溝直播コシー発くん	25	10	0	0

※BBV溝直播コシー発くん（N:41－P:0－K:0）

耕起・代掻き前 kg/10a

肥料名	施肥量
ユーキPK（N:0－P:10－K:20）	40

※ユーキPK（0－10－20）

追肥（6月20～25日）kg/10a

肥料名	施肥量
PKけい酸（N:0－P:10－K:9）	40

【高温登熟年】
追加穂肥（kg/10a）

肥料名	施肥量
BBとれるぞう（N:15－P:5－K:10）	10～15（N:1.5～2.3kg）

※葉色が淡い場合（葉色板4.0以下）

土づくり肥料（秋～耕起前） kg/10a

肥料名	施用量
白山大地	60
ダイナマイトソイル	100

除草体系

随時防除 融雪直後雑草発生
ラウンドアップ マックスロード 500mL/水25～50L/10a
一年生雑草
多年生雑草
（雑草生育期）

第1回目基幹雑草防除 播種後10～14日
ラウンドアップマックスロード 500mL/水50L/10a
出芽前
一年生雑草
多年生雑草
混 用
マーシェット乳剤 1000～1500mL/水50L/10a
出芽前
一年生雑草（入水15日前まで）

随時雑草防除 1回目散布20日後
クリンチャーバスME液剤 1000mL/水100L
播種後10日～ノビエ5葉まで、
但し収穫50日前まで
水田一年生雑草
マツバイ、ホタルイ
使用回数2回以内

第2回目基幹雑草防除 入水直後
エンペラー1キロ粒剤 1kg/10a
稲出芽揃期～ノビエ3葉期、
但し収穫75日前まで
水田一年生雑草
マツバイ、ホタルイ、ウリカワ
ヘラオモダカ、ミズガヤツリ
セリ、ヒルムシロ
使用回数1回

※ラウンドアップマックスロードの使用回数は全体で2回以内※

ノビエ・多年生雑草残存した場合
［ノビエ］
ワイドアタックSC
稲3葉期～ノビエ5葉 100mL/水100L/10a
［多年生雑草］
バサグラン液剤
播種後35～50日 700mL/水100L/10a
［イボクサ］
ノミニー液剤
移植後30日～イボクサ茎長30cmまで
100mL/水100L/10a
＜イボクサが大きくなった場合＞
ロイヤント乳剤
稲3葉期～ノビエ5葉期 200mL/水100L/10a

病害虫防除

初期害虫防除		葉いもち病防除	紋枯病防除	
トレボン粒剤 2～3kg/10a	トレボン粉剤DL 3～4kg/10a	オリゼメート1キロ粒剤 1～1.3kg/10a	モンセレン粉剤DL 3～4kg/10a	リンバー粒剤 3～4kg/10a

出穂直前 基幹防除 ／ 出穂期 基幹防除 ／ 穂揃期 基幹防除
移植栽培に準ずる

収量構成要素

苗立数	100～150本／㎡
㎡当たり穂数	380本／㎡
一穂着粒数	75粒／本
㎡当たり着粒数	28,500粒／㎡
登熟歩合	85%
千粒重	22.3g
収量	540kg／10a

不耕起Ｖ溝直播導入効果

不耕起Ｖ溝直播栽培は秋冬期に耕起・代掻を実施するので春作業の軽減と同時に、作期分散が図られるため担い手の規模拡大に有効な栽培様式である。

管理のポイント

●秋冬期の水利条件が良く、乾田期の除草剤散布が効率的にできるよう団地化に努める。

●４月に入って播種が効率的にできるように排水溝等を設置し、硬く乾くように努める。

●乾田期の越冬雑草（スズメノテッポウ、スズメノカタビラ等）、ヒエ発生を抑制するため除草剤の散布が遅れないようにする。

●出芽苗立本数の目安
100～150本／㎡
20～30本／m

●ほ場条件により、葉色が淡く経過する場合は（根毛の発生少ない）早期の分げつ肥、出穂10日前の追肥（窒素成分1kg／10a）を行う。

●浅根が多くなるので根の機能の低下を防ぐため生育期間、湛水状態とする。

●イボクサ、雑草イネ等の難雑草の発生に注意する。

令和４年版

鉄コーティング湛水直播栽培こよみ

品種名 ： コシヒカリ

ほ場の設定条件；
- ●ほ場の均平度が高く、表面の硬さが均一なほ場を選ぶ
- ●用水が豊富で、移植栽培の収穫後も通水可能なほ場を選ぶ
- ●漏水田など水持ちの悪いほ場は避ける
- ●未熟な堆肥を多用した田、強湿田などは避ける
- ●ホタルイ、多年性雑草の発生の少ないほ場を選ぶ
- ●漏生モミ対策として、前年作と同じ品種の作付けとする

品種：コシヒカリ　｜　４月（上旬・中旬・下旬）　５月（上旬・中旬・下旬）　６月（上旬・中旬・下旬）　７月（上旬・中旬・下旬）　８月（上旬・中旬・下旬）　９月（上旬・中旬・下旬）

生育状況

耕起・代掻 ― 播　種（4/25～5/8頃） ― 出芽期 ― 最高分げつ期 ― 出穂期（8/8頃） ― 収穫（9/17頃）

幼穂形成期・穂ばらみ期・減数分裂期

目標単収：520kg／10a

水管理

均平・耕起　入水・代掻（荒代掻・本代掻）　自然減水　播種　自然減水　落水　入水（出芽後）　間断排水　中干し　溝　切　間断灌漑（飽水管理）　間断通水

軽い田干し２～３回

7日程度　5～7日　10日間

管理の要点

- ・ほ場は均平にする
- ・深耕を図る
- ・代掻は浅水で行う
- ・土のねりすぎ注意
- ・播種時における土の硬さ（かため→表面播種）
- ・自然減水後落水は出芽まで行う
- ・中干しは目標茎数の70%確保した時点で実施
- 間断灌漑（飽水管理）、間断通水を移植栽培に準じて励行
- ・収穫5日前まで通水

目標出芽苗立数 40～70本／㎡

播種量及び施肥体系

播種量（乾籾）：3.0～3.5kg／10a（乾燥籾）　鉄コーティング種子

ゴルフボール　1m　少し沈む（1/3沈む）

基　肥（播種同時）：コシ直播一発くん（N:20－P:6－K:6）30～35kg／10a（N:6～7kg）（※地力に応じて調整する。）

中間追肥：けい酸加里プレミア（K:20－Si:34）30～40kg／10a

追加穂肥（出穂前10日）：BBとれるぞう（N:15－P:5－K:10）7～10kg／10a（N:1.2～1.4kg）　※葉色が淡い（葉色板4.0以下）場合

土づくり：白山大地 60kg／10a または ダイナマイトソイル 100kg／10a

除草体系

代掻時 → 播種直後入水 → 自然落水 → イネ1葉期 → イネ3葉～　ノビエ・多年生雑草残存

- ・代掻から播種まで間隔が7日以上長くなる場合
- ・雑草が多いほ場　サキドリEW　植代時処理（播種7日前まで）300mL

ベルーガ1キロ粒剤（播種時～ノビエ3葉期まで）1kg／10a
- ・雑草の少ないほ場　ヒエクリーン1キロ粒剤（播種時～稲出芽前）1kg／10a

エンペラー1キロ粒剤（稲出芽揃期～ノビエ3葉期まで）1kg／10a
※散布前に必ず軽い田干しをすること。

レブラス1キロ粒剤（ノビエ4葉まで）1kg／10a

［ノビエ］
クリンチャー1キロ粒剤（ノビエ4葉期まで）1.5kg／10a
クリンチャーEW液剤（ノビエ5葉期まで）100mL／水100L／10a
ロイヤント乳剤（ノビエ5葉期まで）200mL／水100L／10a

［多年生雑草］
バサグラン液剤（播種後35～50日）700mL／水100L／10a

病害虫防除

初期害虫防除：トレボン粉剤DL 3～4kg／10a　トレボン粒剤 2～3kg／10a

葉いもち病防除：オリゼメート1キロ粒剤 1～1.3kg／10a

紋枯病防除：モンセレン粉剤DL 3～4kg／10a　リンバー粒剤 3～4kg／10a

出穂直前基幹防除　出穂期基幹防除　穂揃期基幹防除

移植栽培に準ずる

※鉄コーティング種子は購入

湛水直播栽培は、育苗管理、苗の運搬等の春作業の労働力軽減が大きく、収穫時の作業分散に有効です。

収量構成要素

㎡当たり穂数	380本／㎡
一穂着粒数	75粒
㎡当たり着粒数	28,500粒／㎡
登熟歩合	85%
千粒重	21.8g
収量	520kg／10a

管理のポイント

- ● ほ場設定条件を守り作付けを行う。
- ● 播種 前に発芽試験を実施する（鉄粉依作業時に酸化させるため熱がでる（作業条件によっては高温となる）。
- ● 播種時に種子が埋没すると極端に出芽不良となるので、 田面を適正な硬度にする（移植栽培より固め）。
- ● 播種時期は、4月25日～5月10日頃を目安とし、播種量を厳守する。
- ● 播種直後に除草剤を散布し、5～7日間は湛水状態を保ち、その後、出芽までの落水状態を徹底する。
- ● 出芽後は、 速やかに入水し（鳥害防止）、 イネ1葉展開以降の除草剤使用は遅れないように適期に散布する。
- ● 有機物の分解に伴うガスを除去を図るため、 中干しまでに2～3回軽い田干しを行い発根を促し、 分げつの発生を促す。
- ● 過剰分げつ及び、 下位節間の伸びによる 倒伏防止のため中干しを適期に実施する。
- ● 稲体及び根の健全化を図るため間断灌漑（飽水管理）、 間断通水等の水管理を徹底する。
- ● 葉いもち防除及び基幹防除を実施するとともに、 発生予察情報をもとに異常発生時には、 追加防除を実施する。

使用時期別除草剤一覧

	除草剤名	使用量
播種直後入水時	雑草が多いほ場（は種時～ノビエ3葉期） 収穫75日前まで	
	ベルーガ1キロ粒剤	1kg/10a（1回）湛水処理
	雑草が少ないほ場（は種時～稲出芽前） 収穫45日前まで	
	ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg/10a（1回）湛水処理

	除草剤名	使用量
イネ1葉期（稲出芽揃期～ノビエ3葉期）	エンペラー1キロ粒剤	1kg/10a（1回）湛水処理

	除草剤名	使用量
イネ2葉期～	ノビエが多いほ場	
	クリンチャー1キロ粒剤	1.5kg/10a（2回以内）湛水処理
	クリンチャーEW	100mL/水100L/10a（2回以内）落水処理
	ロイヤント乳剤	200mL/水100L/10a（2回以内）落水処理
	多年生雑草が多いほ場	
	バサグラン液剤	500～700mL/水70～100L/10a（2回以内）落水処理
	ノビエ・多年生雑草が多いほ場	
	レブラス1キロ粒剤	1kg/10a（1回）湛水処理

R４年産 大豆 狭畦栽培ごよみ（収量目標250kg／10a）

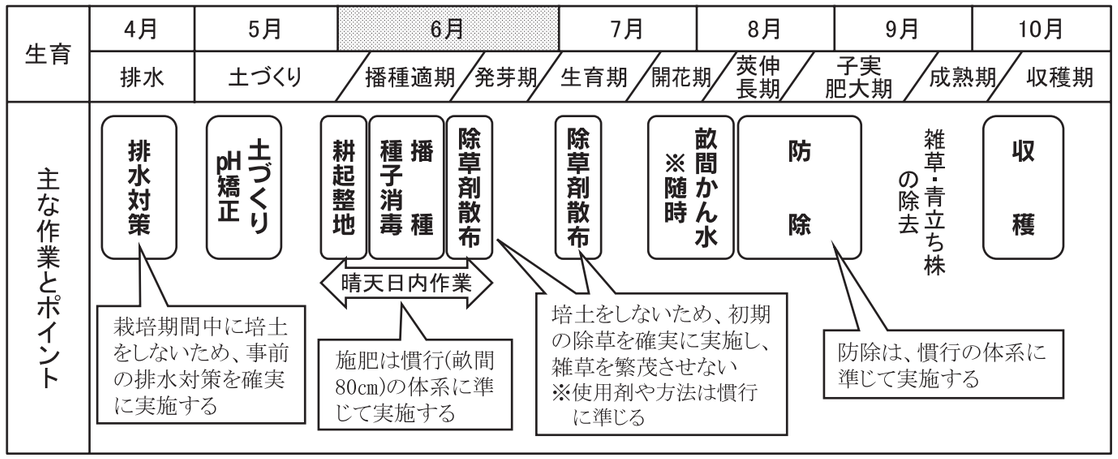
【収量構成目標】

① 10a当たり苗立数	15,000～17,000本
② 株当たり着莢数	35莢
③ 莢当たり粒数	1.7粒
④ 整粒割合	80%
⑤ 百粒重	35g

＜狭畦栽培のポイント＞

○「里のほほえみ」を6月中旬に播種する。
○播種量8kg、苗立本数を確保する。
○無培土のため、生育期の除草剤散布適期を逃さない。（雑草の多いほ場には適さない）

＜栽培管理の流れと注意点＞



＜播種の設定＞

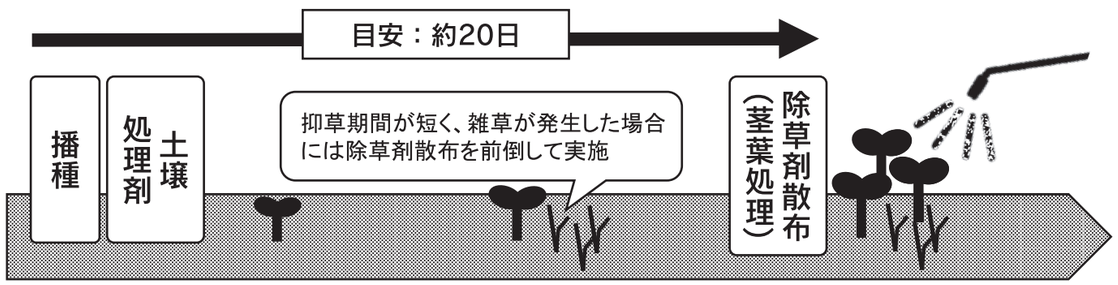
播種時期	10a当たり播種量	播種深度	播種密度		目標苗立本数（苗立率80%換算）	
			条間	株間	1m当たり	1㎡当たり
6月5日～25日	8kg	4cm※	幅25cm	17～20cm	4本	15～17本
			幅30cm	14～17cm	4～5本	

※狭畦栽培は株が徒長しやすく、倒伏を防ぐために播種深度を慣行よりも深くする（参考：慣行では3cm）

＜施肥体系＞

【肥料名】 大豆一発N25	30kg（10a）	※培土・追肥しないため、一発肥料を使用する

＜除草剤散布の目安＞



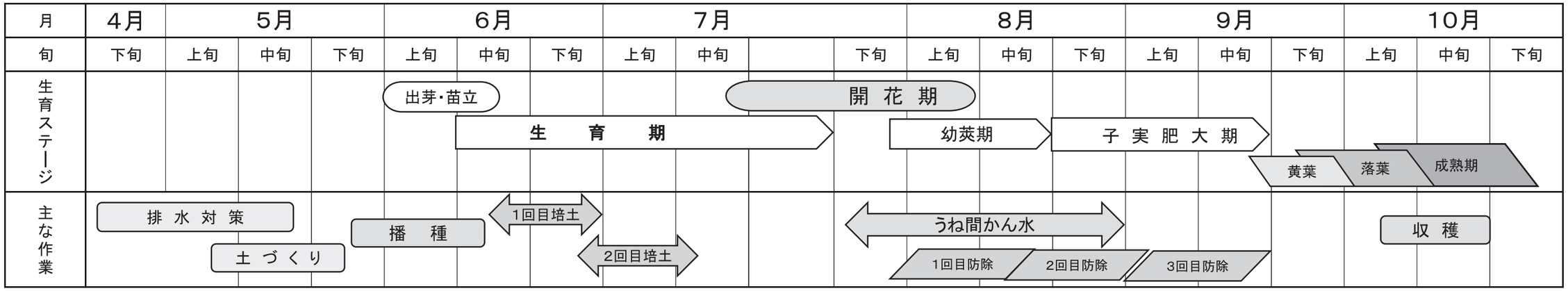
播種後20日程度を目安に、土壌処理剤の抑草の効果が切れて雑草が発生してきたタイミングで除草剤を散布
（除草剤の種類や使用方法は、慣行の体系に準じる）

大豆栽培ごよみ（収量目標250kg／10a）

大豆栽培の3大ポイント

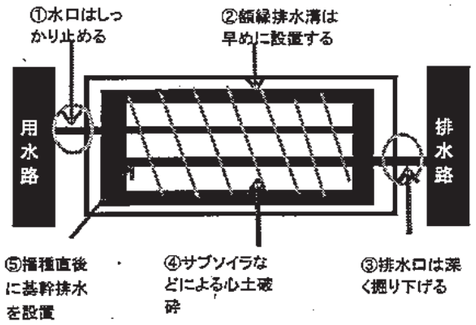
①排水対策の徹底
②pH矯正と土づくり（地力に応じた施肥）
③的確な培土

収量構成目標	（エンレイ）	（里のほほえみ）
①10a当たり苗立数	12,000～14,000本	15,000～18,000本
②株当たり着莢数	50莢	40莢
③莢当たり粒数	1．8粒	1．7粒
④整粒割合	80%	80%
⑤百粒重	28g	35g



＜排水対策＞

・明きょは額縁排水溝に加え縦方向に数本排水溝を設置する。
・圃場内に水が溜まりにくくするため、サブソイラーによる心土破砕を行う。



＜土づくり＞

・土壌pHを6．0～6．5に矯正

資材名	10a当たり施用量
苦土石灰又はBB転作エース	100kg

＜基　肥＞

・耕起前又は播種時に施用する。

肥料名	10a当たり施用量	備考
大豆一発N25	30kg	
BB高度056号	30kg	低地力圃場は左記以外に10kgを全層施用する
BBエコ028号	30kg	

＜播　種＞

種子消毒：キヒゲンR-2フロアブル又はクルーザーMAXX（次頁参照）
条間80cm　目皿方式（大粒種子使用）の場合

品　種　名	播種時期	目標栽植本数（10a当たり）	播種量（10a当たり）
エンレイ	5月25日～6月10日	12，000本	4．6kg
里のほほえみ	6月1日～6月10日	15，000本	6．4kg
	大麦収穫後～6月25日	18，000本	7．6kg

＜雑草対策＞

播種直後の除草剤散布を必ず行う（次頁参照）。

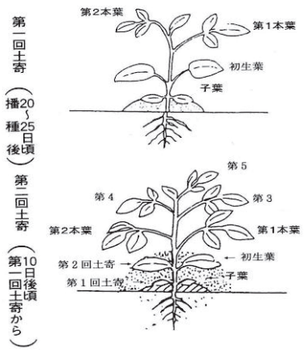
＜追　肥＞

・施用時期：2回目培土時又は開花期前
・肥料名・施用量：硫安　10kg／10a
　　BBNK17号　12kg／10a

＜培　土＞

生育量の確保や雑草の発生防止、倒伏防止のため、2回の培土を確実に実施する。

土寄２回実施方法



＜うね間かん水＞

開花期以降、子実肥大期にかけて降雨が無く、乾燥が続く場合に「うね間かん水」を行う。

＜病害虫防除＞

紫斑病、葉焼病、カメムシ類、ウコンノメイガ等の発生防止のため、開花期、子実肥大期に防除を確実に行う。（次頁参照）

＜収　穫＞

コンバイン刈取適期
・莢や子実の水分が18～20%
・茎の水分が60%以下

里のほほえみの判断基準
・成熟期は「エンレイ」より7～10日程度遅い。
・莢が褐色となり子実水分が20%以下でも、茎に黄色味が残りやすいので、茎の黄色味が退色してから収穫を行う。

◆種子消毒

薬剤名	使用時期	使用量	適用病害虫名	使用回数
キヒゲンR-2 フロアブル	は種前	乾燥種子１kg当たり 原液20㎖塗沫	紫斑病、苗立枯病、ハト、タネバエ、カラス	１回
キヒゲン	は種前	乾燥種子１kg当たり 10g粉衣処理	紫斑病、ハト、タネバエ	
クルーザー FS30	は種前	乾燥種子１kg当たり 原液６㎖塗沫処理	フタスジヒメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類	１回
クルーザー MAXX	は種前	乾燥種子１kg当たり 原液８㎖塗沫処理	紫斑病、苗立枯病、茎疫病、黒根腐病、リゾクトニア根腐病、フタスジヒメハムシ、アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類	

◆雑草防除

除草剤名	使用時期	10a当たり使用量	使用回数	適用雑草名	備　考
クリアターン細粒剤F	は種直後(雑草発生前)	4～5kg	1回	一年生雑草	全面土壌散布 (土が湿っている 状態で散布する)
クリアターン乳剤	は種直後 (雑草発生前)	薬量500～800㎖ (希釈水量70～100ℓ)	1回	一年生雑草	
トレファノサイド粒剤2.5	は種後発芽前	4～6kg	2回以内	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツリグサ、 キク、アブラナ科を除く)	
トレファノサイド乳剤	は種後発芽前	薬量200～300㎖ (希釈水量100ℓ)	2回以内	一年生雑草 (ツユクサ、カヤツリグサ、 キク、アブラナ科を除く)	
ラクサー粒剤	は種後出芽前 (雑草発生前)	4～6kg	1回	一年生雑草	
ラクサー乳剤	は種後出芽前 (雑草発生前)	薬量400～600㎖ (希釈水量100ℓ)	1回	一年生雑草	
ナブ乳剤	雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 (但し収穫30日前まで)	薬量150～200㎖ (希釈水量100～150ℓ)	1回	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草茎葉散布
	雑草生育期 イネ科雑草6～8葉期 (但し収穫30日前まで)	薬量200㎖ (希釈水量100ℓ)			
ポルトフロアブル	雑草生育期 イネ科雑草3～10葉期 (但し収穫30日前まで)	薬量200～300㎖ (希釈水量100ℓ)	1回	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	
大豆バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	大豆の2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) (但し収穫45日前まで)	薬量100～150㎖ (希釈水量100ℓ)	1回	一年生雑草 (イネ科を除く)	
バスタ液剤	雑草生育期：畦間処理 (但し収穫28日前まで)	薬量300～500㎖ (希釈水量100～150ℓ)	3回以内	一年生雑草 【非選択性】	雑草茎葉散布 大豆に かかったら 枯れます!
ラウンドアップ マックスロード	雑草生育期：畦間処理 (但し収穫前日まで)	薬量200～500㎖ (希釈水量50～100ℓ)	2回	一年生雑草 【非選択性】	
プリグロックスL	雑草生育期(草丈30cm以下) 畦間処理 (但し収穫3日前まで)	薬量600～1,000㎖ (希釈水量100～150ℓ)	4回以内	一年生雑草 【非選択性】	

※大豆バサグラン液剤は、エノキグサ、アカザ、シロザ、イヌビエ、ホソアオゲイトウには効果が劣りますので、これらが優占する圃場では使用を避けて下さい。
※大豆バサグラン液剤はポルトフロアブルと混用できますが、ナブ乳剤との混用は双方の効果が低下するので避けて下さい。

◆病害虫防除

（1）粉剤防除

	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a当たり 使用量	対象病害虫名	使用回数
1回目	【里のほほえみ】 開花終期	7/25 ～ 30	Zボルドー粉剤DL [—]	3kg	紫斑病、(葉焼病)	—
			スミチオン粉剤3DL [収穫21日前まで]	4kg	カメムシ類、マメシンクイガ	４回以内
2回目	【品種共通】 子実肥大初期 (開花後25日頃)	8/8 ～ 12	スミチオンベルクート粉剤DL [収穫21日前まで]	3kg	紫斑病、カメムシ類、 マメシンクイガ	４回以内
3回目	【品種共通】 子実肥大後期 (開花後45日頃)	8/27 ～ 31	トレボン粉剤DL [収穫14日前まで]	4kg	ハスモンヨトウ、マメシンクイガ、 シロイチモジマダラメイガ、 フタスジヒメハムシ、カメムシ類	２回以内
随時		ウコンノメイガ 初発時	ダントツH粉剤DL [収穫7日前まで]	4kg	ウコンノメイガ	２回以内
随時	子実肥大 後期以降	カメムシ類 多発時	MR.ジョーカー粉剤DL [収穫7日前まで]	4kg	カメムシ類	２回以内

（2）液剤防除

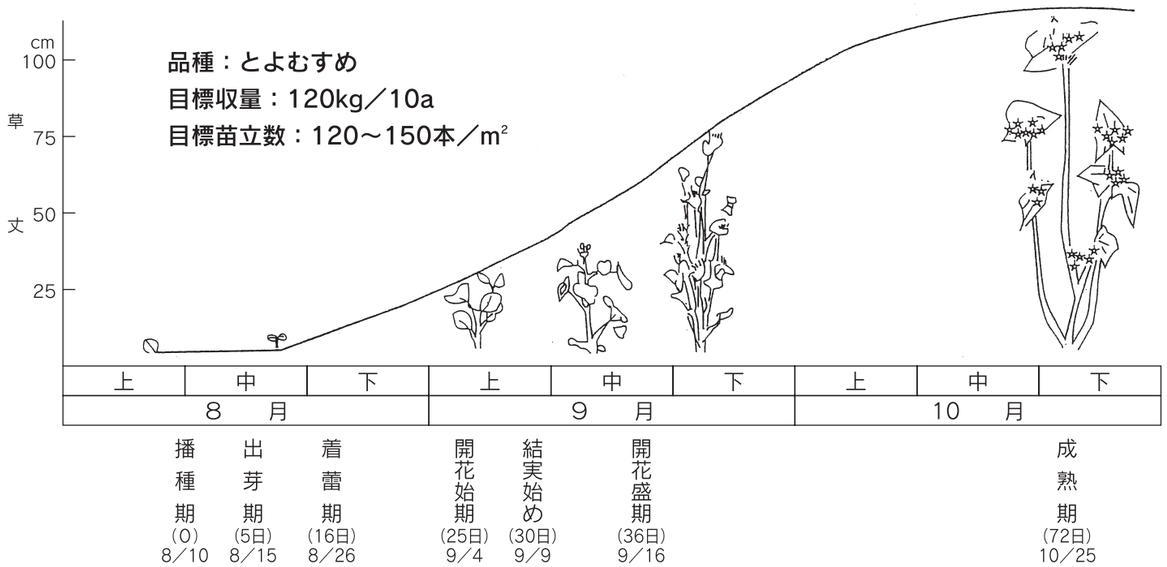
	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名 [収穫前日数]	10a当たり 希釈倍数	対象病害虫名	使用回数
1回目	【里のほほえみ】 開花終期	7/25 ～ 30	混用 Zボルドー水和剤 カスケード乳剤 [収穫7日前まで]	500倍 4,000倍	紫斑病、葉焼病、斑点細菌病 ハスモンヨトウ、ウコンノメイガ、 カメムシ類	— ２回以内
2回目	【品種共通】 子実肥大初期 (開花後25日頃)	8/8 ～ 12	アミスタートレボンSE [収穫14日前まで]	1,000倍	紫斑病、カメムシ類	２回以内
3回目	【品種共通】 子実肥大後期 (開花後45日頃)	8/27 ～ 31	スタークル液剤10 [収穫7日前まで]	1,000倍	カメムシ類	２回以内
随時		ウコンノメイガ 初発時	プレバソンフロアブル5 [収穫7日前まで]	4,000倍	ウコンノメイガ	２回以内
随時		ハダニ 初発時	ニッソラン水和剤 [収穫7日前まで]	2,000倍 ～ 3,000倍	ハダニ類	２回以内
随時	子実肥大 後期以降	カメムシ類 多発時	トレボン乳剤 [収穫14日前まで]	1,000倍	カメムシ類、ハスモンヨトウ、 マメシンクイガ、 フタスジヒメハムシ他	２回以内

秋そば栽培ごよみ

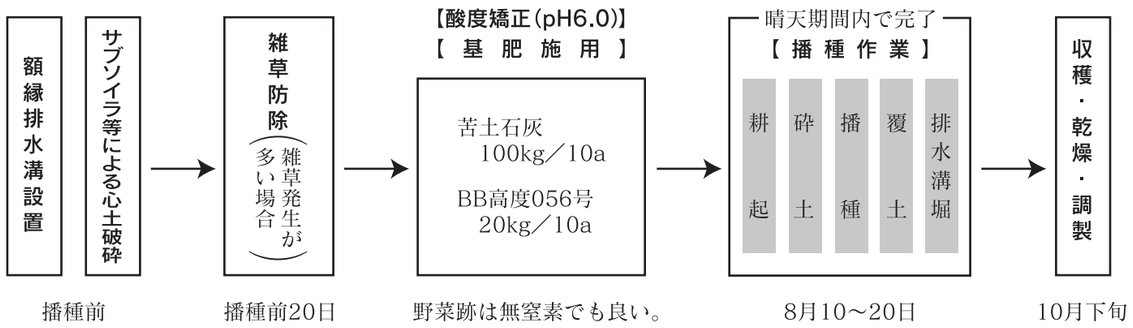
排水対策を徹底しよう！

額縁排水溝とほ場内排水溝の組み合わせにより、地表面に水がたまらないように。

① 湿害にきわめて弱く、ほ場の排水状態が出芽やその後の生育、収量に大きく影響する。
② そばの茎は中空でもろく、他の作物に比べ倒伏しやすい。特に開花期間の倒伏は、稔実を著しく悪くし収量は激減する。
③ 穂発芽し易い等の特徴が見られるので、集団で栽培する場合は、危険分散から、段蒔き栽培をする。
④ 連作ほ場では、連作障害により生育不良になったり、立枯れ病の発生が見られるので、連作にならないようにする。



◆作業内容



時期	作業手順・作業内容		注意事項
播種前	排水対策 雑草対策＝播種前に雑草の多い場合 ＝ラウンドアップマックスロード散布 250～500mℓ/10a		・ほ場が乾いている時に額縁排水溝を作る。 ・サブソイラ等による心土破砕を行う。 ・梅雨明け後、事前に耕起し雑草を枯死させる。 ・耕起前又はは種前まで（雑草生育期）
播種期	基肥	苦土石灰　100kg／10a	・そばの適正ｐＨは６.０である。
	基肥	ＢＢ高度０５６号　又は ＢＢエコ０２８号　２０kg/10a 地力のあるほ場では　１０kg/10a	・野菜跡で残存肥料の多いほ場では無窒素でも良い。 ・燐酸、加里の増施は、生育量を確保し、稔実を高める効果がある（ＢＢ高度０５６号）。 ・黒ボク等の火山灰土壌では、燐酸質資材を十分に施用する。
	耕起・砕土・整地 （ロータリ耕）		・出芽を揃えるため、トラクターは低速、ロータリは回転を上げて土を細かくして整地する。 （砕土率は土塊の大きさ２cm以下が60%以上を目標とする）
	播種時期　【８月１０日～２０日中心】		段蒔きは８月３０日までに終わらす。
・晴天期間内に完了	播種法	● 条播　播種量　5kg/10a 条間隔　２５～３０cm 又は 条間隔　６０～７０cm	・播種深さは２～３cmを目安にする。 ・条間隔　６０～７０cmの場合は開花期までに中耕・培土を実施する。（本葉２～４枚頃）
	播種法	● 散播　播種量５～７kg/10a ３～５cm程度の深さにロータリ低速回転で混層する。	・降雨が少なく、乾燥した条件では混層した方が出芽揃いが良い。 ・多雨条件では、表面蒔きの場合が出芽良いことが多い。
	排水溝掘り 周辺部：深さ２０～３０cm ほ場内：深さ２０cm		・ほ場内に３～５ｍに一本の溝を切り、額縁排水溝に連結し、水止尻につなぐ。 ・うね肩の土をならし、うね上に水がたまらないようにする。
８月下旬	雑草対策	イネ科雑草が多い場合、 必要に応じ散布 ナブ乳剤　150～200mℓ/10a 全面散布	・収穫４５日前まで ・散布適期はイネ科雑草５葉期まで
	追肥	硫安　5～10kg/10a	・双葉が出たときに葉色が淡い場合は施肥 ・基肥無施用、生育量が不足の場合も施肥 ・条播で中耕・培土を行う場合は、その前に施肥
10月下旬	収穫・乾燥・調製 そばコンバインで収穫		・コンバイン収穫で、全子実の８０%が褐変したところで収穫する。 ・適期より遅れた場合には脱粒しやすい（早朝か曇天の日に収穫する）。

大麦栽培ごよみ（収量目標400kg／10a）

大麦栽培の3大ポイント

① 排水対策の徹底　② pH矯正と適正な施肥　③ 適期播種

収量構成目標（ファイバースノウ）

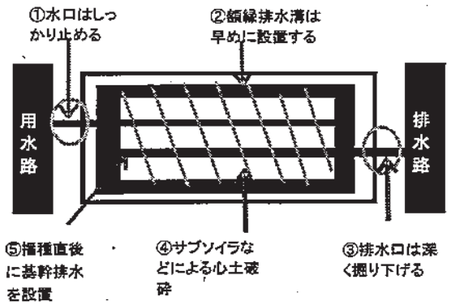
①㎡当たり穂数	400本
②一穂着粒数	42粒
③登熟歩合	70%
④千粒重	35g

月	9月	10月			11月			12月				1月～2月	3月			4月			5月			6月	
旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬
生育ステージ				出芽・苗立	分げつ期							生育停滞期	幼穂形成期					出穂期	登熟期			成熟期	
				目標苗立数 150～180本／㎡				越冬前目標茎数 500～600本／㎡						最高分げつ期目標茎数 650～750本／㎡								目標穂数 400本／㎡	
主な作業	排水対		播種				排水溝の手直し					融雪水排除	追肥 消雪期		追肥 止葉展開期			1回目	2回目			収穫	
	土づくり		播種適期 10月10日～25日																				

＜排水対策＞

・明きょは額縁排水溝に加え縦方向に数本排水溝を設置する。

・圃場内に水が溜まりにくくするため、サブソイラーによる心土破砕を行う。



＜土づくり＞

・土壌pHを6．0～6．5に矯正

資材名	10a当たり施用量
苦土石灰又はBB転作エース又はカキ鉄エース	100kg

＜基　肥＞

・耕起前又は播種時に施用する。

肥料名	10a当たり施用量
BB大麦一発くんN35	40kg

＜追　肥＞

・生育状況に応じて施用

施用時期	肥料名	10a当たり施用量
消雪期（3月上～中旬）	BBNK17号	6～9kg
止葉展開期（3月下旬～4月初旬）		6kg

＜雑草対策＞

・播種後土壌処理（覆土をしない場合は使用しない。

除草剤名	使用量	希釈水量	対象雑草	備考
リベレータG（細粒剤）	4kg	—	一年生雑草	播種後から出芽前までの間（約1週間）に必ず散布を行う。
リベレータフロアブル	60ml	100L		
クリアターン細粒剤F	4～5kg	—	一年生雑草	
クリアターン乳剤	500～700ml	100L		

・大麦生育期処理

薬剤名	使用量	使用時期	適用雑草	使用回数
ハーモニー75DF水和剤	10g/10a（希釈水量100L）	節間伸長前（11～3月上旬頃）まで	一年生広葉雑草、ｽｽﾞﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ（ｽｽﾞﾒﾉﾃｯﾎﾟｳ5葉期まで）	1回
アクチノール乳剤	200ml/10a（希釈水量100L）	穂ばらみ期（11～3月中旬頃）まで	畑地一年生広葉雑草（雑草生育初期）	2回以内

＜病害虫防除＞

赤かび防除は必ず2回実施して下さい。

防除時期	薬剤名	10a当たり使用量	使用回数	対象病害
第1回 出穂後3～5日（穂揃期）	トップジンM粉剤DL（粉剤体系）	4kg	出穂期以降は1回以内	赤かび病
	トップジンMゾル（液剤体系）※無人ヘリ対応可能薬剤	薬剤 67ml 1,500倍希釈（水 100L）		
第2回 1回目散布の1週間後	ワークアップ粉剤DL（粉剤体系）	3kg	2回以内	
	チルト乳剤25（液剤体系）※無人ヘリ対応可能薬剤	薬剤 67ml 1,500倍希釈（水 100L）	1回	

〈空散防除〉

防除時期	薬剤名	10a当たり使用量	使用回数	対象病害
第1回 出穂後3～5日（穂揃期）	トップジンMゾル（液剤体系）※無人ヘリ対応可能薬剤	薬剤 0.8L 8倍希釈（水 6.4L）	出穂期以降は1回以内	赤かび病
第2回 1回目散布の1週間後	ワークアップフロアブル（液剤体系）※無人ヘリ対応可能薬剤	薬剤 0.05L 16倍希釈（水 0.75L）	2回以内	

＜播種時期と播種量＞

・播種時期　10月10日～20日　※適期に遅れる場合は、播種量を1kg程度増やす。

・種子消毒

薬剤名	使用量	使用時期	使用回数
ベンレートTコート	乾燥種子量の0．5%粉衣（7kg当たり35g）	は種当日	1回

・播種量

播種量	条　間	1m当たりの種子繰り出し量
7kg/10a	30cm	2．1g
	28cm	2．0g
	26cm	1．8g

駆動輪の直径：35cmの場合
0.35 × 3.14 ×5 回転＝5.50m
落下種子量÷5.50m ＝1m当たり種子量

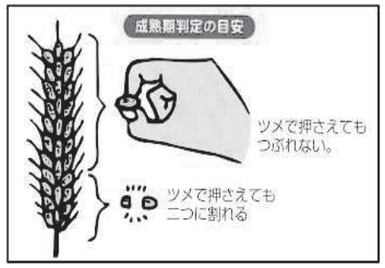
※種子量2.1gは、約60粒となります。

＜収　穫＞

成熟期の目安

・穂や茎葉が完全に黄化している。（青味が全く残っていない）

・子実の硬さは、ろう状で大部分は爪で押さえてもつぶれない。



穀粒水分で判断

・収穫適期の穀粒水分は25～20%を目安とする。早刈りは、空洞粒の原因となります。

※刈取り・共乾施設への搬入について

・コンバインは使用前後の掃除を徹底し、異種穀粒の混入防止に努める。

・収穫した穀粒は、2時間以内に共乾施設へ速やかに搬入する。

・カラスノエンドウが圃場内に侵入している場合は、必ず除去してから刈取りしてください。

スマート農業への一歩 ～その１～

Z-GIS®

圃場管理はデータの時代
全農営農管理システム

エクセルとの連携で圃場管理を効率化するクラウド型の営農管理システム

圃場管理の課題と電子化による効率化

新たな農業の時代が始まっています。全農の営農管理システム Z-GIS® は、圃場情報をインターネットの電子地図と関連付けることで、効率的な営農管理を実現するシステムです。

特 徴

1 Excel®連携
圃場の位置情報（緯度・経度データ）と Excel® データを紐付けて管理します。圃場毎の作付計画や作業内容等、管理したい項目を Excel® で簡単に追加・記録できます。

2 データの視覚化
記録した情報は地図上にわかりやすく「見える化」できます。

3 共有できる
データをクラウド上に保管することで複数名で共有できます。

4 高解像度地図
高解像度の航空写真を使用し見やすい地図を提供しています。

ご利用方法

1年間 100圃場で2,640円（税込）

ひと月あたり220円（税込）！

費用を抑えて圃場管理ができます！
＊2000圃場以上は、52,800円（税込）定額です。

ご利用までの手続きも簡単！

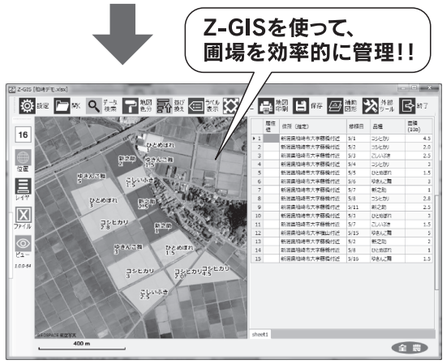
有料版

＊会員様には、スマートホン、タブレット等の端末アプリは App Store（iPhone/iPad向け）・Google Play（Android向け）より無償提供しています。

〈Z-GIS® のホームページにリンクがございます〉
下記 URL の「Z-GIS® オンライン利用申し込み」にアクセスして、必要事項をご記入の上、お申し込みください。
受け付け完了後 ID・パスワードを発行いたします。

お試し版

まずは31日間無料のお試し版をご利用ください。
（※一度だけ登録可能です）



＊Excel® は Microsoft 社の登録商標です。
＊App Store®、iPhone®、iPad® は Apple 社の登録商標です。
＊Google Play® および Android® は Google 社の登録商標です。
＊Z-GIS® は、JA 全農の登録商標です。

https://z-gis.net/99/

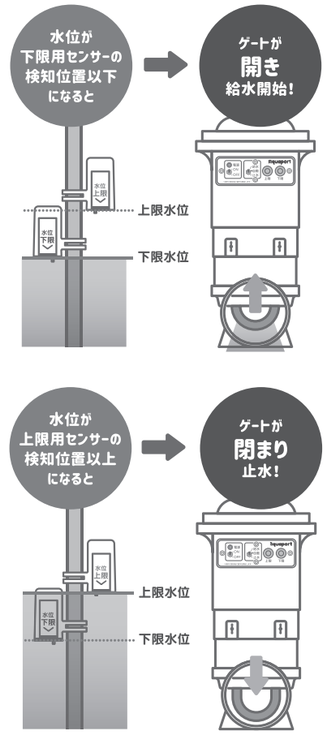
お問い合わせは　電話またはメールで…
JA全農 耕種総合対策部 スマート農業推進課
TEL：03-6271-8274　FAX：03-5218-2535
E-mail：zz_zk_smart@zennoh.or.jp

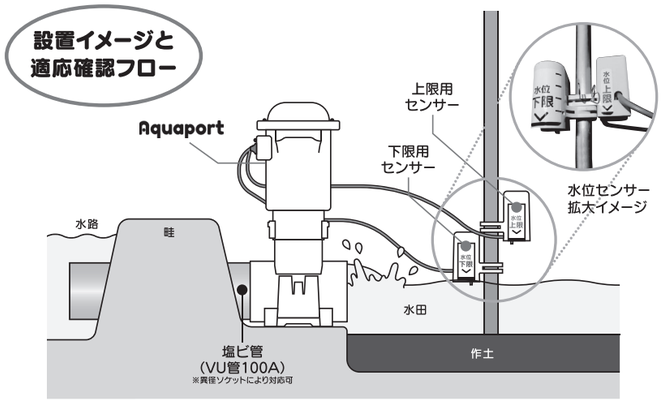
スマート農業への一歩 ～その２～

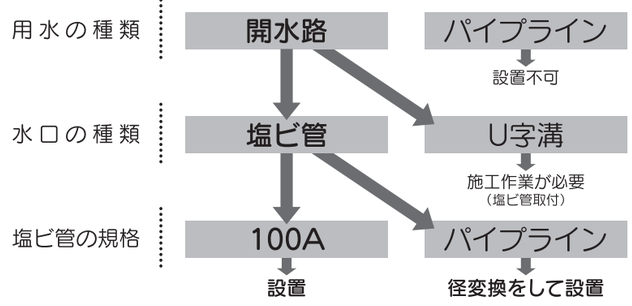
水田水管理の省力化提案

現場目線で考え”手頃さ”と”手軽さ”にとことんこだわりました

Point1	Point2	Point3	Point4
機能を絞り低価格を実現	工事不要で手軽に設置	シンプルな構造×素材の工夫で安心の給水・止水性能	防水×電池駆動で安定動作







ドローンの活用をお考えの農業者のみなさまへ

ドローンで農薬散布を行うために

安全確保のために

関係する法律

航空法

～航空機の航行や人・物件等の安全を確保するために～

- ドローンによる農薬散布は、**国土交通大臣の承認が必要**となる飛行形態「危険物輸送」「物件投下」に該当します。

➡ **必ず事前に承認**を得て下さい。

農薬取締法

～農薬の安全かつ適正な使用のために～

- 農薬ラベルに記載されている**使用方法を遵守**し、農薬のドリフトが起こらないよう注意することが必要です。

➡ **「空中散布ガイドライン」**を確認し、散布計画を立てて下さい。

※「空中散布ガイドライン」に関する情報の詳細はこちらをご覧下さい
http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/boujyo/120507_heri_mujin.html

飛行の承認申請方法

申請先　飛行予定場所を管轄する**空港事務所**または**地方航空局**（オンライン申請 / 郵送 / 持参）

申請期限　飛行開始予定日の**10開庁日前**までに申請
（必ず10日以内に承認されるわけではありません。余裕を持って申請してください。）

提出物　申請書、機体・飛行させる者・体制について安全確保のための基準に適合していることを示す書類・資料

その他
- 個々人による申請だけでなく、機体メーカーや販売代理店等による**代行申請も可能**です。
- 最大１年間までの包括申請が可能です。

※ その他詳細については、国土交通省HP「無人航空機（ドローン・ラジコン機等）の飛行ルール」をご覧下さい。また、裏面のよくある質問もご覧下さい。
http://www.mlit.go.jp/koku/koku_tk10_000003.html

実際に散布を行う際に

- 承認を得た際の要件・体制に即して、飛行させて下さい。
- 散布方法（飛行高度等）は機体の取扱説明書に即してください。取扱説明書に記載がない場合はガイドラインに記載の方法により散布して下さい。

！事故等が発生した場合は！

機体事故・紛失等
➡ 地方航空局へ報告

農薬の流出・ドリフト等
➡ 都道府県の農薬指導部局へ報告

ドローンによる基幹防除体系…使用する農薬は、空中散布の可否と使用倍率を確認！

【水稲】

水稲	生育ステージ【作型・品種】	使用時期の目安	使用薬剤名［収穫前日数］	10a使用液量／倍率	対象病害虫	使用回数
1回目	***出穂期***【早生】【中生】【晩生】	7/20～24 7/30～8/3 8/6～10	混）ビームエイトスタークルゾル［収穫7日前まで］	0.8ℓ／8倍	いもち病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	3回以内
			混）バリダシンエアー（随時）［収穫14日前まで］	0.8ℓ／8倍	紋枯病	5回以内
2回目	***出穂7～10日後***【早生】【中生】【晩生】	7/28～8/2 8/7～12 8/14～19	ビームエイトスタークルゾル［収穫7日前まで］	0.8ℓ／8倍	いもち病、カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	3回以内
随時	カメムシ類多発時	8/中旬	スタークル液剤10［収穫7日前まで］	0.8ℓ／8倍	カメムシ類、ウンカ類	3回以内
随時	コブノメイガ カメムシ類多発時	8/中旬	MR.ジョーカーEW［収穫14日前まで］	0.8ℓ／16倍	コブノメイガ、ツマグロヨコバイ、カメムシ類、ウンカ類	2回以内

【大豆】

大豆	【品種】生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名［収穫前日数］	10a使用液量／倍率	対象病害虫	使用回数
1回目	【里のほほえみ】***開花終期***【エンレイ】***幼莢期***（開花後15日頃）	7/25～30	混）アミスター20フロアブル［収穫7日前まで］	0.8ℓ 16～24倍	紫斑病	2回以内
		7/30～8/3	混）カスケード乳剤［収穫7日前まで］	0.8ℓ 32倍	カメムシ類、ハスモンヨトウ、ウコンノメイガ、ハダニ類	2回以内
2回目	【品種共通】***子実肥大初期***（開花後25日頃）	8/8～12	トレボンエアー［収穫14日前まで］	0.8ℓ／8倍	ハスモンヨトウ、カメムシ類	2回以内
3回目	【品種共通】***子実肥大後期***（開花後45日頃）	8/27～31	スタークル液剤10［収穫7日前まで］	0.8ℓ／8倍	カメムシ類	2回以内
随時	ウコンノメイガ初発時	7/下～8/上	プレバソンフロアブル5［収穫7日前まで］	0.8ℓ 16～32倍	ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、マメシンクイガ	2回以内
随時	ヨトウ、カメムシ類多発時	8/下～	トレボンエアー［収穫14日前まで］	0.8ℓ／8倍	ハスモンヨトウ、カメムシ類	2回以内

【大麦】

大麦	生育ステージ	使用時期の目安	使用薬剤名［収穫前日数］	10a使用液量／倍率	対象病害虫	使用回数
1回目	出穂後3～5日（穂揃期）	4/中	トップジンMゾル［収穫21日前まで］	0.8ℓ／8倍	赤かび病	1回以内
2回目	1回目散布の1週間後	4/中～下	ワークアップフロアブル［収穫21日前まで］	0.8ℓ／10倍	赤かび病	1回

高密度播種育苗田植特集

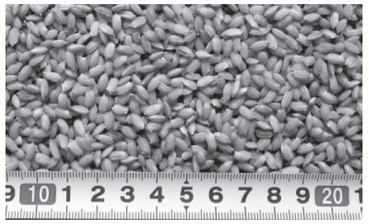
「高密度播種育苗田植え」は、育苗箱数を低減して春作業を軽減させる技術の一つであり、品質向上や増収技術ではありません。
箱当たりの乾籾播種量が250～300gと多く、これらに対応した播種機及び田植機が必要（改良含め）で、慣行の稚苗育苗とは苗の育苗期間や田植精度が異なるので、技術を十分理解して取り組む必要があります。

ポイント①　播種・育苗

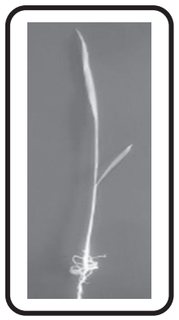
育苗日数の目安が15～20日と短いため、田植作業計画を立て、播種時期を決めましょう

●**播種量　250～300g ／箱当たり**

播種量を多くするため床土量は少なくなる
籾の密度が高いため、生育停滞や老化苗になりやすい



300g播き



【密苗２葉　慣行2.5～３葉】

●**草丈10～15cm、葉齢2.0～2.3で田植え**
●**育苗日数の目安　15～20日**

ポイント②　田植え

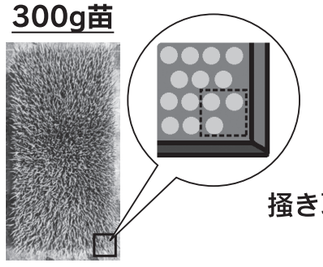
●**1株の植付本数　3～4本**

必ず移植作業前に、中立状態で苗を掻きとって苗取量レバーを調整し、掻き取り本数を確認する。植付本数が多くなると、株内の競合により、茎が細くなり、不揃いな生育になりやすく、倒伏する危険も増します！

●田植え時期は、気象が温暖で安定する5月中旬から下旬が望ましい
（田植後に寒冷で強風が続く年は、大きな減収となるリスクがあります）
●浮き苗や転び苗、欠株を防止するため、田植時は、適切な土壌硬度と水深で行う
●高密度播種育苗田植に対応したパーツ、田植機を使用する
●病害虫防除の箱処理剤は、薬量低下を防ぐため移植同時側条施薬機を使用し、10aあたり1kgを施用する（Dr.オリゼフェルテラ粒剤）
※側条施薬機は2018年9月に発売となりました。詳細はJAまでお問合せください。

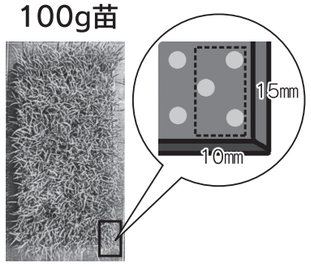
苗の掻き取りサイズ

300g苗



1回の
掻き取り面積
0.5cm²

100g苗



1回の
掻き取り面積
1.5cm²

ポイント③　育苗箱使用枚数

【注意】「1箱あたり50g施用」となっている病害虫防除の箱処理剤は、側条施薬機を使用しない場合、10aあたり薬量が大きく減少するため、本田での病害虫発生状況に細心の注意を払ってください。

専用田植機を使用した場合の
使用箱枚数の目安

播種様式	栽植密度（坪当たり）	播種量（箱当たり）	使用箱数（10a当たり）
高密度播種	50～60株	250～300g	5～7箱
慣行（稚苗）	50～60株	120g	15～18箱

水稲育苗の厚播きによる影響

注意

250gに満たない安易な「厚播き苗」は、根張りが悪い、徒長苗になりやすく、太植えによる過剰分げつ、高次分げつの発生により品質低下の恐れがあります！

デメリット①
「苗のマット化不足」
厚播きの苗を通常の田植機で移植した場合、マット形成が弱く、欠株が多くなる恐れがある。

デメリット②
「苗の徒長と老化苗の発生」
育苗日数を長くすると、老化苗を植付けすることになり、植え傷みや分げつの発生の遅れによる穂数不足、過剰分げつによる減収、品質低下に繋がる恐れがあります。

安定した収量・品質を確保するには、
120g播きが基本！

「薄播き・細植え」は、
うまい・きれい石川米づくり運動の基本推進技術です！

稲作作業省力化を目指して！

ＪＡが提案する今後の稲作省力体系

ＪＡ白山では、生産者の高齢化や担い手への農地集約が進むなか、省力技術の普及に取り組んでいきます。この営農のてびきでは、その中から取り組みやすい省力技術を、３つご提案いたします。

1 施肥の省力化 …追加穂肥・中間追肥のいらない一発肥料！

2 水稲除草の省力化 …動散を背負わずにすむ水稲除草剤！

3 畦畔除草の省力化 …作業回数が減らせる畦畔除草体系！

1 施肥の省力化

追加穂肥のいらないコシー発くん！

- 現在追加穂肥を施用している方
- 追加穂肥は労力的にできない方
- 生育後半の肥効切れに悩んでいる方に

BBコシー発くんDX24

成分（N－P－K）

24－14－10

特徴

「コシー発くん１号」に、窒素成分を穂肥分だけで４％増量しています。

28年産コシヒカリ試験結果　（慣行区は追加穂肥なし）

肥料名	収量（10a）
コシー発くんDX24	591
コシー発くん１号	572

本品目は、現在指導している追加穂肥分をあらかじめ含めた設計としています。追加穂肥を施用できていない場合は「省力増収」に、施用している場合は「省力」に貢献します。

ただし、投入PK分が低下することから、使用にあたってはより一層土づくりの徹底を図るようにしてください。

中間追肥のいらないコシー発くん！

- 動散が重くて中間追肥を散布できない方
- 乳心白粒の多発に悩んでいる方に
- （飯米等の）食味向上を図りたい方

BBけい酸アップ・コシー発くん

N-P-K-苦土-ケイ酸

15-15-10-1-12

特徴

けい酸加里を配合し、中間追肥を省略することができます。

26年産コシヒカリ試験結果　※Kett分析機による

肥料名	乳白	蛋白	評価値
けい酸アップ・コシー発くん	6.7	6.1	72.0
コシー発くん１号	9.5	6.6	69.5

本品目は、中間追肥をあらかじめ含めた設計としています。中間追肥を施用できていない場合は「省力・品質食味向上に」、施用している場合は「省力」に貢献します。

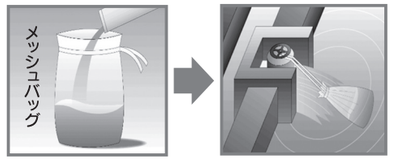
なお、設計上窒素成分が低くなっているため、施用量が増えます（「コシー発くん1号」で45kg施用している場合は60kg）。全量一発施用が困難な場合は、「全層20kg+側条40kg」の方法もあります。

2 水稲除草の省力化

雑草を増やさないための効果的な除草体系として、「初期剤（ソルネット）＋一発剤（シリウスエグザ等）」の体系が有効です。その際の一発剤に、下記の剤型を採用することで、動力散布機を背負うことなく、省力作業が可能になります。

注目！ 顆粒流込み剤

特徴
- 入水時に水口から流し込むだけ
- 水口で溶けて入水と一緒に広がるため拡がり均一にやすい
- 藻が多少発生していても下をくぐって拡がる



注目！ 豆つぶ剤

特徴
- 湛水後に畦からパラパラまくだけ
- 手やひしゃく等、まき方いろいろ
- 拡がる様子が目に見えて安心

ジャンボ剤

特徴
- 湛水後に畦からポイポイ投げ込むだけ

フロアブル剤

特徴
- 湛水後に畦から、手で持って振り撒くだけ（水口流込み登録がある剤もある）

新登場！ FG剤

特徴
- 湛水後、風上のアゼ１辺から撒くだけ
- 自己拡散するため、水中で成分が圃場全体にしっかり拡がります。
- ドローン散布は最短24秒/10aで短時間散布（散布器具付きです）

3 畦畔除草の省力化

畦畔除草は斑点米カメムシ類対策の基本ですが、対策に効果的な体系は「① 田植え前」「② ６月頃」「③ 7月上旬仕上げ」「(④ 稲刈り前後)」と重労働であり、他の重要な作業との競合も稲作における大きな課題です。そこで、「**C－DB除草体系**」を導入することが有効です。

「C－DB除草」とは 〈 C カソロン → D ダイロンゾル ＋ B バスタ 〉
① 根雪前1回、② 6月頃処理の年2回で、カメムシの棲めないキレイな畦畔を維持する体系

慣行体系

「年３～４回」の作業が必要

4月	5月	6月	7月	8月
除草		除草	除草	除草

C－DB体系

「年２回」に省略可能

根雪前	4月	5月	6月	7月	8月
カソロン粒剤6.7	長期	省略 除草	抑草	ダイロンゾル＋バスタ	除草＋抑草

体系の詳細は後ろのチラシをご確認ください。

なおラウンドアップ等に効きにくくなったオオアレチノギクが増えている場合は、生態と剤の特性によりカソロン剤自体で本雑草を減らすことが難しいため、対策ページ（P.66）を参照してください。

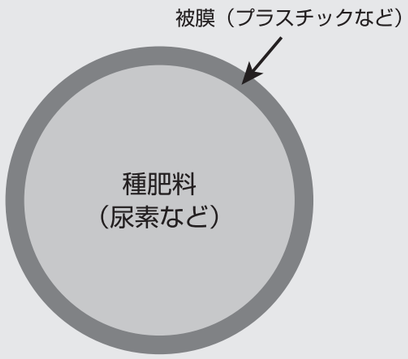
一発肥料 使った後も気配りを！

被覆肥料の殻を水田から流さないために

被覆肥料とは？

被覆肥料とは、尿素などをプラスチックなどの被膜でコーティングしたもので、速効性肥料と組み合わせて、BB肥料等多くの一発肥料で使われており、施肥回数減による軽労化、肥効率の向上、養分の流失防止につながるなどの優れた特長を持っています。

被覆肥料では、成分の溶出を高度にコントロールしながら、環境にも配慮するため、コーティング樹脂が光や微生物の働きにより土壌中に分解・崩壊しやすくなるよう各メーカーが工夫していますが、分解には一定期間要することから田面水に分解されていない被覆肥料の殻が含まれている可能性があります。水田から被覆肥料の殻を流さないためにも下記の３つのポイントをしっかり守り、自然環境へ配慮しましょう。

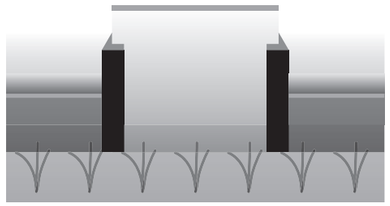


被覆肥料の構造

水田から被覆肥料の殻を流さないための３つのポイント

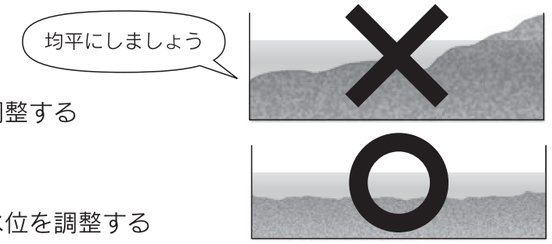
POINT 1　畦畔管理

・あぜ塗りの徹底やあぜシートを設置する
・水尻周辺を丁寧に踏み固める
・止水板はあぜより高くする



POINT 2　代かき

・入水時までに田面の高低差をなくす
・代かきは浅水で行う
・強制排水ではなく、自然落水で水位を調整する



POINT 3　田植え

・田植え前の落水は行わず、自然落水で水位を調整する

肥料銘柄一覧表

品名	成分（%）	有機質含量（%）	容量（kg）	荷姿	備考
（単肥）					
硫安	N 21	－	20	ポリ	白色結晶，速効性
尿素（輸入）	N 46	－	〃	〃	白色結晶粒状，速効性
塩安	N 25	－	〃	〃	白色結晶粗粒状，速効性
石灰窒素（粒）	N 20	－	〃	〃	灰黒色，緩効性
過石（粒）	P 17.5	－	〃	〃	灰白色，速効性
熔燐（砂）	P 20，Mg 15，Si 20	－	〃	〃	淡緑色粗粒状，緩効性
熔燐（粒）	P 20，Mg 12，Si 20	－	〃	〃	〃
腐植りん	P 15，Mg 8（腐植酸35）	－	〃	〃	茶黒色顆粒状，速効性，緩効性
苦土重燃燐	P 35，Mg 4.5	－	〃	〃	灰白色粒状，速効性，緩効性
塩加（粒）	K 60.5	－	〃	〃	白色，速効性
硫加	K 50	－	〃	〃	灰白色結晶状，速効性
けい酸加里プレミア	K 20，Si 34，Mg 4，B 0.1	－	〃	〃	灰白色粒状，緩効性
エスアイ加里カリ投げくん	K 33，Si 35	－	4	〃	
（普通化成）	（N－P－K）				
尿素化成日の本２号	12－８－10	－	20	ポリ	水稲，麦，野菜
（有機化成）					
苦土有機入化成特Ａ　801号	８－８－８　Mg３	35	20	ポリ	野菜，果樹
サンフルーツ化成Ｓ　989号	９－８－９　Mg１	45	〃	〃	野菜，果樹
有機アグレット　674号	６－７－４　Mg１	100	〃	〃	水稲
有機アグレット　727号	７－２－７	100	〃	〃	〃
有機アグレット　844号	８－４－４　Mg１	100	〃	〃	〃
有機アグレット　655エコ	６－５－５　Mg１	100	〃	〃	比重0.7±0.02
有機アグレット　825エコ	８－２－５　Mg１	100	〃	〃	比重0.67±0.02
有機ブリケット　038号	10－３－８	82	〃	〃	水稲
ユーキＰＫ	０－10－20　Mg３	100	〃	〃	〃
ＢＭ有機果樹専用	８－７－７　Mg２，Mn 0.4，Ｂ 0.2	50	〃	〃	果樹（梨）
ＢＭ有機１号新号	13－10－12　Mg２，Mn 0.4，Ｂ 0.2	20	〃	〃	
やさい有機Ｓ３号	10－６－７	30	〃	〃	野菜，果樹（菜もの）
やさい有機Ｓ２号	８－７－８	50	〃	〃	野菜，果樹（実もの）
アミノエース	８－５－３	100	〃	〃	

品名	成分(%)	有機質含量(%)	容量(kg)	荷姿	備考
(BB普通)					
BBグッドサポート	K 5, Si 10, Mg 11, B 0.12, Mn 0.28	—	20	ポリ	水稲, 麦, 大豆, 野菜他
BBグリーン1号	6－6－7 Mg 1	90	〃	〃	野菜, 果樹
BM粒状グリーン	6－6－7 Mn 0.3, B 0.15	81	〃	〃	果樹, 野菜
有機特S 90号	6－6－5 Mg 1	90	〃	〃	水稲, 野菜他
(高度化成)					
FTE燐硝安S 604号	16－10－14 Mn 0.4, B 0.2	—	20	ポリ	野菜
IB化成S 1号	10－10－10 Mg 1	—	〃	〃	野菜(基肥)
野菜燐加安540号	15－14－10	—	〃	〃	野菜
MMB燐加安14号 A928号	14－10－13 Mg 3, Mn 0.38, B 0.18	—	〃	〃	〃
硝酸入りS604号	16－10－14	—	〃	〃	〃
(BB高度)					
BB高度056号	10－25－16	—	20	ポリ	水稲, 麦, 大豆(基肥)
BBエコ028号	10－12－8 Mg 2, アルカリ13	—	〃	〃	〃
BB 003－40号	10－20－13	—	〃	〃	水稲
新早生一発くん	24－15－8	—	15	〃	水稲(基肥一発)
早生一発くんDX 28	28－13－9	—	〃	〃	〃
コシ一発くん1号	20－21－13	—	〃	〃	平場(つるぎ, 蝶屋地区)肥料きき 長い
コシ一発くんDX 24	24－14－10	—	〃	〃	水稲(基肥一発)
コシ一発くんNEOα	25－8－10	—	〃	〃	〃
早生一発くんNEO	28－7－9	—	〃	〃	〃
けい酸アップコシ一発くん	15－15－10 Si 12, Mg 1	—	〃	〃	〃
新コシ一発くん	20－17－10	—	〃	〃	〃
スリムコシ一発くん	20－10－10	—	〃	〃	〃
コシ直播一発くん	20－6－6	—	〃	〃	〃
V溝直播一発くん	41－0－0	—	〃	〃	〃
五百万石一発くん	28－13－9	—	〃	〃	〃
PKけい酸09号	0－10－9 Mg 7.5, Si 24, アルカリ13	—	20	〃	水稲(基肥)
BBLP有機060号	20－6－10	30	〃	〃	水稲(追肥)
BBとれるぞう	15－5－10 Mg 3	30	〃	〃	〃
BB有機入追肥いしかわライト550号	15－5－10	20	〃	〃	〃

品名	成分(%)	有機質含量(%)	容量(kg)	荷姿	備考
BB大麦一発N 35	35－5－4	—	15	ポリ	大麦(基肥一発)
BB大豆一発N 25	25－13－13	—	20	〃	大豆(基肥一発)
BB S 604号	16－10－14	—	〃	〃	野菜
BBFTE入り S604号	16－10－14 B 0.2, Mn 0.4	—	〃	〃	〃
BB 422号(100)	14－12－12 Mg 1	—	〃	〃	野菜(基肥)
(BBNK)					
BBNK 17号	17－0－17	—	20	ポリ	水稲, 麦, 野菜
(液肥)					
液肥10号	10－5－8	—	20	缶	野菜, 果樹(追肥)
(固形・配合)					
固形30号(粒)	10－10－10	—	20	ポリ	水稲, 野菜, 果樹
有機S 1番	8－5－6 Mg 1	50	〃	〃	野菜, 果樹
稲10号	10－10－10	—	〃	〃	水稲
(土づくり資材)					
ケイカル(砂)	アルカリ45, Si 30, Mg 4	—	20	ポリ	
ケイカル(粒)	アルカリ40, Si 30, Mg 5	—	〃	〃	
ようりんケイカル(砂)	P 5, アルカリ48, Si 28, Mg 7	—	〃	〃	
ようりんケイカル(粒)	P 5, アルカリ45, Si 25, Mg 7	—	〃	〃	
白山大地	腐植酸5, P 3, Si 20, Mg 4, Mn 0.8, アルカリ37	—	〃	〃	
転作エース	アルカリ48, Si 25, Mg 3.5	—	〃	〃	
ダイナマイトソイル	アルカリ42, Si 25, Mg 2, Mn 0.5	—	〃	〃	
スーパーけい酸	P 3, アルカリ44, Si 26, Mg 6	—	〃	〃	
ひゃくまん馬力	P 2, アルカリ26, Si 20, Mg 4, B 0.05, Mn 0.3	—	〃	〃	含有成分：Fe 2.4, Cu 0.06, Zn 0.015, S微量
(石灰類)					
消石灰(粉)	アルカリ70	—	20	紙	畑作
クリーンライム(消石灰類粒)	アルカリ72	—	〃	ポリ	〃
生石灰(粒)	アルカリ90	—	25	〃	〃
苦土生石灰(粉)	アルカリ100, Mg 30	—	20	〃	
苦土石灰(粉)	アルカリ55, Mg 15	—	〃	紙	
〃(粒)	アルカリ55, Mg 15	—	〃	〃	
硫酸マグネシウム	WMg 25	—	〃	ポリ	水稲, 麦, 野菜, 果樹
セルカ(粉)	アルカリ46	—	〃	〃	カキ殻肥料

品名	成分(%)	有機質含量(%)	容量(kg)	荷姿	備考
貝化石(粉)	アルカリ40	―	20	ポリ	野菜，果樹，茶
(雑肥料)					
FTE(2kg×12)	CMn 19，CB 9	―	24	ポリ	水稲，麦，野菜，果樹
くみあい樹皮堆肥	バーク堆肥(粗目)	―	20	〃	野菜，果樹(本圃)
与作V1号	園芸バーミュキュライト材	―	15	〃	野菜，果樹(苗床)
ともだち643号	6－4－3	100	〃	〃	〃
ソイルパワー	牛ふん堆肥	―	10	ポリ	水稲，野菜，果樹，花卉(本圃)
スーパーソイル	濃縮堆肥	―	20	〃	水稲，麦，野菜，果樹
ピートモス	カナダ産水ゴケ泥炭	―	24	〃	花木の新植，育苗床土のPH調整
サンドセット10kg	床土PH調整剤	―	10	〃	育苗床土のPH調整
(有機質)					
菜種油粕	5－2－1	―	20	紙	すべての作物
ナタネペレット	5－2－1	―	〃	〃	
醗酵鶏糞(粒)	4－4－2	―	15	ポリ	すべての作物
牛ちゃんパワー	―	―	20	〃	発酵牛ふん堆肥
とん骨ペレ	N 3, P 17	100	15	〃	骨粉代替
有機入りOKボーン	N 3, P 20	20	20	〃	〃
魚粕粉末	N 7, P 7	―	〃	〃	すべての作物
(園芸床土)					
園芸床土1号	葉菜用	―	20	ポリ	
〃 2号	果菜用	―	〃	〃	
(水稲育苗マット)					
万作さん	1.5－1.0－1.5	―	25枚入	箱	ロックウール製

農薬の使用基準一覧

注意事項
※掲載されている農薬の使用基準は、令和2年10月末現在のものです。
※農薬の使用にあたっては、容器等のラベルを確認の上、使用して下さい。
※薬量・希釈水量については、単位の記載がないものは、10a当りの使用量となります

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	希釈倍数	使用時期	使用方法
殺菌	テクリードCフロアブル	1回	ｲﾌﾟﾛﾅｿﾞｰﾙ:1回、銅:制限なし	いもち病、褐条病、ごま葉枯病、苗立枯細菌病、苗立枯病(ﾘｿﾞｰﾌﾟｽ菌)、苗立枯病(ﾄﾘｺﾃﾞﾙﾏ菌)、ばか苗病、もみ枯細菌病	200倍	浸種前	24時間種子浸漬
殺菌	ダコレート水和剤	1回	ﾍﾞﾉﾐﾙ:2回(種子への処理は1回)、TPN:2回	いもち病(苗いもち)	400倍	播種時	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り0.5Lを灌注
		2回	ﾍﾞﾉﾐﾙ:2回(種子への処理は1回)、TPN:2回	苗立枯病(ﾄﾘｺﾃﾞﾙﾏ菌)、苗立枯病(ﾘｿﾞｰﾌﾟｽ菌)、苗立枯病(ﾌｻﾞﾘｳﾑ菌)	400～600倍	播種時から緑化期ただし播種14日後まで	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り0.5Lを灌注
					800～1,200倍		育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り1Lを灌注
殺菌	タチガレエースM液剤	1回	ﾋﾄﾞﾛｷｼｲｿｷｻｿﾞｰﾙ3回以内(移植前の土壌混和は1回以内、移植前の土壌灌注は2回以内)、ﾒﾀﾗｷｼﾙM:4回以内(移植前の土壌混和は1回以内、育苗箱への灌注は1回以内、本田では2回以内)	ﾑﾚ苗防止、移植時の活着促進、根の生育促進、苗立枯病(ﾋﾟｼｳﾑ菌、ﾌｻﾞﾘｳﾑ菌)	500～1,000倍	播種時又は発芽後	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液500mlを土壌灌注する。
					1,000倍	播種時	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液1Lを土壌灌注する。
殺菌	タチガレン液剤	2回	ﾋﾄﾞﾛｷｼｲｿｷｻｿﾞｰﾙ3回以内(移植前の土壌混和は1回以内、移植前の土壌灌注は2回以内)	苗立枯病(ピシウム菌)、苗立枯病(フザリウム菌)、根の生育促進、移植時の発根及び活着促進、ムレ苗防止	500～1,000倍	播種時及び発芽後	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液500mlを土壌灌注する。
		1回		ごま葉枯病	500倍	播種時	
		1回		ごま葉枯病	1000倍	播種時	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り希釈液1Lを土壌灌注する。
		2回		苗立枯病(ピシウム菌)、苗立枯病(フザリウム菌)、根の生育促進、移植時の発根及び活着促進、ムレ苗防止	1000倍	播種時及び発芽後	
農業用資材消毒	イチバン	―	ﾍﾞﾝﾁｱｿﾞｰﾙ	育苗箱(木箱、プラスチック箱)、育苗用ポット、支柱など	水150L当たり150～300ml使用	―	瞬時浸漬又は散布
殺菌	ルーチンシードFS	1回	ｲｿﾁｱﾆﾙ3回以内(但し、直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	いもち病	乾燥種もみ1kg当り原液6～12ml(原液71ml/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)
						は種前(浸種後)	ｺｰﾃｨﾝｸﾞ中又はｺｰﾃｨﾝｸﾞ後の種もみに塗沫処理
殺虫	ヨーバルシードFS	1回	ﾃﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ:1回	ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ ﾆｶﾒｲﾁｭｳ ｲﾈﾂﾄﾑｼ	乾燥種もみ1kg当り原液11ml(原液55ml/10aまで)	は種前(浸種前)	塗沫処理(種子被覆剤を加用)
						は種前(浸種後)	ｺｰﾃｨﾝｸﾞ中又はｺｰﾃｨﾝｸﾞ後の種もみに塗沫処理

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	使用時期	使用方法
箱施薬	Dr. オリゼリディア粒剤	1回	フルピリミン:3回（移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内）、ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ:2回（移植時までの処理は1回以内）	いもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネヒエハモグリバエ、イネカラバエ、フタオビコヤガ、イナゴ類	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50g	移植3日前～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
稲（土中施用）				いもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ	1kg	播種時	播種同時施薬機を用いて土中施用する。
稲（側条施用）				いもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	1kg	移植時	側条施用
稲（土中・側条施用）	Dr. オリゼフェルテラ粒剤	1回	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ：1回 ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ：2回（移植時までの処理は1回以内）	いもち病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ	1kg	播種時	播種同時施薬機を用いて土中施用する。
						移植時	側条施用
箱施薬				コブノメイガ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50g	移植当日	育苗箱の床土に均一に散布する。
				もみ枯細菌病、白葉枯病、内顆褐変病、イネヒメハモグリバエ		移植3日前～移植当日	
				いもち病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、イネツトムシ		緑化期～移植当日	
箱施薬	ファーストオリゼフェルテラ粒剤	1回	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ：1回 ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ：2回（移植時までの処理は1回以内）	いもち病、イネドロオイムシ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50g	播種前	育苗培土に均一に混和する。
				いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ			育苗箱の床土に均一に混和する。
				いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、フタオビコヤガ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ、もみ枯細菌病、白葉枯病、イネヒメハモグリバエ		播種時（覆土前）	育苗箱の床土に均一に散布する。
箱施薬	ファーストオリゼリディア粒剤	1回	ﾌﾙﾋﾟﾘﾐﾝ:3回（移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内）、ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ:2回（移植時までの処理は1回以内）	いもち病、イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50g	播種前	育苗培土に均一に混和する。
						播種時（覆土前）	育苗箱の床土に均一に散布する。
箱施薬	エバーゴルプラス箱粒剤	1回	ｲﾐﾀﾞｸﾛﾌﾟﾘﾄﾞ:3回（移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内）、ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ:1回、ｲｿﾁｱﾆﾙ:3回以内（移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内）、ﾍﾞﾝﾌﾙﾌｪﾝ:1回	疑似紋枯症（褐色紋枯病菌）、疑似紋枯症（赤色菌核病菌）、疑似紋枯症（褐色菌核病菌）、もみ枯細菌病	育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50g	移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
				穂枯れ（ごま葉枯病菌）、白葉枯病、内顆褐変病、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツトムシ、フタオビコヤガ、いもち病、紋枯病		播種時（覆土前）～移植当日	
				ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、イネツトムシ、フタオビコヤガ、いもち病、紋枯病		播種前	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。
				いもち病、白葉枯病、内顆褐変病、穂枯れ（ごま葉枯病菌）、紋枯病、ｳﾝｶ類、ｲﾈﾐｽﾞｿﾞｳﾑｼ、ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ、ｺﾌﾞﾉﾒｲｶﾞ、ﾆｶﾒｲﾁｭｳ、ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ、ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ、ｲﾈﾂﾄﾑｼ	高密度には種する場合は1kg/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50～100g）	移植3日前～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
				疑似紋枯症（赤色菌核病菌）、疑似紋枯症（褐色菌核病菌）、疑似紋枯症（褐色紋枯病菌）、もみ枯細菌病		移植当日	
殺菌	オリゼメート1キロ粒剤	2回	ﾌﾟﾛﾍﾞﾅｿﾞｰﾙ:2回(移植時までの処理は1回以内)	、ﾌﾀｵﾋﾞｺﾔｶﾞ、ﾂﾏｸﾞﾛﾖｺﾊﾞｲ、ｲﾈﾂﾄﾑｼ	1～1.3kg	収穫14日前まで	散布

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	使用時期	使用方法
殺虫	パダン粒剤4	6回	ｶﾙﾀｯﾌﾟ:6回（浸種前は1回以内、浸種後から直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内）	アザミウマ類、イネツトムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ	3～4kg	収穫30日前まで	散布
				サンカメイチュウ第3世代、スクミリンゴガイ（食害防止）	4kg		
殺虫	パダン粉剤DL	6回	ｶﾙﾀｯﾌﾟ:6回（種前は1回以内、浸種後から直播でのは種時又は移植時までの処理は1回以内）	アザミウマ類、イネツトムシ、イネドロオイムシ、コブノメイガ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ	3～4kg	収穫21日前まで	散布
殺虫	トレボン粉剤DL	3回	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ:3回	イナゴ類、ウンカ類、カメムシ類、アザミウマ類、イネミズゾウムシ成虫、イネドロオイムシ、コブノメイガ:ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ	3～4kg	収穫7日前まで	散布
				イネツトムシ	4kg		
				イネヒメハモグリバエ、フタオビコヤガ	3kg		
倒伏軽減	スマレクト粒剤	1回	ﾊﾟｸﾛﾌﾞﾄﾗｿﾞｰﾙ:1回	節間短縮による倒伏軽減	2～3kg	出穂7～20日前	湛水散布
				登熟歩合向上	3kg	出穂10～20日前	
倒伏軽減	ビビフル粉剤DL	1回	ﾌﾟﾛﾍｷｻｼﾞｵﾝｶﾙｼｳﾑ塩:1回	節間短縮による倒伏軽減	3～4kg	出穂5～10日前	散布
殺菌	モンセレン粉剤DL	4回	ﾍﾟﾝｼｸﾛﾝ:4回	紋枯病	3～4kg	収穫21日前まで	散布
殺菌	撒粉ボルドー粉剤DL	制限なし	塩基性硫酸銅:制限なし	稲こうじ病	3～4kg	出穂10日前まで	散布
				墨黒穂病	4kg		
殺菌	Zボルドー粉剤DL	制限なし	塩基性硫酸銅:制限なし	稲こうじ病	3～4kg	出穂10日前まで	散布
				墨黒穂病	4kg		

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	使用時期	使用方法
殺菌	ブラシン粉剤DL	2回	ﾌｪﾘﾑｿﾞﾝ:2回 ﾌｻﾗｲﾄﾞ:3回	いもち病、ごま葉枯病、変色米（ｴﾋﾟｺｯｶﾑ菌）、変色米（ｶｰﾌﾞﾗﾘｱ菌）、穂枯れ（ごま葉枯病菌）、穂枯れ（すじ葉枯病菌）	3～4kg	収穫7日前まで	散布
				もみ枯細菌病、稲こうじ病、内穎褐変病	4kg		
殺菌	ブラシン水和剤	2回	ﾌｪﾘﾑｿﾞﾝ:2回 ﾌｻﾗｲﾄﾞ:3回	いもち病、ごま葉枯病:墨黒穂病、変色米（カーブラリア菌）、変色米（アルタナリア菌）、変色米（エピコッカム菌）、穂枯れ（ごま葉枯病菌）、穂枯れ（すじ葉枯病菌）	1,000倍、60～150L	収穫7日前まで	散布
殺菌	モンガリット粒剤	2回	ｼﾒｺﾅｿﾞｰﾙ:2回 （移植前は1回以内）	紋枯病、疑似紋枯症（褐色紋枯病菌）、疑似紋枯症（赤色菌核病菌）、疑似紋枯症（灰色菌核病菌）、疑似紋枯症（褐色菌核病菌）、稲こうじ病、墨黒穂病	3～4kg	収穫45日前まで	湛水散布
殺虫殺菌	ビームモンセレンスタークル粉剤5DL	3回	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙ:4回(育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内) ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ:4回(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	いもち病、ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ、紋枯病	3～4kg	収穫21日前まで	散布
殺虫殺菌	ビームキラップジョーカー粉剤DL	2回	ｴﾁﾌﾟﾛｰﾙ:2回(は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内) ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙ:4回(育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	いもち病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、カメムシ類	3～4kg	収穫14日前まで	散布
				コブノメイガ、穂枯れ(ごま葉枯病菌)	4kg		
殺虫殺菌	ビームエイトスタークルゾル	3回	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ:4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内) ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙ:4回(育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	いもち病、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、カメムシ類	1,000倍、60～150L	収穫7日前まで	散布
殺虫殺菌	ビームエイトトレボンゾル	3回	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ:3回 ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙ:4回(育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内)	いもち病、ツマグロヨコバイ、ウンカ類、カメムシ類	650倍、100～150L	収穫14日前まで	散布
殺虫殺菌	サジェスト微粒剤F	3回	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙ:4回(育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内) ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ:4回(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内) ﾍﾟﾝｼｸﾛﾝ:4回	いもち病、ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ、紋枯病	3～4kg	収穫21日前まで	散布
殺虫殺菌	ビームスタークル微粒剤F	3回	ﾄﾘｼｸﾗｿﾞｰﾙ:4回(育苗箱への処理は1回以内、本田では3回以内) ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ:4回(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	いもち病、ウンカ類、カメムシ類、ツマグロヨコバイ	3～4kg	収穫7日前まで	散布
殺虫殺菌	イモチエースキラップ粒剤	1回	ｴﾁﾌﾟﾛｰﾙ:2回(播種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内) ﾒﾄﾐﾉｽﾄﾛﾋﾞﾝ:1回	いもち病、ウンカ類、カメムシ類、紋枯病、変色米(ｱﾙﾀﾅﾘｱ菌、ｶｰﾌﾞﾘｱ菌)、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、墨黒穂病	3kg	収穫35日前まで	湛水散布
殺菌	モンセレンフロアブル	4回	ﾍﾟﾝｼｸﾛﾝ:4回	紋枯病	－	収穫21日前まで	散布
殺虫	スタークル粉剤DL	3回	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ:4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	イナゴ類、ウンカ類、カメムシ類、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガ、ツマグロヨコバイ	3kg	収穫7日前まで	散布
殺虫	スタークル粒剤	3回	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ:4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	ウンカ類、カメムシ類、イネドロオイムシ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、イネミズゾウムシ	3kg	収穫7日前まで	散布
殺虫	スタークル液剤10	3回	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ:4回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	ツマグロヨコバイ、ウンカ類、カメムシ類	1000倍 60～150L	収穫7日前まで	散布
				ウンカ類、カメムシ類	300倍 25L		
殺虫	キラップ粒剤	2回	ｴﾁﾌﾟﾛｰﾙ:2回以内(は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内)	ウンカ類、カメムシ類	3kg	収穫14日前まで	湛水散布
殺虫	キラップ微粒剤	2回	ｴﾁﾌﾟﾛｰﾙ:2回以内(は種時(直播)又は移植時までの処理は1回以内)	ｳﾝｶ類、ｶﾒﾑｼ類、ｲﾈﾄﾞﾛｵｲﾑｼ、ｲﾅｺﾞ類	3～4kg/10a	収穫14日前まで	散布

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
初期	ソルネット1キロ粒剤	1回	ﾌﾟﾚﾃﾗｸﾛｰﾙ(4.0%):2回	水田一年生雑草、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ	1kg	－	植代後～移植前7日又は移植直後～ノビエ1葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	砂壌土～埴土
							移植時	田植同時散布機で施用	砂壌土～埴土
初期	マーシェット乳剤	1回	ﾌﾞﾀｸﾛｰﾙ(32%):2回	水田一年生雑草	1,000～1,500ml	－	乾田直播の播種直後～稲出芽前（雑草発生前）（入水15日前まで）	全面土壌散布	－
初中期（粒）	エンペラー1キロ粒剤	1回	ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(2.0%):2回 ﾋﾟﾘﾐﾉﾊﾞｯｸﾒﾁﾙ(0.75%):2回 ﾌｪﾝｷﾄﾘｵﾝ(3.0%):2回	一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、アオミドロ・藻類による表層はく離	1kg	－	移植直後～ノビエ3葉期 但し、収穫75日前まで	湛水散布	－
							移植時	田植同時散布機で施用	－
				ウリカワ、セリ、ヒルムシロ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、一年生雑草			稲出芽揃期～ﾉﾋﾞｴ3葉期 但し、収穫75日前まで （※直播登録内容）	湛水散布	－
初中期（豆）	エンペラー豆つぶ250	1回	ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(8.0%):2回 ﾋﾟﾘﾐﾉﾊﾞｯｸﾒﾁﾙ(3.0%):2回 ﾌｪﾝｷﾄﾘｵﾝ(12.0%):2回	一年生雑草、多年生広葉雑草 ｱｵﾐﾄﾞﾛ・藻類による表層はく離	250g	－	移植直後～ノビエ3葉期 但し、収穫75日前まで	湛水散布、湛水周縁散布、水口施用又は無人航空機による散布	－
初中期（粒）	バッチリLX1キロ粒剤	1回	ｲﾏｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(0.9%):2回 ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ(0.4%):2回 ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(2.0%):2回 ﾌﾟﾛﾓﾌﾞﾀﾄﾞ(9.0%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層剥離	1kg	－	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
							移植時	田植同時散布機で施用	
初中期(FG)	バッチリLX400FG	1回	ｲﾏｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(2.25%):2回 ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ(0.75%):2回 ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(5.0%):2回 ﾌﾟﾛﾓﾌﾞﾀﾄﾞ(22.5%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層はく離	1kg	－	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
初中期（粒）	コメット1キロ粒剤	1回	ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ(2.0%):2回 ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(2.0%):2回 ﾒﾀﾞｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(0.60%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層剥離	1kg	－	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	－
							移植時	田植同時散布機で施用	
初中期（粒）	銀河1キロ粒剤	1回	ﾀﾞｲﾑﾛﾝ(10%):3回 ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(2.0%):2回 ﾒﾀﾞｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(1.0%):2回	水田一年生雑草、ウリカワ、ヒルムシロ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、セリ、オモダカ、クログワイ、ヘラオモダカ、コウキヤガラ、シズイ	1kg	－	移植直後～ノビエの3葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
							移植時	田植同時散布機で施用	
初中期（粒）	シリウスエグザ1キロ粒剤	1回	ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ(0.4%):2回 ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(2.0%):2回 ﾋﾟﾗｿﾞｽﾙﾌﾛﾝｴﾁﾙ(0.3%):1回 ﾍﾟﾝｿﾞﾋﾞｼｸﾛﾝ(2.0%):3回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層剥離	1kg	－	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	－
							移植時	田植同時散布機で施用	
初中期(JB)	シリウスエグザジャンボ	1回	ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ(1.4%):2回 ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(6.6%):2回 ﾋﾟﾗｿﾞｽﾙﾌﾛﾝｴﾁﾙ(1.0%):1回 ﾍﾟﾝｿﾞﾋﾞｼｸﾛﾝ(6.7%):3回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、アオミドロ・藻類による表層剥離	小包装（ﾊﾟｯｸ）10個（300g）	－	移植直後～ノビエ2.5葉期 但し、移植後30日まで	水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	－
初中期（粒）	ディオーレ1キロ粒剤	1回	ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ(0.4%):2回 ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ(2.0%):2回 ﾒﾀﾞｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(1.0%):2回	一年生雑草及び、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ	1kg	－	移植時	田植同時散布機で施用	－
							移植直後～ノビエ3.0葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布又は、無人航空機による散布	
初中期(FL)	ディオーレフロアブル	1回	ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ(0.8%):2回 ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ(4.0%):2回 ﾒﾀﾞｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(2.0%):2回	一年生雑草及び、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ	500ml	－	移植後3日～ノビエ3.0葉期 但し、移植後30日まで	原液湛水散布	－
初中期(JB)	ディオーレジャンボ	1回	ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ(1.0%):2回 ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ(5.0%):2回 ﾒﾀﾞｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(2.5%):2回	一年生雑草及び、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ	小包装（ﾊﾟｯｸ）10個（400g）	－		水田に小包装(ﾊﾟｯｸ)のまま投げ入れる。	－
初中期（顆粒）	ディオーレ顆粒	1回	ｵｷｻｼﾞｸﾛﾒﾎﾝ(5.0%):2回 ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ(25.0%):2回 ﾒﾀﾞｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(12.5%):2回	一年生雑草及び、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズカヤツリ、ヒルムシロ、セリ	80g	－		湛水散布又は、無人航空機による滴下	－

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
初中期（粒）	キマリテ1キロ粒剤	1回	ｲﾌﾟﾌｪﾝｶﾙﾊﾞﾝｿﾞﾝ(2.5%):2回 ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ(3.0%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、クログワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ	1kg	－	移植直後～ノビエ3葉期但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機による散布	－
							移植時	田植同時散布機で施用	
初中期（粒）	プライオリティ粒剤	1回	ﾄﾘｱﾌｧﾓﾝ(0.5%) ﾌｪﾝｷﾉﾄﾘｵﾝ(3.0%)	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、キシュウスズメノヒエ	1kg	－	移植時	田植同時散布機で施用	
							移植直後～ノビエ3.5葉期但し、移植後30日まで	湛水散布	
初中期（粒）	アッパレZ 1キロ粒剤	1回	ﾋﾟﾗｸﾛﾆﾙ(2.0%):2回 ﾌﾟﾛﾋﾟﾘｽﾙﾌﾛﾝ(0.9%):2回 ﾌﾟﾛﾋﾟﾌﾞﾅﾄﾞ(9.0%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズガヤツリ、クログワイ、ヒルムシロ、セリ、エゾノサヤヌカグサ、オモダカ、コウキヤガラ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層剥離	1kg	－	移植直後～ノビエ3葉期但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
							移植時	田植同時散布機で施用	－
初中期（粒）	ガンガン1キロ粒剤	1回	ﾋﾟﾘﾐｽﾙﾌｧﾝ(0.50%):2回 ﾌｪﾉｷｻｽﾙﾎﾝ(2.0%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、エゾノサヤヌカグサ、アオミドロ・藻類による表層剥離	1kg	－	移植直後～ノビエ3葉期但し、移植後30日まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
							移植時	田植同時散布機で施用	－
初中期（豆）	ガンガン豆つぶ250	1回	ﾋﾟﾘﾐｽﾙﾌｧﾝ(2.0%):2回 ﾌｪﾉｷｻｽﾙﾎﾝ(8.0%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ、アオミドロ・藻類による表層剥離	250g	－	移植後3日～ノビエ2.5葉期但し、移植後30日まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
初中期（粒）	ジェイソウル 1キロ粒剤	1回	ｼｸﾛﾋﾟﾘﾓﾚｰﾄﾞ(3.0%):2回 ﾋﾟﾗｿﾞﾚｰﾄﾞ(6.0%):2回 ﾌｪﾝﾄﾗｻﾞﾐﾄﾞ(3.0%):1回	一年生雑草及び、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、エゾノサヤヌカグサ、アオミドロ・藻類による表層はく離	1kg	－	移植時	田植同時散布機で施用	
							移植直後～ノビエ2.5葉期ただし、移植後30日まで	湛水散布又は無人航空機散布	
初中期(JB)	ジェイソウル ジャンボ	1回	ｼｸﾛﾋﾟﾘﾓﾚｰﾄﾞ(6.7%):2回 ﾋﾟﾗｿﾞﾚｰﾄﾞ(13.3%):2回 ﾌｪﾝﾄﾗｻﾞﾐﾄﾞ(4.5%):1回	一年生雑草及び、マツバイ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリ、ウリカワ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、シズイ、エゾノサヤヌカグサ、アオミドロ・藻類による表層はく離	小包装（ﾊﾟｯｸ）10個（450g）	－	移植後1日～ノビエ2.5葉期ただし、移植後30日まで	水田に小包装（パック）のまま投げ入れる。	－
中後期	モゲトン粒剤	3回	ACN(9.0%):3回	ウキクサ類、藻類(アオミドロ、アミミドロ)	2～3kg	－	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
				ウリカワ、ヒルムシロ	3～4kg	－	ウリカワの増殖初期 ヒルムシロの発生始～増殖始 但し、収穫45日前まで		
				藻類による表層はく離	1～2kg	－	藻類・表層はく離の発生時 但し、収穫45日前まで		－
後期	ヒエクリーン 1キロ粒剤	1回	ﾋﾟﾘﾐﾉﾊﾞｯｸﾒﾁﾙ(1.2%):2回	ノビエ	1kg	－	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布又は無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布	－
後期	ヒエクリーン 豆つぶ250	1回	ﾋﾟﾘﾐﾉﾊﾞｯｸﾒﾁﾙ(4.8%):2回	ノビエ	250g	－	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、収穫45日前まで	湛水散布、湛水周縁散布又は無人ﾍﾘｺﾌﾟﾀｰによる散布	－
後期	クリンチャー 1キロ粒剤	2回	ｼﾊﾛﾎｯﾌﾟﾌﾞﾁﾙ(1.8%):3回	ノビエ、キシュウスズメノヒエ、アゼガヤ	1kg	－	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	－
					1.5kg		移植後25日～ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで		
後期	クリンチャー ジャンボ	2回	ｼﾊﾛﾎｯﾌﾟﾌﾞﾁﾙ(1.8%):3回	ノビエ、キシュウスズメノヒエ、アゼガヤ	小包装（パック）20個（1kg）	－	移植後7日～ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	－
					小包装（パック）30個（1.5kg）		移植後25日～ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで		

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
後期	クリンチャーEW	2回	ｼﾊﾛﾎｯﾌﾟﾌﾞﾁﾙ(30%):3回	ノビエ、キシュウスズメノヒエ、アゼガヤ	100ml	25～100L	移植後20日～ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで	湛水散布又は落水散布	－
後期	クリンチャーバスME液剤	2回	ｼﾊﾛﾎｯﾌﾟﾌﾞﾁﾙ(3.0%):3回 ﾍﾞﾝﾀｿﾞﾝ(20%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、オモダカ、クログワイ、セリ、コウキヤガラ、シズイ、キシュウスズメノヒエ	1,000ml	70～100L	移植後15日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	－
後期	トドメMF1キロ粒剤	3回	ﾒﾀﾐﾎｯﾌﾟ(1.35%):3回	ノビエ	1kg	－	移植後14日～ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで	湛水散布又は無人航空機による散	－
後期	トドメMF乳剤	2回	ﾒﾀﾐﾎｯﾌﾟ(4.9%):3回（乳剤及び液剤は合計2回以内）	ノビエ、キシュウスズメノヒエ、アゼガヤ	200ml	25～100L	移植後14日～ノビエ7葉期 但し、収穫50日前まで	湛水散布又は落水散布	－
後期	ロイヤント乳剤	2回	ﾌﾛﾙﾋﾟﾗｳｷｼﾌｪﾝﾍﾟﾝｼﾞﾙ(2.7%):3回	ノビエ、ウリカワ、セリ、マツバイ、ミズガヤツリ、一年生広葉雑草	200ml	100L	移植後20日～ノビエ5葉期 但し、収穫45日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布又は湛水散布	－
				エゾノサヤヌカグサ、オモダカ、アゼガヤ				落水散布又はごく浅く湛水して散布	－
				ノビエ、ウリカワ、セリ、ミズガヤツリ、一年生広葉雑草			稲3葉期～ノビエ5葉期 但し、収穫45日前まで	乾田・落水状態で雑草茎葉散布又は全面散布	－
後期	レブラス 1キロ粒剤	1回	ｼﾞﾒﾀﾒﾄﾘﾝ(1%):2回 ﾀﾞｲﾑﾛﾝ(10%):3回（育苗箱1回、本田2回） ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ(3%):2回 ﾒﾀﾞｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(1.2%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ	1kg	－	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	湛水散布又は無人航空機による散布	－
後期	レブラスジャンボ	1回	ｼﾞﾒﾀﾒﾄﾘﾝ(2.5%):2回 ﾀﾞｲﾑﾛﾝ(25%):3回（育苗箱1回、本田2回） ﾃﾌﾘﾙﾄﾘｵﾝ(7.5%):2回 ﾒﾀﾞｿﾞｽﾙﾌﾛﾝ(3%):2回	水田一年生雑草、マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリ、ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ	小包装（ﾊﾟｯｸ）10個（400g）	－	移植後14日～ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで	水田に小包装（パック）のまま投げ入れる	－
後期	ノミニー液剤	1回	ﾋﾞｽﾋﾟﾘﾊﾞｯｸﾅﾄﾘｳﾑ(2.0%):1回	クサネム、イボクサ	50～100ml	100L	移植後30日～クサネムの草丈40cmまで 但し、収穫60日前まで 移植後30日～イボクサの茎長30cmまで 但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	－
後期	バサグラン粒剤（ナトリウム塩）	1回	ﾍﾞﾝﾀｿﾞﾝ(11%):2回	水田一年生雑草(イネ科を除く)、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、クログワイ、エゾノサヤヌカグサ、シズイ	3～4kg	－	移植後15～55日 但し、収穫60日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	－
後期	バサグラン液剤（ナトリウム塩）	2回	ﾍﾞﾝﾀｿﾞﾝ(40%):2回	水田一年生雑草(イネ科を除く)、ウリカワ、オモダカ、ヘラオモダカ、ホタルイ、マツバイ、ミズガヤツリ、クログワイ、コウキヤガラ、クサネム、エゾノサヤヌカグサ、シズイ	500～700ml	70～100L	移植後15～55日 但し、収穫50日前まで	落水散布又はごく浅く湛水して散布	－

農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	作物名または適用場所
ラウンドアップマックスロード	3回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:3回	スギナ	1,500～2,000ml	通常散布50～100L 少量散布25～50L	雑草生育期	雑草茎葉散布	公園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等
			一年生雑草	200～500ml		雑草生育期		
			多年生雑草	500～1,000ml				
			ススキ、ヒレハリソウ、クズ等のつる性多年生雑草、ササ類、雑かん木	1,000～2,000ml		雑草生育期		
	2回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:2回	一年生雑草及び多年生広葉雑草	200～500ml	通常散布50～100L 少量散布5～50L	雑草生育期（但し、耕起前）	雑草茎葉散布	水田耕起前（移植水稲）
	1回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:1回	一年生雑草	200～500ml	通常散布50～100L 小量散布5～50L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田刈跡
			多年生雑草	500～1,000ml				
	3回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:3回	一年生雑草	200～500ml	通常散布50～100L、少量散布25～50L	雑草生育期(水田畦畔は収穫前日まで)	雑草茎葉散布	水田畦畔
			多年生雑草	200～1,000ml				
			スギナ	1,500～2,000ml				
			一年生雑草及び多年生広葉雑草	500～1,000ml	少量散布5～25L			
			一年生雑草	200～500ml	通常散布50～100L 少量散布5～50L	雑草生育期	雑草茎葉散布	休耕田
			多年生雑草	500～1,000ml				
			スギナ	1,500～2,000ml	通常散布50～100L 少量散布25～50L			
サンフーロン液剤	3回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:3回	スギナ	2,000ml	50～100L	雑草生育期	雑草茎葉散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等
			一年生雑草	500ml	100L	雑草生育期		
			多年生雑草	1,000ml	100L	雑草生育期		
	2回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:3回	一年生雑草	250～500ml	50～100L	雑草生育期 但し、収穫14日前まで	雑草茎葉散布	水田畦畔
			多年生雑草	500～1,000ml				
	1回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:1回	一年生雑草	250～500ml	50～100L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田作物（水田刈跡）
	1回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:2回	一年生雑草	250～500ml	50～100L	雑草生育期但し、耕起20～10日前まで	雑草茎葉散布	水田耕起前（移植水稲）
			多年生雑草	500～1,000ml				
サンダーボルト007	3回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:3回 ﾋﾟﾗﾌﾙﾌｪﾝｴﾁﾙ:3回	スギナ	1000～4,000ml	100L	雑草生育期（草丈30cm以下）	雑草茎葉散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等
		ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:3回 ﾋﾟﾗﾌﾙﾌｪﾝｴﾁﾙ:3回	一年生及び多年生雑草	500～1,000ml		雑草生育期（草丈50cm以下）		
	2回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:3回 ﾋﾟﾗﾌﾙﾌｪﾝｴﾁﾙ:2回	一年生及び多年生雑草	50～150ml	100L	雑草生育期又は刈取後再生期 但し、収穫14日前まで	雑草茎葉散布	水田畦畔（草丈抑制による刈込軽減）
			一年生及び多年生雑草	400～600ml		収獲14日前まで （雑草生育期：草丈30cm以下）		水田畦畔
	1回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:1回 ﾋﾟﾗﾌﾙﾌｪﾝｴﾁﾙ:1回	一年生雑草	400～600ml	100L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田作物（水田刈跡）
			多年生雑草	500～2,000ml				

農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	作物名または適用場所
バスタ液剤	3回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ:3回	一年生雑草	500～1,000ml	100～200L	雑草生育期	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面、鉄道等
			多年生雑草	1,000～2,000ml				
	1回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ:1回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草生育期(耕起15日前まで)	雑草茎葉散布	水田作物（水田耕起前）
	1回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ:1回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田刈跡
	2回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ:2回	一年生雑草、多年生雑草	500～1,000ml	100～150L	雑草生育期(草丈30cm以下) 但し、収穫7日前まで	雑草茎葉散布	水田作物（水田畦畔）
	3回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ:3回	一年生雑草、多年生雑草	500～1,000ml	100～150L	雑草生育期(草丈50cm以下)	雑草茎葉散布	水田作物・畑作物（休耕田）
ザクサ液剤	1回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄPﾅﾄﾘｳﾑ塩:1回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草生育期（草丈30cm以下）	雑草茎葉散布	水田作物（水田耕起前）
	1回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄPﾅﾄﾘｳﾑ塩:1回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	雑草生育期（草丈30cm以下）	雑草茎葉散布	水田作物（水田刈跡）
	2回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄPﾅﾄﾘｳﾑ塩:2回	一年生雑草、多年生雑草	500～1,000ml	100～150L	雑草生育期(草丈30cm以下) 但し、収穫7日前まで	雑草茎葉散布	水田作物（水田畦畔）
カソロン粒剤6.7	1回	DBN:1回	一年生雑草及び多年生広葉雑草（まめ科を除く）、スギナ	4～6kg	－	秋冬期～春期の雑草発生前～発生始期	全面土壌散布	水田畦畔
	1回	DBN:1回	水田一年生雑草、マツバイ	4～6kg	－	4～7月の雑草発生前～発生始期	全面土壌均一散布又は土壌混和処理	休耕田
	3回	DBN:3回	一年生雑草	6～9kg	－	雑草発生前～雑草発生始期	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面土壌散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等
			多年生広葉雑草 スギナ	10～15kg	－			
ダイロンゾル	1回	DCMU:1回	一年生雑草	200～250ml	100L	雑草発生前～生育初期但し収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	水田畦畔
	3回	DCMU:3回	一年生雑草	1,000～2,000ml	100L	雑草発生前～生育初期	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布又は全面土壌散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等
		DCMU:3回	コケ類	500～1,000ml	100～200L	コケ類生育期		
カーメックスD	1回	DCMU:1回	一年生雑草	150～300g	70～100L	雑草発生前～雑草発生初期	散布(茎葉兼土壌処理)	水田畦畔
	3回	DCMU:3回	一年生雑草	300～600g	100～200L	雑草発生前～生育初期	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布又は全面土壌散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、運動場、宅地、のり面等
			多年生広葉雑草	1,000～2,000g		生育初期～生育中期		

農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	作物名または適用場所
プリグロックスL	3回	ｼﾞｸﾜｯﾄ:3回 ﾊﾟﾗｺｰﾄ:3回	スギナ	1,000～2,000ml	100～150L	スギナ生育期	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草茎葉散布	公園、庭園、堤とう、駐車場、道路、宅地、のり面等
			一年生雑草	800～1,000ml	100～150L	雑草生育期		
			多年生雑草	1,500～2,000ml	100～150L	雑草生育期		
	5回	ｼﾞｸﾜｯﾄ:5回 ﾊﾟﾗｺｰﾄ:5回	一年生雑草	600～1,000ml	100～150L	雑草生育期	雑草茎葉散布	水田畦畔
			多年生雑草	1,000～2,000ml				
	1回	ｼﾞｸﾜｯﾄ:1回 ﾊﾟﾗｺｰﾄ:2回	一年生雑草	800～1,000ml	100～150L	秋期稲刈取後又は春期水田耕起1ヶ月前から直前まで	雑草茎葉散布	移植水稲（刈取後または耕起前）
	4回	ｼﾞｸﾜｯﾄ:4回 ﾊﾟﾗｺｰﾄ:4回	一年生雑草	800～1,000ml	100～150L	雑草生育期	雑草茎葉散布	休耕田
	1回	ｼﾞｸﾜｯﾄ:1回 ﾊﾟﾗｺｰﾄ:2回	一年生雑草	600～1,000ml	100～150L	秋期稲刈取後又は春期水田耕起1ヶ月前から直前まで又は雑草生育期、は種前14日～は種後7日（イネ出芽前）	雑草茎葉散布	直播水稲
2,4Dアミン塩	3回	2,4-PA:3回	一年生及び多年生広葉雑草	100g	100L	雑草生育期（草丈30cm以下） 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布	水田畦畔
MCP ソーダ塩	3回	MCPAﾅﾄﾘｳﾑ塩:3回	一年生及び多年生広葉雑草、スギナ	200～400g	100L	雑草生育期（草丈30cm以下） 但し、収穫14日前まで	雑草茎葉散布	水田畦畔
クロレートS	制限なし	塩素酸塩:制限なし	一年生雑草、多年生イネ科雑草	20～25kg	－	水稲刈取後（秋期雑草生育期）	全面土壌散布	水田刈取跡
			オモダカ	30～40kg				
			一年生雑草	20～40kg				水田畦畔
			一年生雑草、多年生イネ科雑草	30～60kg		雑草生育期		休耕田

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
種子処理	キヒゲンR－2フロアブル	1回	ﾁｳﾗﾑ:1回	紫斑病、苗立枯病、タネバエ	乾燥種子1kg当り原液20ml	－	播種前	塗沫処理	－
種子処理	キヒゲン	1回	ﾁｳﾗﾑ:1回	紫斑病、ハト、タネバエ	乾燥種子重量の1%	－	播種前	種子粉衣	－
種子処理	クルーザーFS30	1回	ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ:3回(は種前の塗沫処理は1回、播種後は2回)	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ	乾燥種子1kg当り原液6ml	－	播種前	塗沫処理	－
種子処理	クルーザーMAXX	1回	ﾁｱﾒﾄｷｻﾑ:3回(は種前の塗沫処理は1回、播種後は2回)、ﾌﾙｼﾞｵｷｿﾆﾙ:1回、ﾒﾀﾗｷｼﾙM:4回（種子粉衣及び播種前の塗沫処理は合計1回以内、播種後は3回以内）	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、リゾクトニア根腐病、茎疫病、苗立枯病（ピシウム菌）、紫斑病、黒根腐病、白絹病	乾燥種子1kg当り8ml	－	播種前	塗沫処理	－
除草	クリアターン細粒剤F	1回	ﾍﾞﾝﾁｵｶｰﾌﾞ:1回、ﾍﾟﾝﾃﾞｨﾒﾀﾘﾝ:1回、ﾘﾆｭﾛﾝ:2回(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)	一年生雑草	4～5kg	－	播種直後(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	クリアターン乳剤	1回	ﾍﾞﾝﾁｵｶｰﾌﾞ:1回、ﾍﾟﾝﾃﾞｨﾒﾀﾘﾝ:1回、ﾘﾆｭﾛﾝ:2回(全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内)	一年生雑草	500～800ml	70～100L	播種直後(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	ラクサー乳剤	1回	ｱﾗｸﾛｰﾙ:1回 ﾘﾆｭﾛﾝ2回以内（全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内）	一年生雑草	400～600ml	100L	播種後出芽前（雑草発生前）	全面土壌散布	－
除草	ラクサー粒剤	1回	ｱﾗｸﾛｰﾙ:1回 ﾘﾆｭﾛﾝ2回以内（全面土壌散布は1回以内、雑草茎葉兼土壌散布は1回以内）	一年生雑草	4～8kg	－	播種後出芽前（雑草発生前）	全面土壌散布	－
除草	ポルトフロアブル	1回	ｷｻﾞﾛﾎｯﾌﾟｴﾁﾙ:1回	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	200～300ml	50～100L	雑草生育期（イネ科雑草の3～10葉期） 但し、収穫30日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	－
除草	ナブ乳剤	1回	ｾﾄｷｼｼﾞﾑ:1回	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	150～200ml	100～150L	雑草生育期イネ科雑草3～5葉期(但し、収穫30日前まで)	雑草茎葉散布又は全面散布	－
除草	プリグロックスL	4回	ｼﾞｸﾜｯﾄ:4回 ﾊﾟﾗｺｰﾄ:4回	一年生雑草	600～1,000ml	100～150L	播種前又は植付前	雑草茎葉散布	－
							播種後出芽前雑草生育期(草丈20cm以下)		
							畦間処理 雑草生育期(草丈30cm以下) 但し、収穫3日前まで		
除草	バスタ液剤	3回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ:3回	一年生雑草	300～500ml	100～150L	株間処理:本葉5葉期以降、雑草生育期） 但し、収穫28日前まで	雑草茎葉散布	－
							畦間処理:雑草生育期 但し、収穫28日前まで	雑草茎葉散布	－

農薬の使用基準一覧　　大豆

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
除草	大豆バサグラン液剤	1回	ﾍﾞﾝﾀｿﾞﾝ:2回（畦間処理は1回）	一年生雑草（イネ科を除く）	100～150ml	100L	だいずの2葉期～開花前（雑草の生育初期～6葉期） 但し、収穫45日前まで	雑草茎葉散布又は全面散布	－
					300～500ml	100L	だいずの生育期（雑草の生育初期～6葉期） 但し、収穫45日前まで	畦間雑草茎葉散布	
除草	ラウンドアップマックスロード	2回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ:4回	一年生雑草	200～500ml	通常散布 50～100L 少量散布 5～50L	耕起前又は出芽前まで(雑草生育期)	雑草茎葉散布	－
						通常散布 50～100L 少量散布 25～50L	畦間処理 収穫前日まで(雑草生育期)		
殺菌	撒粉ボルドー粉剤DL	制限なし	塩基性硫酸銅:制限なし	紫斑病	3～4kg	－	－	散布	－
				茎疫病、べと病、葉焼病	4kg				
殺菌	Zボルドー粉剤DL	制限なし	塩基性硫酸銅:制限なし	紫斑病、茎疫病	3kg	－	－	散布	－
混合	アミスタートレボンSE	2回	ｱｿﾞｷｼｽﾄﾛﾋﾞﾝ:2回、ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ:2回	紫斑病、カメムシ類、マメシンクイガ、アブラムシ類	1000倍	100～400L	収穫14日前まで	散布	－
				紫斑病、カメムシ類、マメシンクイガ	8倍	800ml	収穫21日前まで	無人航空機による散布	－
混合	スミチオンベルクート粉剤DL	4回	MEP:4回、ｲﾐﾉｸﾀｼﾞﾝ:4回（種子粉衣は1回以内）	紫斑病、カメムシ類、マメシンクイガ	3kg	－	開花期～若莢期 但し、収穫21日前まで	散布	－
殺虫	カスケード乳剤	2回	ﾌﾙﾌｪﾉｸｽﾛﾝ:2回	カメムシ類、ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、ハダニ類、マメシンクイガ、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤタマバエ	4000倍	100～300L	収獲7日前まで	散布	－
					32倍	0.8L		無人航空機による散布	－
殺虫	プレバソンフロアブル5	2回	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ:2回	ウコンノメイガ、オオタバコガ、マメシンクイガ、ハスモンヨトウ	4000倍	100～300L	収獲7日前まで	散布	－
				ウコンノメイガ、マメシンクイガ、ハスモンヨトウ	16～32倍	0.8L		無人航空機による散布	－
殺虫	スタークル液剤10	2回	ｼﾞﾉﾃﾌﾗﾝ:3回以内（播種時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内）	カメムシ類、フタスジヒメハムシ、ダイズサヤタマバエ	1000倍	100～300L	収穫7日前まで	散布	－
				カメムシ類、ダイズサヤタマバエ	8倍	0.8L		無人航空機による散布	－
殺虫	Mr. ジョーカー粉剤DL	2回	ﾐﾗﾌﾙｵﾌｪﾝ:2回以内	カメムシ類	4kg	－	収穫7日前まで	散布	－
殺虫	トレボン粉剤DL	2回	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ:2回	アブラムシ類、カメムシ類、フタスジヒメハムシ、シロイチモジマダラメイガ、アズキノメイガ、マメシンクイガ、ダイズサヤタマバエ、ハスモンヨトウ	4kg	－	収穫14日前まで	散布	－
殺虫	トレボン乳剤	2回	ｴﾄﾌｪﾝﾌﾟﾛｯｸｽ:2回	アブラムシ類、ウコンノメイガ、ウラナミシジミ、カメムシ類、シロイチモジマダラメイガ、ダイズサヤタマバエ、ハスモンヨトウ、アズキノメイガ、フタスジヒメハムシ、マメシンクイガ、ツメクサガ	1000倍	100～300L	収穫14日前まで	散布	－
殺虫	ニッソラン水和剤	2回	ﾍｷｼﾁｱｿﾞｸｽ:2回	ハダニ類	2000～3000倍	100～300L	収穫7日前まで	散布	－

農薬の使用基準一覧　　大麦

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
種子処理	ベンレートTコート	1回	ﾁｳﾗﾑ:1回 ﾍﾞﾉﾐﾙ:1回	なまぐさ黒穂病、条斑病、斑葉病、裸黒穂病	乾燥種子重量の0.5%	－	播種前	種子粉衣	－
種子処理	ベンレートT水和剤20	1回	ﾁｳﾗﾑ:1回 ﾍﾞﾉﾐﾙ:1回	なまぐさ黒穂病、条斑病、斑葉病、裸黒穂病	20倍	－	播種前	10～20分間種子浸漬	
					200倍	－		6～24時間種子浸漬	
					7.5倍（乾燥種籾1Kg当り希釈液30ml）	－		種子吹付処理	
				雲形病、なまぐさ黒穂病、条斑病、斑葉病、裸黒穂病	乾燥種子重量の0.5%	－		種子粉衣	
除草	トレファノサイド粒剤2．5	2回	ﾄﾘﾌﾙﾗﾘﾝ:2回	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	4～5kg	－	播種後出芽前	全面土壌散布	砂壌土～埴土
					4～5kg	－	生育期雑草発生前但し、収穫45日前まで	全面土壌散布	砂壌土～埴土
除草	トレファノサイド乳剤	2回	ﾄﾘﾌﾙﾗﾘﾝ:2回	一年生雑草（ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く）	200～300ml	100L	播種後出芽前（雑草発生前）	全面土壌散布	
							生育期（雑草発生前） 但し、収穫45日前まで	全面土壌散布	
除草	クリアターン細粒剤F	1回	ﾍﾞﾝﾁｵｶｰﾌﾞ:1回 ﾍﾞﾝﾃﾞｨﾒﾀﾘﾝ:1回 ﾘﾆｭﾛﾝ:1回	一年生雑草	4～5kg	－	播種直後(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	クリアターン乳剤	1回	ﾍﾞﾝﾁｵｶｰﾌﾞ:1回 ﾍﾞﾝﾃﾞｨﾒﾀﾘﾝ:1回 ﾘﾆｭﾛﾝ:1回	一年生雑草	500～700ml	70～100L	播種直後(雑草発生前)	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	リベレーターG	1回	ｼﾞﾌﾙﾌｪﾆｶﾝ:1回 ﾌﾙﾌｪﾅｾｯﾄ:1回	一年生雑草	4～5kg	－	播種後～麦2葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	リベレーターフロアブル	1回	ｼﾞﾌﾙﾌｪﾆｶﾝ:1回 ﾌﾙﾌｪﾅｾｯﾄ:1回	一年生雑草	60～80ml	100L	播種後～麦3葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）	雑草茎葉散布又は全面土壌散布	全土壌(砂土を除く)
除草	アクチノール乳剤	2回	ｱｲｵｷｼﾆﾙ:2回	畑地一年生広葉雑草	100～200ml	70～100L	穂ばらみ期まで（雑草生育初期）	雑草茎葉散布	－
除草	ハーモニー75DF水和剤	1回	ﾁﾌｪﾝｽﾙﾌﾛﾝﾒﾁﾙ:1回	カズノコグサ	10g	100L	麦1葉期～節間伸長期（土壌処理剤との体系処理で使用）	雑草茎葉散布又は全面散布	－
				スズメノテッポウ、一年生広葉雑草	5～10g		麦1葉期～節間伸長期		
							播種後～節間伸長前	雑草茎葉散布又は全面散布	

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
殺菌	トップジンM粉剤DL	3回（出穂期以降は1回以内）	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ:3回（種子への処理は1回以内、出穂期以降1回以内	赤かび病	4kg	－	収穫14日前まで	散布	－
殺菌	トップジンMゾル	3回（出穂期以降は1回以内）	ﾁｵﾌｧﾈｰﾄﾒﾁﾙ:3回（種子への処理は1回以内、出穂期以降1回以内	赤かび病	－	1,500倍	収穫14日前まで	散布	－
					－	8倍	収穫21日前まで	無人航空機による散布	－
				雪腐大粒菌核病	－	10倍	根雪前		－
殺菌	ワークアップ粉剤DL	3回	ﾒﾄｺﾅｿﾞｰﾙ:3回	赤かび病、網斑病、うどんこ病、赤さび病	3kg	－	収穫7日前まで	散布	－
殺菌	ワークアップフロアブル	3回	ﾒﾄｺﾅｿﾞｰﾙ:3回	黒点病	60～150L	2000倍～4000倍	収穫7日前まで	散布	0
				赤さび病、うどんこ病、雪腐小粒菌核病、網斑病、黄斑病		2000倍			
				赤かび病		2000倍～3000倍			
					25L	500倍～750倍			
				黒点病、赤さび病、うどんこ病、雪腐小粒菌核病、網斑病、黄斑病		500倍			
				赤かび病	0.8L	10～24倍			
				黒点病、赤さび病、うどんこ病、雪腐小粒菌核病、網斑病、黄斑病		10～16倍		無人航空機による散布	－
殺菌	チルト乳剤25	1回	ﾌﾟﾛﾋﾟｺﾅｿﾞｰﾙ:1回	うどんこ病	60～150L	2,000～3,000倍	収穫21日前まで	散布	－
				雲形病、網斑病		1,000倍			－
				赤かび病		1,000～2,000倍			－
					800ml	8倍		無人航空機による散布	－
畦畔除草	プリグロックスL	4回	ｼﾞｸﾜｯﾄ:4回 ﾊﾟﾗｺｰﾄ:4回	一年生雑草	600～1,000ml	100～150L	播種前又は播種後出芽前	雑草茎葉散布	－
							雑草生育期		圃場内の周縁部
畦畔除草	バスタ液剤	1回	ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄ：4回（播種後は3回以内）	一年生雑草	300～500ml	100～150L	播種前（雑草生育期）	雑草茎葉散布	－
							播種後出芽前（雑草生育期）		
		3回					収穫7日前まで（雑草生育期）		圃場内の周縁部

区分	農薬名	本剤のみを使用する場合の回数制限	成分名及び成分別使用回数制限	適用病害虫または適用雑草名	薬量	希釈水量	使用時期	使用方法	適用土壌
畦畔除草	ラウンドアップマックスロード	3回	ｸﾞﾘﾎｻｰﾄ：3回	一年生雑草	200～500ml	少量散布5～25L	耕起前又はは種前まで（雑草生育期）	雑草茎葉散布	－
				一年生雑草	200～500ml	少量散布5～25L	は種後出芽前（雑草生育期）		－
				一年生雑草	200～500ml	通常散布50～100L、少量散布5	収穫前日まで（雑草生育期）		圃場内の周縁部
				一年生雑草及び多年生ｲﾈ科雑草	200～500ml	通常散布50～100L、少量散布25	耕起前又はは種前まで（雑草生育期）		－
				一年生雑草及び多年生ｲﾈ科雑草	200～500ml	通常散布50～100L、少量散布25	は種後出芽前（雑草生育期）		－
畦畔除草	MCPソーダ塩	1回	MCPAﾅﾄﾘｳﾑ塩：1回	一年生雑草及び多年生広葉雑草	200～300g	25～100L	〔春播麦類〕5葉期 但し、収穫45日前まで	雑草茎葉散布	－
						70～100L	〔秋播麦類〕幼穂形成期 但し、収穫45日前まで		

ＪＡ 白山　　～しっかり記帳、安全・安心の米づくり～

令和 4 年産　水稲生産履歴記録簿【移植用】

見本

1917 － ＿＿＿ － 1

※ 記入上の注意事項

- ■ 品種・栽培方法（移植・直播など）で、別々に1枚ずつ記入して下さい。
- ■ 何筆かある圃場のうち、１筆でも使用したものは記入して下さい。
- ■ この用紙を汚したり、折り曲げたり、穴を開けたりしないで下さい。
- ■ シャープペンシル（0.5㎜ＨＢ）で、丁寧に記入して下さい。
- ■ 不明な点はＪＡまでお問い合わせ下さい。

印

住　　所

生産者名　　電話番号

品　種　名　　作付面積　　a　　筆数　　筆

飼料用米 ☐　加工用米等 ☐

種苗

育苗方法 ☑　☐ＪＡから苗購入　☐自家※1　☐その他から苗購入※2

※1自家の場合は種日を記入　　月　　日 ～　　月　　日

※2その他の場合に農家名等をカタカナで記入　　※☐種子保証票・農薬履歴あり

種子調達先 ☑（自分で種まきした場合のみ記入）

（数量）　☐ＪＡ（　　kg）　☐自家採種（　　kg）　☐その他※（　　kg）

※その他の場合に農家名等をカタカナで記入　　※☐種子保証票あり

床　　土 ☑　☐加工床土　☐原土→肥料名※3（床土銘柄）

※3肥料名またはＰＨ調整剤を記入

栽培

栽培方法 ☑　☑移植　☐直播　☐移植（晩植）　☐移植（農特）　☐移植（全指）

田植（直播）日　　月　　日 ～　　月　　日

出穂時確認 ☑　出穂日　　月　　日　☐異品種の混入が見られなかった

刈取

刈取（予定）日　　月　　日 ～　　月　　日

乾燥・調製 ☑　☐ＪＡ施設　☐自家　☐農家委託等※

※農家委託等の場合に農家名等をカタカナで記入

（ＪＡ使用欄）

支　店　名

組合員コード

品種コード

一次確認	二次確認
/	/

（電算使用欄）

ＯＣＲ読取

2019. 10. 30版

【肥料】

- ■ 使用した肥料に○をつけ、最終施肥日および 10ａ当り使用量 を記入します。
- ■ 掲載していない肥料を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	番号	肥料名	施肥基準	チェック	最終施肥日 月	最終施肥日 日	10a当り使用量	単位
土づくり	104	BBPKけい酸09号	60kg/10a					kg
	109	ケイカル（粒）	160kg/10a					kg
	110	ケイカル（砂）	160kg/10a					kg
	113	白山大地	60kg/10a					kg
		ひゃくまん馬力	60～100kg/10a					kg
	114	ようりんケイカル（粒）	200kg/10a					kg
	118	ダイナマイトソイル	100kg/10a					kg
		その他１						
		その他２						
基肥（活着肥含む）	150	BBコシー発くん1号	40～45kg/10a					kg
	153	BB新早生一発くん	40～50kg/10a					kg
	157	けい酸アップコシー発くん	53～60kg/10a					kg
	158	BB003－40号	30～45kg/10a					kg
	160	BB五百万石一発くん	45kg/10a					kg
	162	BB高度056号	30～50kg/10a					kg
		BBコシー発くんDX24	40～45kg/10a					kg
		BB早生一発くんDX28	40～50kg/10a					kg
	176	硫安（活着肥）	5～10kg/10a					kg
	177	過燐酸石灰	20kg/10a					kg
		その他１						
		その他２						
中間追肥	200	珪酸加里プレミア	40kg/10a					kg
		その他１						
		その他２						

分類	番号	肥料名	施肥基準	チェック	施肥日①	施肥日②	施肥日③
穂肥	253	BBとれるぞう	5～10kg/10a				
	254	BB有機入りいしかわライト550号	20～25kg/10a				
	256	BBLP有機060号	25～35kg/10a				
	263	尿素化成日の本2号					
		その他１					
		その他２					

農薬はウラ面に記入します。

【 農　薬 】

■ 使用した農薬に〇をつけ、最終使用日および 10ａ当り使用量 （苗箱消毒・箱施薬の場合は１箱当り使用量）を記入します。

■ 掲載していない農薬を使用した場合、「その他」欄にカタカナで品名と単位欄を記入します。

分類	番号	農　薬　名	使　用　基　準	チェック	最終使用日 月	最終使用日 日	10a当り 1箱当り 使用量	単位
種子消毒	400	消毒済種子購入						
	401	テクリードCフロアブル 24時間種子浸漬	200倍					
		その他						
苗箱消毒	420	ダコレート水和剤	400～600倍 500～1000ml/箱 倍					ml
	422	タチガレエース液剤	500～1000倍 500ml/箱 倍					ml
	423	タチガレン液剤	500～1000倍 500ml/箱 倍					ml
		その他						
箱施薬	440	薬剤処理済苗購入						
	445	Dr. オリゼフェルテラ粒剤	50g/箱					g
	446	エバーゴルプラス粒剤	50g/箱					g
		その他						
本田随時防除	501	ブラシンフロアブル	1000倍 60～150L/10a 収穫前 21日まで				●	L
	503	モンセレンフロアブル	1500倍 100L/10a 収穫前 21日まで				●	L
	504	ブラシンバリダフロアブル	1000倍 60～150L/10a 収穫前 14日まで				●	L
	506	トレボン粉剤DL	3～4kg/10a 収穫前 7日まで				●	kg
	511	ブラシン粉剤DL	3～4kg/10a 収穫前 21日まで				●	kg
							●	
		その他１					●	
		その他２					●	
		その他液剤１						倍
		その他液剤２						倍
本田仕上防除	550	ヘリ防除①						
	551	ヘリ防除②						
	552	ヘリ防除③						
		Zボルドー粉剤DL	3～4kg/10a 収穫前 10～14日				●	kg
	560	ビームキラップジョーカー粉剤DL	3～4kg/10a 収穫前 14日まで				●	kg
	568	ノンブラスフロアブル	1000倍 60～150L/10a 収穫前 7日まで				●	L
	569	トレボン乳剤	1000～2000倍 60～150L/10a 収穫前 21日まで				●	L
	570	ビームキラップジョーカーフロアブル	1000倍 60～200L/10a 収穫前 14日まで				●	L
	571	ドイツボルドーA	2000倍 60～150L/10a 出穂前 10日まで				●	L
							●	
		その他1					●	
		その他2					●	
		その他液剤１						倍
		その他液剤２						倍
倒伏軽減剤								
		その他						

★ 「苗箱消毒」では、使用基準欄に希釈倍率を記入して下さい。

★ 「その他液剤」を使用した場合は、使用量欄には希釈倍率を記入して下さい。

品種名 [　　]　1917 － [　　] － 2

分類	番号	農　薬　名	使　用　基　準	チェック	最終使用日 月	最終使用日 日	10a当り使用量	単位
初期除草剤	600	ソルネット1キロ粒剤	1kg/10a 移植後～30日				●	kg
							●	
		その他１					●	
		その他２					●	
一発除草剤	652	ガンガン1キロ粒剤	1kg/10a 移植後～30日				●	kg
	653	エンペラー1キロ粒剤	1kg/10a 収穫前 75日まで				●	kg
		キマリテ1キロ粒剤	1kg/10a 移植後 5～30日				●	kg
		アッパレZ1キロ粒剤	1kg/10a 移植後～30日				●	kg
	668	シリウスエグザ1キロ粒剤	1kg/10a 移植後～30日				●	kg
	679	銀河1キロ粒剤	1kg/10a 収穫前 60日まで				●	kg
		バッチリLX1キロ粒剤51	1kg/10a 移植後～30日				●	kg
							●	
							●	
							●	
		その他１					●	
		その他２					●	
中・後期除草剤	701	アクシズMX1キロ粒剤 移植後7日～	1kg/10a 収穫前 45日まで				●	kg
	705	ヒエクリーン1キロ粒剤 移植後15日～	1kg/10a 収穫前 45日まで				●	kg
	706	バサグラン粒剤 収穫60日前まで	3～4kg/10a 移植後 15～50日				●	kg
	708	クリンチャー1キロ粒剤 移植後7日～	1kg/10a 収穫前 30日まで				●	kg
	709	クリンチャー1キロ粒剤 移植後25日～	1.5kg/10a 収穫前 30日まで				●	kg
	710	クリンチャーEW 移植後20日～	100ml/10a 収穫前 30日まで				●	ml
	715	クリンチャーバスME液剤 移植後15日～	1L/10a 収穫前 50日まで				●	L
		レブラス1キロ粒剤 移植後14日～	1kg/10a 収穫前 60日まで				●	kg
							●	
		その他１					●	
		その他２					●	

分類	番号	農　薬　名	使　用　基　準	チェック	使用日①	使用日②	使用日③	使用日④	使用日⑤
畦畔除草剤	750	ラウンドアップマックスロード	200～2000ml/10a 収穫前 1日まで					３回まで	
	751	バスタ液剤	500～1000ml/10a 収穫前 7日まで				２回まで		
	752	プリグロックスL 5回以内	600～2000ml/10a						
	754	サンフーロン液剤 2回以内	250～1000ml/10a 収穫前 14日まで						
	756	クロレートS 水稲刈取跡	20～25kg/10a						
	757	ザクサ液剤 2回以内	500～1000倍 収穫前 7日まで						
		その他１							
		その他２							

※農薬取締法を遵守し、使用基準を守って使用して下さい。

ＪＡの点検により誤使用が発覚した場合、そのコメは『別扱い』とします。

メ　　モ

野菜を作りましょう!!

所得増大　生産拡大　地域活性

チャレンジ園芸! チャレンジ収益UP!

集落営農･法人･個人生産者の経営状況や、圃場の所有状況に応じ、皆様に合った品目をご提案いたします。水稲の作業と重複が少なく取り組みやすい品目で、ぜひ所得UPを目指しましょう。

（例）10ha 耕作　水稲 7ha **700万円** ＋ 大豆 2ha **50万円** ＋ 園芸 1ha **400万円**

JAの推奨品目

ブロッコリー

白ねぎ

丸いも

※その他　露地品目やハウス品目についてもご相談下さい。

Q1 野菜を作ったことがないんやけど作れるかなぁ

栽培についての勉強会や現地巡回があり、初めて作付される方も指導いたします。

Q2 機械とかもってないんやけど…

貸出できる機械もあり、初期投資が少なく始められます。

Q3 栽培履歴の書き方がわからんげんけど

部会ごとに栽培指針があり、使える農薬もわかりやすく書いてあります。営農指導員が書き方の指導もします。

○お問い合わせ先

JA白山　営農経済部　TEL(076)273-5277

ブロッコリー

育苗 → 畦立て → 定植
→ 追肥・防除（花芽分化） → 収穫

（アブラナ科アブラナ属）

1　ブロッコリーの特徴

○ブロッコリーは、つぼみと若い茎を一緒にたべる葉茎菜類

○春（５～6月収穫）・秋（10～12月収穫）の年2作の作付が可能

○播種時期や品種を変えて、長期間にわたり収穫できる

○収穫適期は短く、ブロッコリーの生育に合わせた作業が必要

○排水対策、連作（根こぶ病）対策が必要

○主な作型

凡例：○播種　◎定植　□収穫期

月	2			3			4			5			6			7		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
春作		○～○				◎		～	◎			□	□□	□□	□□	□□	□	

月	7			8			9			10			11			12		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
秋作		○～			◎	～						□□	□□	□□	□□	□□	□□	□

2　経営試算

粗収益：２８０千円

（単収：７００kg／１０ａ、単価：４００円／kg）

	（円/１０a）
種苗費（種子）	15,000
肥料・農薬費	46,000
諸材料費（育苗資材等）	33,000
販売資材・手数料	93,000
合計	187,000

所得　９３千円
※　固定費（減価償却費）、労賃含む

3　必要な機械・設備

＜栽培工程＞

①育苗
- ビニルハウス （7.2㎡/10a）
- セルトレイ（128穴・32～40枚/10a）
- 播種板
- 育苗用加温機（春作）／遮光ネット（秋作）

②圃場準備
- うね立て成形機

③定植
- 移植機

④防除
- セット動噴　　または　　ブームスプレイヤー

⑤収穫
- コンテナ
- カッター　または　鎌　または　包丁
- 運搬車

調整・選別・出荷

4　注意点・導入のポイント

○JA白山では、共同選果体制が整備されており、面積拡大が可能

○県内市場、関西市場での販売実績があり需要が大きい

○播種時期や品種を変えることで、長期間にわたって収穫できる

○年2作（春・５～6月、秋・10～12月）の作付が可能

○収穫は早朝や温度の低い時間帯に行う

○収穫適期が短く、ブロッコリーの生育に合わせた収穫が必要

○排水対策が必須、連作（根こぶ病等）対策が必要

○産地交付金やＪＡグループの各種助成・事業を受けることができる

白ねぎ

育苗 → 圃場耕起 → 定植
→土寄せ・防除 → 収穫

（ネギ属）

1　ねぎの特徴

○白ねぎは土寄せし日光を遮り白くした葉鞘部を食べる

○生育適温15～20℃（発芽適温：15～20℃/最低1℃･最高33℃）
　比較的冷涼な気候を好み寒さには強い（-8℃でも凍結枯死しない）が暑さは苦手（夏場は25℃以上で草勢弱まる）

○乾燥に強いが、過湿に弱い
　根の酸素要求量は高く、排水不良で生育不良、湛水が続くと枯死する

○栽培適地　黒ぼく土などの壌土か砂壌土（耕土が深く,排水良好）

○主な作型

凡例：○播種　◎定植　□収穫期

作型＼月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏秋どり	○	○	◎	◎				□	□		
秋冬どり		○	○	◎	◎				□	□	□

2　経営試算

粗収益：６９０千円
（単収：2,300kg／10ａ、単価：300円／kg）

	（円/１０a）
種苗費（種子）	66,000
肥料・農薬費	75,000
諸材料費（育苗資材等）	5,000
販売資材・手数料	191,830
合計	337,830

所得　３５２千円
※　固定費（減価償却費）、労賃含む

3　必要な機械・設備

○個人生産・小規模（１０～５０ａ）

①簡易移植機
（ひっぱりくん）

②管理機
（培土機）

③セット動噴
（防除用）

④人力で掘る
（抜き取る）

⑤皮むき機
（ｺﾝﾌﾟﾚｯｻｰ含む）

＜ねぎの栽培工程＞
圃場準備 ＞ ①定植 ＞ ②管理 ③防除 ＞ ④収穫・運搬 ＞ ⑤調整・選別 ＞ 出荷

○大規模生産（５０ａ～）

①簡易移植機
（ひっぱりくん）

②乗用管理機
（ﾊｲｸﾘ乗用
管理機）

③ブーム
スプレイヤー

④自走式収穫機

⑤根葉切り＋皮
むき機
（ベストロボ）

4　注意点・導入のポイント

○収穫期間が長く、出荷日の調整が可能

○機械化一貫体系による大規模栽培が可能

○栽培は比較的容易だが、収穫・出荷調製作業には労力がかかる
→　ねぎ労働時間340h/10aのうち収穫16%、調製33%
※農林水産省資料（2007年）

○平成25年度から県の野菜価格安定制度に加入しています。
→　Ｈ３０保証基準額283円/kg（最低基準額189円/kg）
※10～12月出荷の秀優品が対象

○産地交付金やＪＡグループの各種助成・事業を受けることができる

畦立て→　種芋定植　→　支柱立て・
つる誘引・通水管理・防除　→　収穫

（ヤマノイモ科ヤマノイモ属）

1　丸いもの特徴

○丸いもは、つる性のいも類

○高温を好み、生育適温　22～23℃
　平均気温12℃以上で活動を始め、萌芽するのは20℃以上、
　茎葉生長・いも肥大には23℃以上必要
　13℃を下回ると茎葉は枯葉し始める

○浅根性のため乾燥害を受けやすい
　いも肥大期にはうね間通水等のかん水が必要

○栽培適地　砂壌土（いも肥大期に湿潤となること）

○主な作型　　凡例：○播種　◎定植　□収穫期

作型＼月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋冬どり		○—	○—◎	—◎					□□□□□□□□□□□□		

2　経営試算

粗収益：４５５千円

（単収：６５０kg／１０ａ、単価：７００円／kg）

	（円/１０a）
種苗費（種いも）※1	275,000
肥料・農薬費	73,500
諸材料費（支柱・誘引紐等）	36,000
販売資材・手数料	36,800
合計	421,300

※1：２年目以降は収穫したいもから種いもを確保するため、種苗費（種いも代）が不要

所得　３３千円（３０８千円※1）
※　固定費（減価償却費）、労賃含む

3　必要な機械・設備

＜丸いもの栽培工程＞

圃場選定 ＞ ①種いも定植 ＞ ②除草剤散布 ③支柱立て・誘引 ④防除　⑤通水管理 ＞ ⑥収穫 ＞ 調整・選別・出荷

4　注意点・導入のポイント

○水稲や大豆作業と比較的作業が重ならず、経営形態（個人、法人、集落営農）や規模に合わせた導入が可能

○冬の贈答用などの安定した需要があり高単価が期待できる

○ほ場の選定が重要。排水・通水管理しやすいことが必要

○除草対策も必要

○初期投資（種苗代）がかかる

JA白山

よらんかいねぇ広場

ファーマーズマーケット

出荷者大募集

JA白山農産物直売所「よらんかいねぇ広場」では、新鮮で安全・安心な農産物（野菜、果物、花等）を提供していただける出荷者を募集しています。農業が本職の方も新規就農者の方も、小さな菜園をお持ちの方でも出品できます。地域の特性を活かした「白山農業」の活性化に！直売所を活用した所得向上に！

ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。一人でも多くの方の出荷をお待ちしております。お申し込み・登録、出荷に至るまで詳しい内容は、よらんかいねぇ広場ホームページでご紹介しています。

出荷者になる

お問合せ

●よらんかいねぇ広場　TEL (076) **273-3002**　FAX (076) 273-1977

●営農経済部　TEL (076) **273-5277**　FAX (076) 273-2758